

東京2020
オリンピック
・
パラリンピック
競技大会
福島県記録誌



TOKYO 2020



TOKYO 2020
PARALYMPIC GAMES





福島県知事 内堀 雅雄

2013年(平成25年)、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会は、復興五輪として開催されることが決定しました。福島県では、東京2020大会を、東日本大震災と原子力災害からの復興に取り組む本県の姿と、これまでに頂いた多くの温かい御支援に対する感謝の思いを国内外に発信する絶好の機会と捉え、オール福島で取り組んでまいりました。

こうした中、全世界にまん延した新型コロナウイルス感染症の影響により、東京2020大会は、本来の開催年である2020年(令和2年)から1年延期され、また、大会開催時には多くの競技会場が無観客となり、県内で行われた野球・ソフトボール競技も無観客となりました。

新型感染症による様々な制約がある中、2021年(令和3年)3月25日に本県復興のシンボルであるJヴィレッジでグランドスタートが行われた聖火リレーは、その後47都道府県を巡り、7月23日に、浪江町産水素を燃料とした聖火台へつながりました。

また、県営あづま球場で開催された野球・ソフトボール競技では、日本代表が白熱した試合を繰り広げ、両チームとも金メダルを獲得したほか、様々な競技において本県ゆかりの選手が活躍し、多くの県民に元気と感動を与えてくれました。

さらに、農林水産物を始め、多くの福島県産品が様々な場面で活用され、大会関係者等から高い評価を頂いたことは、本県の復興を国内外に広くアピールできたものと考えております。

東京2020大会は、その準備から大会開催に至るまで、本県に心を寄せてくださる様々な方々とのつながりの中で展開されてきました。

大会を通して得られたつながりを、今後、都市ボランティアの活動や競技団体・アスリートとの交流、ホストタウン交流の継続などにいかしながら、スポーツによる交流人口の拡大、本県の復興の姿やこれまでの御支援に対する感謝の思いの発信などに取り組んでまいります。これも復興五輪のレガシーの一つです。

本誌では、開催の経緯や大会の実績、本県が果たした役割などをまとめています。多くの皆様に御覧いただき、大会の感動が記憶に残ることを願っております。

結びに、大会の運営に当たり多大な御支援を賜りました東京2020組織委員会や東京都など、多くの皆様に心から感謝を申し上げ、発刊のことばといたします。



東京2020組織委員会 会長
橋本聖子

東京2020大会は、「東日本大震災からの復興」を大きな理念の一つとし、被災地が復興しつつある姿を、世界から受けた支援に対する感謝とともに世界に発信するべく、復興オリンピック・パラリンピックとして取組を進めてまいりました。

東日本大震災から10年という節目の年に、オリンピック聖火リレーが福島県のJヴィレッジをグランドスタートし、福島の今の姿を世界中の方々に見て頂くことができました。また大会においては、メダリストへの副賞であるビクトリーブーケに福島県産のトルコギキョウを使用し、選手村カジュアルダイニングでは、被災地の食材を常時活用するなど、復興に貢献したいとの思いから、被災地産を積極的に活用してまいりました。そして、福島あづま球場では、全てのオリンピック競技に先駆けてソフトボール競技が、そして野球競技の初戦が行われました。無観客での開催にはなりましたが、綺麗な人工芝に張り替えられた福島あづま球場で、これまでの大会と変わらずアスリートが躍動することで、復興に尽力されている福島の皆様をはじめ、大会をご覧になったすべての方々に感動や希望が届けられたと思います。

東京2020大会は、新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、史上初めて開催が延期された過去に類を見ない特別な大会となりましたが、コロナ禍の下での最初の世界的なイベントとして、コロナと闘いつつ、社会の営みを継続するための1つのモデルを示すことができたと考えます。福島県の関係者の皆様、医療関係者の皆様、アスリートに寄り添い笑顔を届けてくれたボランティアの皆様など、大会を支え、成功へと導いてくれた全ての方々に感謝申し上げます。

組織委員会は、大会のレガシーをしっかりと構築し、より良い社会への変革へとつなげていけるように、最後まで取り組んでまいります。関係者の皆様のスポーツ界への引き続きのご支援をお願いいたしますとともに、東京大会に携わった全ての方々に、改めて感謝申し上げます。

4	第1章 ■ 競技開催までのあゆみ
5	I 競技開催までの主な経緯
10	II 機運醸成の取組
17	III テストイベント等
18	IV 東京2020大会に向けた国内外代表選手団の合宿誘致
19	V レガシーにつながる取組
19	VI オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業
20	第2章 ■ オリンピックの開催
23	I 野球・ソフトボール競技
28	II 都市ボランティア
32	III 福島県の取組
39	IV 組織委員会と連携した取組
40	V 文化プログラム
42	第3章 ■ 福島県ゆかりの出場アスリート
43	I オリンピアン
45	II パラリンピアン
45	III 監督・コーチなど
46	第4章 ■ 競技開催後の取組
47	I 記念碑・銘板
48	II 東京2020大会記念展示
48	III 東京2020復興のモニュメント
49	IV メダリストの凱旋
49	V 第54回日本女子ソフトボールリーグ1部決勝トーナメント
50	VI オリンピックコンサート2022 in ふくしま
51	VII 東京2020表彰台レガシープロジェクト贈呈式
52	第5章 ■ ホストタウン
53	I 福島県内のホストタウン
58	II 東京2020大会における事前合宿の受入れ
59	III 事前合宿における新型コロナウイルス感染症対策
60	第6章 ■ オリンピック・パラリンピック聖火リレー
61	I 福島県のオリンピック聖火リレー
70	II 福島県のパラリンピック聖火リレー
76	資料編
77	I 東京2020大会開催に向けた福島県の体制
80	II 市町村の取組
80	III 東京2020大会に向けた国内外代表選手団の合宿誘致
83	IV レガシーにつながる取組
85	V 県産品の活用
89	VI 東京2020参画プログラム
91	VII beyond2020プログラム
95	VIII オリンピック聖火リレー
103	IX パラリンピック聖火リレー
109	X 組織の変遷
110	XI 年表

*東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会は「東京2020大会」と表記します。
 *公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会は「組織委員会」と表記します。
 *県営あづま球場は、東京2020大会では「福島あづま球場」と呼称していたため、本誌では「県営あづま球場」と「福島あづま球場」の両方を使用しています。
 ※日付は現地時間、名称や肩書きなどは当時のものです。

第1章

競技開催までのあゆみ

- I 競技開催までの主な経緯
- II 機運醸成の取組
- III テストイベント等
- IV 東京2020大会に向けた国内外代表選手団の合宿誘致
- V レガシーにつながる取組
- VI オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業

第1章 競技開催までのあゆみ

I 競技開催までの主な経緯

1 復興五輪

(1) 東日本大震災の発生

2011年(平成23年)3月11日に発生した東日本大震災は、マグニチュード9.0という国内の観測史上最大の地震であり、世界でも1900年以降4番目の巨大地震でした。東北地方を中心に、広範囲の揺れが観測され、また大津波が発生し、建物の全壊・半壊は40万戸以上、死者・行方不明者が1万8千人を超えるなど、被害は甚大なものとなり、原子力発電所の事故による災害も発生しました。こうした状況の中、福島県は世界中からの温かい支援を受けながら、復旧・復興の歩みを進めました。

(2) 東京2020大会の理念「復興五輪」

2011年(平成23年)7月16日、2020年大会開催都市への立候補を正式に表明した東京都は、東京2020大会を震災復興に資するとともに、世界から受けた支援に対する返礼の場とすることを招致の目的に掲げました。

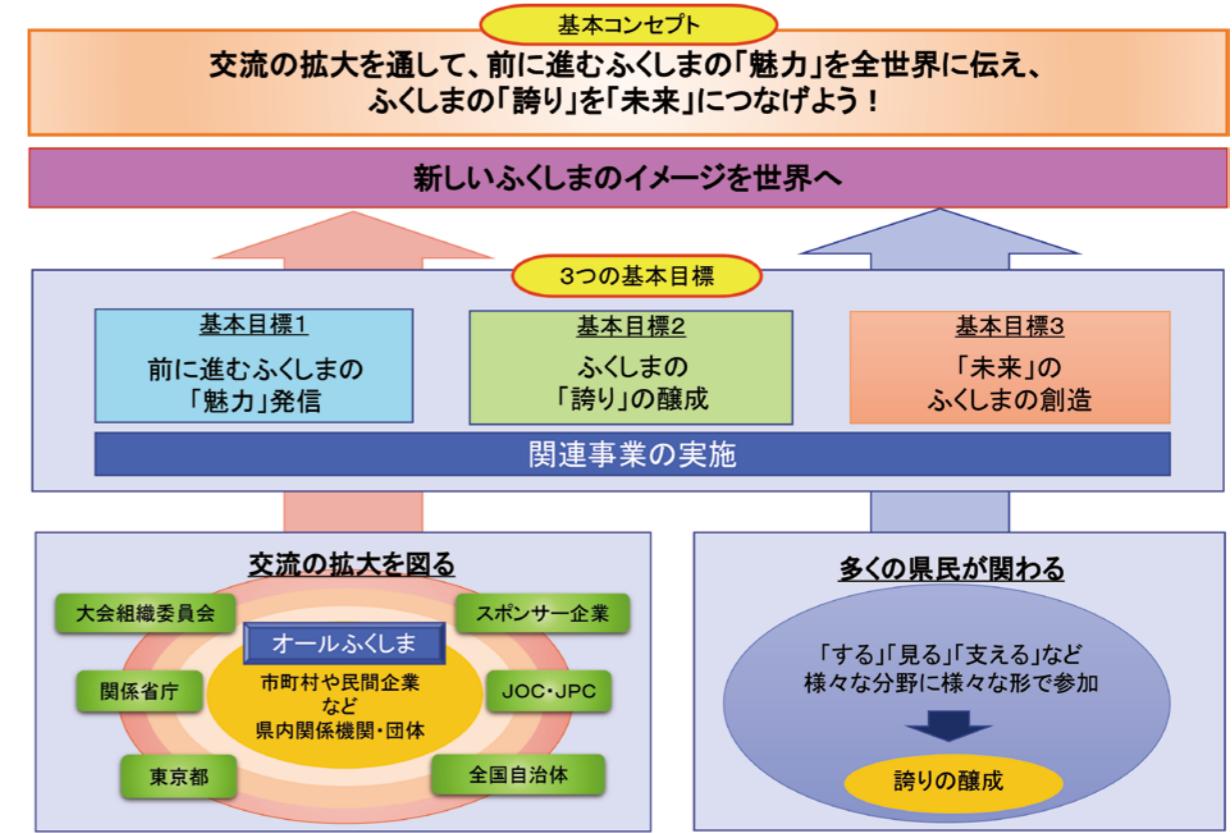
そして、2013年(平成25年)9月7日、アルゼンチン・ブエノスアイレスでの国際オリンピック委員会

<2020年東京オリンピック・パラリンピック関連事業推進本部会議の開催内容>

日 時	内 容
第1回 2014年(平成26年) 1月20日	●「2020年東京オリンピック・パラリンピック関連事業推進本部」の設置
第2回 2016年(平成28年) 2月8日	●「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会復興推進ふくしまアクションプラン」の策定
第3回 2017年(平成29年) 3月21日	●県営あづま球場におけるオリンピック野球・ソフトボール競技の開催決定の報告 ●「ふくしま大交流プロジェクト」の実施決定
第4回 2018年(平成30年) 1月29日	●県営あづま球場の改修方針の決定
第5回 2018年(平成30年) 3月28日	●「東京2020オリンピック・パラリンピック復興ふくしま推進会議」の設立について報告 ●県営あづま球場におけるテストイベント「日米対抗ソフトボール」の開催決定を報告 ●聖火リレーラート案の選定や都市ボランティアの募集開始について報告 ●東京2020大会での食材提供や福島県産木材提供に向けた取組、オリンピック・パラリンピック教育の取組について報告
第6回 2019年(平成31年) 3月27日	●県営あづま球場における「プロ野球イースタン・リーグ」「日本女子ソフトボールリーグ」の開催決定を報告 ●定員を大幅に上回る都市ボランティアの応募及び応募者全員の参加決定を報告 ●東京2020大会での食材提供に向けたGAP認証取得の推進、福島県産水素の利活用に向けた取組、工芸品のライセンス商品の発売について報告
第7回 2020年(令和2年) 2月10日	●オリンピック聖火リレーのランナーやセレブレーション等について報告 ●東京2020大会での子どもたちへの観戦機会の提供、ライブサイトの実施等について報告
第8回 2021年(令和3年) 9月13日	●東京2020大会の開催結果報告 ●東京2020大会のレガシーについて「風評・風化対策」「観光誘客」「県産品の活用」「ボランティア」「子どもの育成」「スポーツ推進」「国際交流」の区分により報告

<2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会復興推進ふくしまアクションプランの全体像>

2016年(平成28年)2月8日 第2回2020年東京オリンピック・パラリンピック関連事業推進本部会議資料より抜粋



3 県営あづま球場での競技開催決定

(1) 福島県への競技誘致の意向表明

2014年(平成26年)12月12日、福島県議会12月定例会において、内堀知事は「市町村や競技団体と連携して福島県への競技誘致を目指すこととし、今後競技を実施する施設等の状況も踏まえながら、競技誘致が復興の更なる加速化につながるよう取り組んでまいる考え」と答弁し、福島県への競技誘致を目指す意向を表明しました。

(2) 東京2020大会の追加種目に

野球・ソフトボールが決定

2015年(平成27年)9月28日、組織委員会は5競技(野球・ソフトボール・空手・スケートボード・スポーツクライミング・サーフィン)18種目を追加種目としてIOCへ提案することを決定し、2016年(平成28年)8月3日、ブラジル・リオデジャネイロでのIOC総会で承認されました。これにより、野球・ソフトボール競技が2008年北京オリンピック以来3大会ぶりに復活することとなりました。

(3) WBSC U-15ベースボールワールドカップ

2016 in いわき

2016年(平成28年)7月29日～8月7日、世界野球ソフトボール連盟(WBSC)が「第3回WBSC U-15ベースボールワールドカップ2016 in いわき」を開催しました。

催し、12か国の代表チームが参加しました。前日の7月28日に福島県が主催した歓迎レセプションでは、復興に向かう福島県の姿を発信するとともに、野球や他の競技も含めた事前キャンプ誘致のPR等、東京2020大会を見据えた取組を行いました。



(4) WBSC フラッカーリ会長の来県と

福島県での競技開催決定

福島県では野球・ソフトボール競技の誘致を目指し、2016年(平成28年)8月31日、内堀知事が組織委員会に「野球・ソフトボール競技の本県開催に関する要望書」を提出しました。

2016年(平成28年)11月19日には、WBSCのフラッカーリ会長が来県し、内堀知事が福島県での競技開催をPRするプレゼンテーションを行いました。



そして、2017年（平成29年）3月17日には、韓国・平昌でのIOC理事会で、県営あづま球場が競技会場として承認され、福島県での野球・ソフトボール競技の開催が決定しました。



（5）野球・ソフトボール競技日程の決定（延期前）

2018年（平成30年）9月12日、組織委員会が野球競技1試合、ソフトボール競技6試合の開催を発表しました。その後、2019年（平成31年）4月16日に、県営あづま球場でのソフトボール競技が2020年（令和2年）7月22日、23日、野球競技が2020年（令和2年）7月29日に開催されることが決定しました。

4 IOCバッハ会長の来県

2018年（平成30年）11月24日、IOCのバッハ会長が来県し、県営あづま球場を安倍総理大臣とともに視察しました。地元の野球・ソフトボールチームの子どもたちによる歓迎を受けた後、内堀知事が福島県の復興状況や県営あづま球場の改修内容等についてプレゼンテーションを行いました。

また、福島県高等学校新人体育大会バドミントン競技の観察と出場選手との交流、福島商業高等学校の生徒との懇談等が行われました。



5 県営あづま球場の改修

（公財）日本ソフトボール協会や、福島県野球団体協議会からの県営あづま球場の人工芝化の要望等を踏まえ、福島県では、2018年（平成30年）1月29日、第4回本部会議において、県営あづま球場の改修方針を決定しました。

東京2020大会に向けた改修工事が2019年（令和元年）9月に完了し、エレベーター新設工事は2020年（令和2年）3月に完了しました。

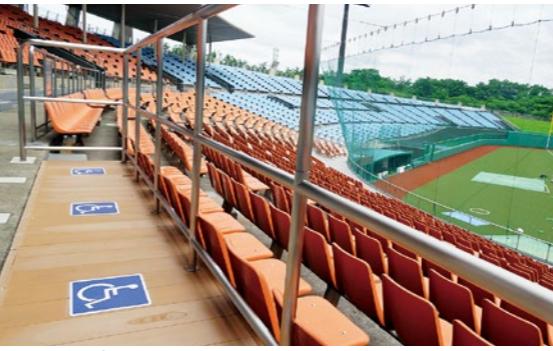
（1）グラウンドの人工芝化

県営あづま球場の内野は黒土、外野は天然芝で覆われていましたが、雨が降ってもすぐ乾いて試合ができるよう、グラウンド全面を人工芝に改修しました。プロ野球チームのホームスタジアムでも使用されている人工芝で、天然芝に比べ排水性、クッション性が向上しました。また、屋内練習場やブルペンも併せて人工芝としました。



（2）車いす用観覧席等の増設

3階スタンド席の車いす用観覧席を増設し、20席としました。また、2階コンコースから3階スタンド席までの車いす用昇降機も増設しました。



（3）外野席の改修

観戦しやすいよう、外野席の一部に人工芝を敷き、階段状にしました。



（4）屋内設備の改修

選手のロッカールームやシャワー室の改修を行いました。また、球場内全てのトイレを洋式化しました。



（5）エレベーターの新設

2階コンコースや3階スタンド席まで乗降できるよう、球場の正面入口横に11人乗りエレベーターを新設しました。



県営あづま球場 施設概要

[両翼]	100m
[中堅]	122m
[スタンド収容人員]	30,000人
	※オリンピック時の収容人数14,300人
[附属施設]	審判員休憩室、選手控室、身体障がい者用観覧室、車いす用昇降設備、医务室、審判員室、放送室、本部役員室、記者室、中継放送ブース、エレベーター
[所在地]	福島市佐原字神事場1番地 (あづま総合運動公園内)

6 IOC本部・WBSC本部訪問

2019年(令和元年)10月10日、スイス・ローザンヌのIOC本部とWBSC本部を内堀知事が訪問し、IOCのバッハ会長とWBSCのフラッカリ会長に、県営あづま球場訪問への御礼と東京



2020大会野球・ソフトボール競技開催の準備状況や福島県の復興状況等を伝えました。

バッハ会長からは「東京2020大会で福島を再訪することを楽しみにしている」「福島県産品の食の安全性や放射線量のモニタリングのデータなどについて、IOC本部としても最新の情報に基づいて各国のオリンピック委員会の集まる場を通してしっかりと広報していきたい」などの発言があり、東京2020大会に向けた連携を確認しました。

7 第3回WBSC総会に内堀知事が出席

2019年(令和元年)11月21日、大阪府堺市でWBSC総会が開催されました。総会はWBSCの最高意思決定機関であり、堺市の開催はアジアで初めての開催となりました。

東京2020大会の野球・ソフトボール競技の開催自治体が総会に招かれ、福島県からは内堀知事が出席しました。世界135の国と地域の野球・ソフトボール関係者約400人が一堂に会す中でプレゼンテーションをした内堀知事は、福島県の復興状況や、会場となる県営あづま球場の改修状況などを紹介し、「東京2020大会の成功に向けてしっかり準備を進めてまいります。来年、ぜひ福島へお越しください」と来県をアピールしました。



135の国と地域の関係者が参加した第3回WBSC総会

8 東京2020大会の延期決定

(1) 新型コロナウイルス感染症の影響による

東京2020大会の延期

2020年(令和2年)3月24日、新型コロナウイルス感染症が世界に拡大する中、安倍総理大臣、森組織委員会会長、小池東京都知事、橋本オリ・パラ担当大臣とIOCのバッハ会長が電話会談を行い、東京2020大会を延期することが合意されました。

また、遅くとも2021年(令和3年)夏までの実施に向けて具体的に検討することが決まりました。この決定は、Jヴィレッジで行われる東京2020オリンピック聖火リレーランドスタートの2日前でした。

(2) 新たな競技日程(延期後)

2020年(令和2年)3月30日、森組織委員会会長、小池東京都知事、橋本オリ・パラ担当大臣とIOCのバッハ会長が電話会談を行い、東京2020オリンピックは2021年(令和3年)7月23日～8月8日、東京2020パラリンピックは2021年(令和3年)8月24日～9月5日に開催されることが決定しました。

そして、2020年(令和2年)7月17日に、組織委員会から競技日程及び会場が発表され、延期前と同一日程を維持した競技スケジュールで開催されることが決定しました。

【福島あづま球場における競技日程(延期後)】

■ ソフトボール競技

2021年(令和3年)7月21日～22日
※1日3試合 計6試合

■ 野球競技

2021年(令和3年)7月28日
※1試合

9 無観客開催の経緯

(1) 海外からの観客の受け入れ断念

① 新型コロナウイルス感染症対策調整会議の開催

2020年(令和2年)9月4日、東京2020大会における新型コロナウイルス感染症対策について総合的に検討、調整するため、国、東京都、組織委員会、(公財)日本オリンピック委員会(JOC)、(公財)日本パラリンピック委員会(JPC)、感染症専門家が参加する「東京オリンピック・パラリンピック競技大会における新型コロナウイルス感染症対策調整会議」の第1回が開催されました。

2020年(令和2年)12月2日、第6回調整会議において、アスリート、大会関係者、観客の3つのカテゴリーについて、場面(入国、輸送、会場等)ごとに、新型コロナウイルス感染症対策の中間整理をまとめるとともに、観客数の上限、外国人観客の取扱い等は、2021年(令和3年)春までに決定することとさ

れました。

② 五者協議の開催と海外からの観客受け入れ断念

2021年(令和3年)3月3日、五者協議(IOC、IPC、東京都、組織委員会、国)が開催され、海外から来日する観客の取扱いについては、国内外における新型コロナウイルスの感染状況や防疫措置、専門家による科学的知見等を勘案し、3月中に方針を決定することとされました。

また、会場における観客数の上限については、国内のスポーツイベント等における上限規制に準ずることを基本にして、専門家による科学的知見等を総合的に勘案し、4月中に判断を行うこととされました。

2021年(令和3年)3月20日、五者協議が開催され、「日本側は、現在の世界におけるコロナ禍の状況により、東京2020大会における海外観客の日本への受け入れは断念するという結論を、IOCとIPCに報告」し、海外からの観客受け入れは断念されました。

(2) 福島会場の無観客開催の決定

① 五者協議と関係自治体等連絡協議会の開催

2021年(令和3年)4月28日、五者協議が開催され、観客数に係る判断は6月に国内のスポーツイベント等における上限規制に準じることを基本に行うことと合意されました。

2021年(令和3年)6月21日、五者協議が開催され、「オリンピック競技大会に関して、日本政府のイベント開催制限を踏まえ、全ての会場において観客数の上限を『収容定員50%以内で1万人』とする」と、「ただし、7月12日以降、緊急事態宣言又はまん延防止等重点措置が発動された場合の観客の取扱いについては、無観客も含め当該措置が発動された時の措置内容を踏まえた対応を基本とする」こと等の方針について合意されました。

2021年(令和3年)7月8日、東京都に緊急事態宣言が発出されたことが決定されたことを受け、同日、五者協議が開催され、「今回の緊急事態宣言を受け、人流を抑制するとともに、感染拡大の防止等に向けたより厳しい措置として、無観客とする。なお、本方針の下、緊急事態措置が講じられていない区域においては、関係自治体等連絡協議会を開催し、それぞれの地域の状況を踏まえ、首長と協議の上、具体的な措置を決める」ことで合意されました。

同日、丸川オリ・パラ担当大臣、橋本組織委員会会長、関係自治体(競技が開催される都道県及び政令指定都市)の首長等が出席する「第4回2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた関係自治体等連絡協議会」が開催され、組織委員会から、緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が適用される一都三県以外の競技会場については「有観客」との案が示され、福島県としては、その案を受け入れ、徹底した感染防止対策の実行を組織委員会等に強く求めました。その結果、福島会場は収容人員

14,300人の2分の1の7,150人を観客上限とすることとなりました。

② 福島会場の無観客開催の決定

2021年(令和3年)7月10日、内堀知事が臨時記者会見を行い、同日、福島県での野球・ソフトボール競技を「無観客」で行うよう、組織委員会に要請し、了承されたことを発表しました。

福島県が「無観客」で行うという判断に至った理由は2つあり、1つは「直近の新型コロナウイルス感染症の状況悪化」でした。当時の福島県内の新型感染症の新規感染者数は増加に転じ、病床使用率はステージⅢ(感染者の急増及び医療提供体制における大きな障害の発生を避けるための対応が必要な段階)に達していました。また、首都圏一都三県の状況も悪化しており、これまでの傾向から、福島県に波及してくる可能性もあり、福島県の新型コロナウイルス感染症拡大の状況については予断を許さない状況にありました。

もう1つの理由は、「関係自治体における対応の変化」でした。2021年(令和3年)7月8日の関係自治体等連絡協議会において、一都三県以外の競技会場については「有観客」とする案が示されたところ、同年7月9日の夜、北海道が「無観客」での開催を発表したことにより、一都三県以外の競技会場を全体として「有観客」とする前提が大きく変わりました。

こうした状況を総合的に勘案して、福島県での野球・ソフトボール競技を「無観客」で行うという判断に至り、組織委員会に要請を行い、了承されました。

II 機運醸成の取組

1 東京2020オリンピック・パラリンピック復興ふくしま推進会議 & ふくしま大交流ミーティング

(1) 東京2020オリンピック・パラリンピック復興ふくしま推進会議の設立

オールふくしまの力を結集し、東京2020大会の持つ発信力や次代を拓く推進力などを県内全域の様々な分野に波及させ、復興の加速化や風評払拭及び2020年以降の新生ふくしまの創造につなげるとともに、国内外からの支援に対する感謝を発信すること等を目的とした全県的な推進会議を設立しました。

委員には国、市町村等の公的団体、競技団体等のスポーツ関係団体、商工関係団体、農林水産業関係団体、医療・福祉関係団体、大学を始めとする各種教育関係団体など144団体の代表が就任しました。

推進会議は毎年東京2020大会の開幕の日(7月24

日※延期前)に開催しました。また、同時開催イベントとして「ふくしま大交流ミーティング」も実施し、カウントダウンイベントとして東京2020大会に向けた機運を盛り上げました。

(2) 第1回(3年前カウントダウンイベント)

2017年(平成29年)7月24日、福島市で東京2020オリンピック・パラリンピック復興ふくしま推進会議の設立総会を開催し、推進会議委員130人を含む、232人が参加しました。

ふくしま大交流ミーティングでは、早稲田大学スポーツ科学学術院の間野義之教授をコーディネーターとして、元ソフトボール女子日本代表ヘッドコーチの宇津木妙子さん、オリンピック・パラリンピックレガシーを研究する三菱総研レガシー共創協議会事務局長の仲伏達也さんと内堀知事が「チャレンジ! ふくしまの未来につなぐ復興五輪」をテーマにパネルディスカッションを行いました。



福島県ゆかりのオリンピアン等による記念撮影



(3) 第2回(2年前カウントダウンイベント)

2018年(平成30年)7月24日、福島市で第2回推進会議を開催し、推進会議委員102人を含む285人が参加しました。

推進会議では、事務局から東京2020大会に向けた機運醸成や大会後のレガシーにつながる取組事例を紹介した後、福島大学の学生団体「わだち」が「東京2020大会を契機としたレガシー創出」をテーマに事例発表を行いました。

ふくしま大交流ミーティングでは、「世界で戦うトップアスリートを目指して」をテーマに、住吉美

紀アナウンサーをコーディネーターとして、野球日本代表の稻葉監督、ソフトボール女子日本代表の宇津木ヘッドコーチと内堀知事によるパネルディスカッションを行い、多くの子どもたちが両監督の言葉に真剣に耳を傾けていました。



パネルディスカッションに参加する稻葉監督と宇津木ヘッドコーチ

なお、イベントに先立ち、両監督が開幕戦の会場となる県営あづま球場を訪れ、2年後に迫ったオリンピックでの健闘を誓いました。



県営あづま球場を視察した福島監督と宇津木ヘッドコーチ

(4) 第3回(1年前カウントダウンイベント)

2019年(令和元年)7月24日、福島市で第3回推進会議を開催し、推進会議委員114人を含む363人が参加しました。

推進会議では、オリンピック・パラリンピック教育推進校であるあさか開成高等学校の生徒が「オリンピック・ムーブメントとふくしまプライド～私たちにできること～」をテーマに事例発表を行いました。

ふくしま大交流ミーティングでは、「東京オリンピック・パラリンピックまであと1年！」をテーマに、住吉美紀アナウンサーをコーディネーターとして、「世界のホームラン王」王貞治さん、ソフトボール女子日本代表チーム「ソフトジャパン」の皆さんと内堀知事によるパネルディスカッションを行いました。

さらに、福島県が製作した東京2020大会デザインのラッピングバスのお披露目を行ったほか、東北電力(株)による県内鉄塔のライトアップ、1964年東京オリンピックで使用された炬火台の展示などを行

い、1年後の東京2020大会に向けて機運を盛り上げました。



王さん(左)と内堀知事(右)



ソフトジャパンの皆さん



あづま総合運動公園に展示された炬火台



5色にライトアップされた鉄塔



お披露目されたラッピングバス

2 「1000日前カウントダウンイベント」

(1) ふくしまアイデアコンテスト

2017年(平成29年)10月28日、県営あづま総合体育館でふくしまアイデアコンテストを開催しました。

東京2020大会のレガシーを残そうという理念のもと活動している福島大学の「学生団体わだち」を中心となり、学生自らが企画・運営して、アイデアを募集するもので、高校生や大学生が所属する10団体が参加しました。

審査委員長のなすびさんによる講演や参加団体との意見交換が行われ、最優秀賞には、会津農林高等学校農業園芸科の「会津伝統野菜を未来へ…~東京オリンピックから世界へつなげる~」が選ばされました。



参加した学生による記念撮影



学生との意見交換

(2) 福島県・横浜市少年野球交流試合

2017年(平成29年)11月25日、東京2020オリンピック野球・ソフトボール競技の開催都市である横浜市と福島県の共催で、野球を通じた子どもたちの交流イベントを横浜スタジアムで開催しました。

イベントには、福島県浜通りの野球チームで構成された「福島県選抜チーム」と「横浜市選抜チーム」等の約400人の児童が集まり、野球教室やキャッチボールを通じて親睦を深めたほか、交流試合を行いました。

また、福島県の鈴木副知事、横浜市の柏崎副市長、組織委員会の布村副事務総長のほか、ゲストとして福島県出身で横浜DeNAベイスターズ初代監督の中畠清さん、同チームスペシャルアドバイザーの三浦大輔さん、組織委員会スポーツ局長の室伏広治さんが出席し、トークショーなどで子どもたちと交流しました。



3 「東京2020オリンピック・パラリンピックへGO GO GO!」 (555日前カウントダウンイベント)

福島県は、東京2020大会開幕までの日数をカウントするデイカウンターを制作し、東京2020大会開幕555日前となる2019年(平成31年)1月16日に、郡山市立赤木小学校体育館でお披露目式を行いました。

お披露目式には、組織委員会の室伏広治スポーツディレクター、品川郡山市長、内堀福島県知事、福島県教育委員会の鈴木教育長、デイカウンターのボスターデザインを制作した橋高等学校、あさか開成高等学校、須賀川高等学校の生徒、赤木小学校全児童270人のほか、ゲストとして東邦銀行陸上部の青木沙弥佳選手、佐々木真菜選手と東京2020マスコット「ミライトワ」「ソメイティ」が参加し、除幕を行いました。

JR福島駅、JR郡山駅、JR新白河駅、JR会津若松駅、JR原ノ町駅、JRいわき駅、会津鉄道会津田島駅にオリンピックとパラリンピック2台1組のデイカウンターを設置しました。



4 「東京2020 Let's 55 ～レッツゴーゴー～ with 福島県」 (500日前カウントダウンイベント)

2019年(平成31年)3月24日、組織委員会が2020年までに東京2020大会の全競技(55競技)の競技体験を実施するプロジェクト「東京2020Let's55」が県内で初めて開催されました。会場のイオンモールいわき小名浜、アクアマリンパーク、小名浜潮目交流館に、延べ約2,000人が参加しました。

イベントでは、オリンピック競技の8競技(野球・ソフトボール、バスケットボール、自転車競技、フェンシング、サッカー、体操、ラグビー、スポーツクライミング)とパラリンピック競技の3競技(ボッチャ、卓球、車いすテニス)の体験が行われました。



ボッチャを楽しむ参加者

5 「300日前カウントダウンイベント」

(福島県・横浜市ソフトボール交流試合等)

2019年(令和元年)10月5日、改修後の県営あづま球場で東京2020大会300日前カウントダウンイベントを開催し、延べ200人が参加しました。

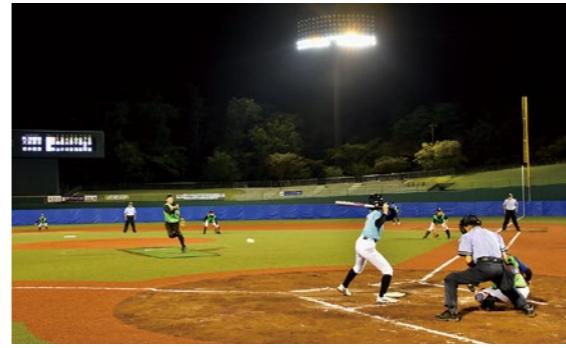
オリンピアンの田端健児さん[陸上競技]、堀畠裕也さん[水泳]、佐藤寿治さん[体操]、荻原次晴さん[スキー／ノルディック複合]、田中琴乃さん[新体操]、勅使川原郁恵さん[スケート／ショートトラック]がゲストとして登場し、トークショーを行いました。

また、元トヨタ自動車ソフトボール部の選手を講師に招き、ソフトボール教室を行いました。経験者の部では、県内の中・高校生約100人が参加し、ポジションごとに分かれて指導を受けました。親子教室の部では、県内の親子24組52人が参加し、オリンピアンや東京2020オリンピックマスコット「ミライトワ」と交流しながら、ボールの捕り方や投げ方を学びました。

さらに、ソフトボール交流試合では、横浜市と福島県の女子中学生がソフトボールの交流試合を行いました。



ソフトボール教室



6 地域における機運醸成

東京2020大会に向けた機運を高めるため、福島県が主催する地域のイベントで、オリンピック・パラリンピックの競技体験や大会関連情報のPRを実施しました。



いわき大交流フェスタ(いわき地方振興局主催)

7 延期後の取組

新型コロナウイルス感染症の影響により東京2020大会が1年延期となった後は、福島県ゆかりのアスリートやオリンピアン、パラリンピアンから届けられたメッセージ動画の配信等を行いました。2022年(令和4年)2月1日時点で約1万7千回の視聴がありました。



桃田賢斗選手



豊島英選手

8 多様な主体との連携

(1) JOC

オリンピアンが被災地へ直接足を運びスポーツを通じて交流することを目的に、JOCが東日本大震災復興支援事業「オリンピック・デーフェスタ」を開催しました。福島県では、2012年(平成24年)1月～2021年(令和3年)3月までの間、26市町村で計43回実施されました。



オリンピアンと子どもたちとの記念撮影(福島市)



オリンピアンと子どもたちの交流(郡山市)

(2) 東京都

①未来への道1,000km縦断リレー

東京都は、東京2020大会に向けてスポーツの力で被災地を元気にすることを目的として、東日本大震災の被災地から東京都までの約1,300kmをランニングと自転車でリレーする取組を、2013年～2019年まで7回開催しました。

福島県内では、福島県庁や市役所等においてスタート式やゴール式が実施され、会場では県産品のふるまい等を行いました。全国から集まる一般参加者のかた、オリンピアンやパラリンピアンもランナーとして参加し、沿道の地域住民との絆を深めました。



福島県庁での参加者集合写真(2016年)



②復興祈念植樹

東京都は、復興五輪を語り継ぐ象徴とするため、岩手県、宮城県、福島県、熊本県の被災4県の県木を東京2020大会競技会場の1つである有明アリーナ(東京都)に植樹し、福島県はケヤキの苗木を提供しました。



③海外メディアツアー

東京都は、スポーツの力を通して、被災地の姿や子どもたちの笑顔を世界に発信するため、岩手県、宮城県、福島県の被災3県で、海外メディアを招いたツアーを行いました。

福島県では2019年(令和元年)8月2日～3日に実施され、オリンピック聖火リレーのグランドスタートの地となるJヴィレッジで、元東京電力女子サッカー部マリーゼの増田亜矢子さんが、福島県の復興の姿を伝えました。また、あづま総合運動公園では、県営あづま球場や第29回世界少年野球大会福島大会を視察し、(一財)世界少年野球推進財団理事長の王貞治さんが「世界各地の子どもたちが元気に野球をしていることで、福島の復興が確かに進んでいることが伝わり、日本や世界各地での風評や誤解を解くことができればと思います」と福島県での大会開催についてインタビューに答えました。



海外メディアのインタビューに答える増田さん



(3) 民間企業・団体

東京2020大会パートナーと連携してウォーキングイベントを実施したり、オリンピック・パラリンピック等経済界協議会(オリ・パラ経済界協議会)や競技団体等と連携して競技体験イベントを実施するなど、大会に向けた機運を醸成しました。



大会パートナーとの共催で実施した「ジャパンウォーク」(福島市)



オリ・パラ経済界協議会との共催で実施した競技体験イベント(郡山市)



日本パラサイクリング連盟の協力で実施した競技体験ブース(いわき市)

また、(株)楽天野球団と連携し、子どもたちが宮城球場で野球・ソフトボール競技の福島県開催をPRする「キッズアンバサダー」や、県内各地で親子野球教室「ボールパークピクニック」を開催したほか、プロ野球の独立リーグに加盟する福島レッド

ホープスと連携して東京2020大会に向けた機運醸成の取組を実施しました。



宮城球場でPR活動をするキッズアンバサダー



ボールパークピクニックでの野球教室(いわき市)

9 市町村の取組

東京2020大会の開催に向けて、県内全域で一体的に盛り上げるため「福島県東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催準備事業補助金」を創設し、市町村等による機運醸成のための取組を支援しました。2019年度に28市町村、2020年度に23市町村、2021年度に6市が事業を実施しました。

聖火リレー時に沿道の装飾や盛り上げイベント等を実施したほか、東京2020大会開催前には、公共施設等周辺でのぼり旗や横断幕などによる装飾を実施しました。(詳細は資料編Ⅱ参照)



沿道をサルビアで装飾(須賀川市)



福島駅東口周辺の都市装飾(福島市)

III テストイベント等

1 「日米対抗ソフトボール2018」

2018年(平成30年)6月23日、(公財)日本ソフトボール協会が主催する日米対抗ソフトボール2018の第3戦が県営あづま球場で開催され、県内外から7,000人を超える観客が来場しました。また、組織委員会職員等のオリンピック関係者が運営視察を目的として多数訪れました。球場外では太鼓パフォーマンスで福島県の文化を発信したほか、福島県産農産物のPRが行われました。

2018年(平成30年)6月24日～6月27日には、県営あづま球場でソフトボール日本代表の国内強化合宿が行われ、期間中、選手と子どもたちが交流しました。



日米対抗ソフトボールの試合前セレモニー



ソフトボール教室での代表選手と子どもたちのふれあい

2 「2019プロ野球イースタン・リーグ公式戦」

2019年(令和元年)9月28日、改修後の県営あづま球場のお披露目としてイースタン・リーグ公式戦が開催されました。

人工芝のグラウンドになって初めての大会であり、多数の関係者が視察に訪れました。試合前のセレモニーでは、福島県出身の古関裕而が1964年のオリンピック入場行進曲として作曲した「オリンピックマーチ」をふくしま古関楽団2020が演奏とともに、オリンピック野球・ソフトボール競技の福島県開催の広報活動を行うキッズアンバサダーと内堀知事が競技開催をPRしました。試合終了後には、

全面人工芝のグラウンドで観客と選手の交流イベントも行われました。



県内のスポーツ少年団の児童による始球式



3 「第52回日本女子ソフトボーリングリーグ1部 第8節」

2019年(令和元年)10月5日～6日、(一社)日本女子ソフトボーリング機構が主催する第52回日本女子ソフトボーリングリーグ1部第8節が、県営あづま球場で開催されました。オリンピックのテストイベントとして位置付けられたこの大会は、競技環境やスタッフ間の連携等の大会運営面の確認のほか、シャトルバスの運行を想定した輸送のテストを実施しました。また、都市ボランティア(シティキャスト)も参加し、会場内での盛り上げやオリンピックを想定したルートでの観客案内を行いました。

2日間で4試合行われ、10月5日は1,779人、10月6日は2,685人の観客が来場しました。

試合後、選手の声を聞き取り、オリンピック本番に向けたグラウンドの整備作業にいかしました。



本番を想定したテストイベント



試合後にマウンドの状態を確認

IV 東京2020大会に向けた国内外代表選手団の合宿誘致

福島県は、東京2020大会を契機に市町村の国際交流を促進するため、国、市町村と連携して国内外の選手団の合宿誘致活動を行いました。

1 事前キャンプ誘致モデル事業(2016年度)

2016年(平成28年)8月8日～23日、喜多方市の県営荻野漕艇場で2016リオデジャネイロパラリンピックボート競技に出場する日本代表の合宿を実施しました。選手の視点からのインフラやサポートにおける課題を聴取し、東京2020大会の合宿誘致に向けて課題を分析しました。(詳細は資料編Ⅲ参照)

合宿誘致にあたり、漕艇場等のバリアフリー改装、宿舎の食事の支援を行いました。また、知事が激励に訪れ、選手団へ県産品を贈呈しました。



選手と地域住民との交流



漕艇場のバリアフリー化

2 競技・キャンプ地誘致等事業 (2017年度～2021年度)

前年度の合宿誘致の課題を踏まえ、市町村と連携して国内外代表選手団の合宿誘致を本格的に開始し、事前キャンプ誘致活動等支援補助金やトップアスリート事前合宿実施事業により、ホストタウン登録市町村等が行う誘致活動や交流活動を支援しました。

2020年度の海外選手団の合宿は、新型コロナウィルス感染症の影響により、福島県内では実施されませんでしたが、2017年度～2021年度までの5年間で、43件の事前合宿や交流活動が実施されました。(詳細は資料編Ⅲ参照)



ソフトボール女子日本代表の県営あづま球場での合宿(2018年)



喜多方市とアメリカの高校生のホストタウン交流事業(2018年)



ポッチャ日本代表チームの白河市内での合宿(2020年)

V レガシーにつながる取組

東京2020大会を契機として、官民によるレガシー創出に向けた取組の拡大を目的とした「福島県レガシー創出大交流ステップアップ補助金」を創設し、市町村や民間団体の取組を支援しました。

2018年度～2021年度までの4年間で19件採択し、スポーツ推進や国際交流、観光推進などの取組が行われました。(詳細は資料編Ⅳ参照)



土湯温泉観光協会によりJR福島駅に設置された温泉PRブース(2019年)



郡山市の小学生とオランダのプロサッカー選手との交流(2019年)



オンラインで世界のチームと競い合った「キャッチボールクラシック」(2021年)

VI オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業

2017年度～2021年度までの5年間で、県内の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、延べ185校が参加して「オリンピック・パラリンピック教育」を実施しました。学習のテーマとして、「オリンピズムとふくしまプライド」「ふくしまのおもてなし精神とボランティア」「パラリンピックとふくしまの障がい者スポーツ」「ふくしまの日本文化と異文化・国際理解」「スポーツとふくしまを楽しむ心」の5つを軸に、各学校で趣向を凝らした授業を開催しました。オリンピアン・パラリンピアンとの直接のふれあいも多く企画され、児童、生徒が本物に触れることができる機会となりました。



ボッチャの体験学習 郡山市立緑ヶ丘第一小学校(2021年)



シッティング・バレーボールの体験学習 郡山市立宮城小学校(2021年)



陸上競技の体験学習 県立視覚支援学校(2021年)

第2章

オリンピックの開催

- I 野球・ソフトボール競技
- II 都市ボランティア
- III 福島県の取組
- IV 組織委員会と連携した取組
- V 文化プログラム

会場アルバム

1 球場編



会場アルバム

2 球場外編



第2章 オリンピックの開催

I 野球・ソフトボール競技

1 ソフトボール競技

(1) 福島あづま球場でのソフトボール競技開催

2021年(令和3年)7月23日に開催された東京2020オリンピック開会式に先駆け、東京2020大会全体のスタートを飾る試合として、ソフトボール競技が福島あづま球場で開催されました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、無観客での開催となりましたが、オリンピックカラーに装飾された福島あづま球場のグラウンドでは選手たちの熱いプレーが繰り広げられました。



(2) 始球式

2021年(令和3年)7月21日の第1試合、日本対オーストラリア戦の試合開始前に、桑原真愛さん(いわき市立平第三中学校)と宮田妃乃さん(いわき市立泉中学校)がバッテリーを組み始球式を行いました。

始球式では、内堀知事、丸川オリ・パラ担当大臣、世界野球ソフトボール連盟(WBSC)のフラッカーリ会長の立ち会いのもと、橋本組織委員会会長からボールを受け取った桑原さんが力強く投球し、東京2020大会の幕が上がりました。



始球式に参加して



福島県で復興オリンピックが開催され、この福島でソフトボールという競技ができ、そこで始球式を投げさせてもらえたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

私も将来、あの素晴らしい舞台でピッティングができるよう、努力を積み重ねあの舞台に立てるようなピッチャーになりたいです。

(ピッチャー 桑原真愛さん)

オリンピックという大舞台で始球式のキャッチャーを務めさせていただき、今までに経験したことがない緊張感を味わうことができました。この緊張感をこれからのおもてなし人生で忘れることなくいかしていきます。

いろいろな人に感謝しながらオリンピックの始球式で満足することなく、これからも努力を重ねたいと思います。

(キャッチャー 宮田妃乃さん)

(3) 参加国

日本



アメリカ



カナダ



メキシコ



イタリア



オーストラリア



(4) 日本代表の金メダルまでの軌跡

2021年(令和3年)7月21日のソフトボール競技の第1試合、日本対オーストラリアの試合では、オーストラリアに先制されるものの、3本のホームランとエース上野投手の好投で5回コールドで勝利しました。

日本代表の2試合目となった7月22日の日本対イタリアの試合では、延長タイブレークにもつれ込む緊迫した試合展開となりましたが、最後は渥美選手のサヨナラヒットで日本代表が勝利しました。

福島あづま球場で2連勝を果たした日本代表は、勢いそのままに横浜スタジアムでも勝利を重ね、決勝ではアメリカに勝利し、金メダルを獲得しました。



(5) 試合の記録

■ 2021年(令和3年)7月21日 会場: 福島あづま球場

- 第1試合 オーストラリア VS 日本 1-8
- 第2試合 イタリア VS アメリカ 0-2
- 第3試合 メキシコ VS カナダ 0-4



■ 2021年(令和3年)7月22日 会場: 福島あづま球場

- 第1試合 アメリカ VS カナダ 1-0
- 第2試合 メキシコ VS 日本 2-3
- 第3試合 イタリア VS オーストラリア 0-1



■ 2021年(令和3年)7月24日 会場: 横浜スタジアム

- 第1試合 オーストラリア VS カナダ 1-7
- 第2試合 アメリカ VS メキシコ 2-0
- 第3試合 日本 VS イタリア 5-0

■ 2021年(令和3年)7月25日 会場:横浜スタジアム

- 第1試合 オーストラリア VS アメリカ 1-2
- 第2試合 カナダ VS 日本 0-1
- 第3試合 イタリア VS メキシコ 0-5



■ 2021年(令和3年)7月26日 会場:横浜スタジアム

- 第1試合 日本 VS アメリカ 1-2
- 第2試合 カナダ VS イタリア 8-1
- 第3試合 メキシコ VS オーストラリア 4-1

■ 2021年(令和3年)7月27日 会場:横浜スタジアム

- 3位決定戦 メキシコ VS カナダ 2-3
- 決勝戦 日本 VS アメリカ 2-0

2 野球競技

(1) 福島あづま球場での野球競技開催

2021(令和3年)年7月28日、野球競技の開幕戦が福島あづま球場で開催されました。

野球競技もソフトボール競技同様、無観客での開催となりました。



(2) 野球競技の準備

ピッチャーマウンドをソフトボール仕様から野球仕様に転換するため、ソフトボールマウンドの撤去や野球マウンドの復旧、ソフトボールのフェンスの撤去などが、7月22日のソフトボール競技の終了後から、急ピッチで進められました。

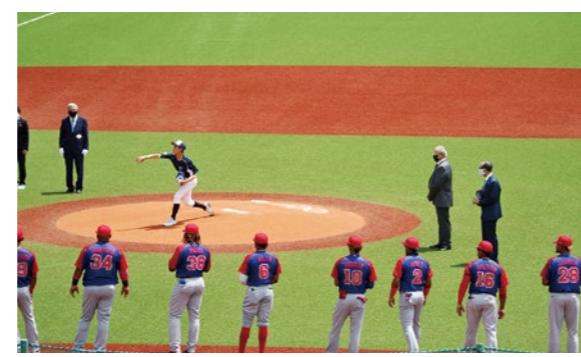
また、前日までの台風の影響が懸念されたことから、試合当日は、福島県の担当者らが球場周辺の確認と清掃作業を行ったほか、横断幕や国旗を掲げて選手団のバスを出迎えました。



(3) 始球式

2021(令和3年)7月28日の日本対ドミニカ共和国の試合前の始球式では、竜谷真さん(相馬市立中村第一中学校)、小泉直大さん(新地町立尚英中学校)の2人がバッテリーを務めました。

始球式では、組織委員会の橋本会長と王貞理事、WBSCのフラッカーリ会長の立会いのもと、国際オリンピック委員会(IOC)のバッハ会長からボールを受け取った竜谷さんが力強く投球し、オリンピック野球競技がスタートしました。



始球式に参加して



小泉 直大さん 竜谷 真さん

オリンピックの始球式では、復興五輪の意味を込めて、感謝の気持ちと今もまだ大変な思いをしている方々のことを考えながら全力で投げました。

この貴重な体験は、私の一生の思い出となり、またオリンピック選手の前で投げたことが大きな自信につながりました。

この体験を忘れずにこれからも自分を高め、努力していくたいです。

(ピッチャー 竜谷真さん)

始球式が始まる前はとても緊張していましたが、オリンピック選手が笑顔で温かく迎えてくださったお陰で緊張がほぐれ、このような大きな舞台に立たせてくださった周囲の方々に感謝の気持ちを持って参加しました。また、大好きな野球競技が福島で行われたことが本当にうれしかったです。

今回の貴重な経験を、野球やスポーツだけでなく、学習や自分の意見を主張する場においてもいかしていきたいと思います。

(キャッチャー 小泉直大さん)

(4) 参加国

日本



アメリカ



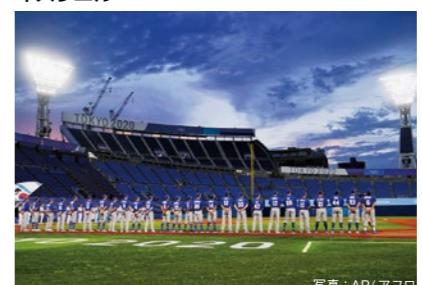
ドミニカ共和国



韓国



イスラエル



メキシコ



(5) 日本代表の金メダルまでの軌跡

福島あづま球場で行われた、日本対ドミニカ共和国の試合では、日本代表は9回裏に2点差を跳ね返し、劇的なサヨナラ勝利で、次の舞台となる横浜スタジアムへと移動しました。

福島あづま球場で勝利した日本代表は勢いそのままに、全勝で金メダルを獲得しました。



(6) 試合の記録

■ 2021年(令和3年)7月28日

会場: 福島あづま球場

第1試合 ドミニカ共和国 VS 日本 3-4

■ 2021年(令和3年)7月29日

会場: 横浜スタジアム

第1試合 イスラエル VS 韓国 5-6

■ 2021年(令和3年)7月30日

会場: 横浜スタジアム

第1試合 メキシコ VS ドミニカ共和国 0-1

第2試合 アメリカ VS イスラエル 8-1

■ 2021年(令和3年)7月31日

会場: 横浜スタジアム

第1試合 日本 VS メキシコ 7-4

第2試合 韓国 VS アメリカ 2-4

■ 2021年(令和3年)8月1日

会場: 横浜スタジアム

第1試合 イスラエル VS メキシコ 12-5

第2試合 ドミニカ共和国 VS 韓国 3-4



3 東京2020大会の会場となった あづま総合運動公園

試合当日は、組織委員会、大会ボランティア、民間委託業者、福島県、福島市、福島県警察本部、福島市消防本部など、1日あたり2,000人を超える関係者が競技開催を支えました。

特に新型コロナウィルス感染症やテロによる災害・熱中症への対策のため、指定医療機関である福島県立医科大学を中心とした医療体制を整え対応しました。

また、東京2020大会時に試合会場となるエリアは、組織委員会の仮設工事でセキュアペリメーターと呼ばれるフェンスが設置され、事前に登録された関係者以外の会場内への立入は制限されました。登録さ

■ 2021年(令和3年)8月2日

会場: 横浜スタジアム

第1試合 イスラエル VS 韓国 1-11

第2試合 アメリカ VS 日本 6-7

■ 2021年(令和3年)8月3日

会場: 横浜スタジアム

第1試合 イスラエル VS ドミニカ共和国 6-7

■ 2021年(令和3年)8月4日

会場: 横浜スタジアム

第1試合 ドミニカ共和国 VS アメリカ 1-3

第2試合 韓国 VS 日本 2-5

■ 2021年(令和3年)8月5日

会場: 横浜スタジアム

準決勝 韓国 VS アメリカ 2-7

■ 2021年(令和3年)8月7日

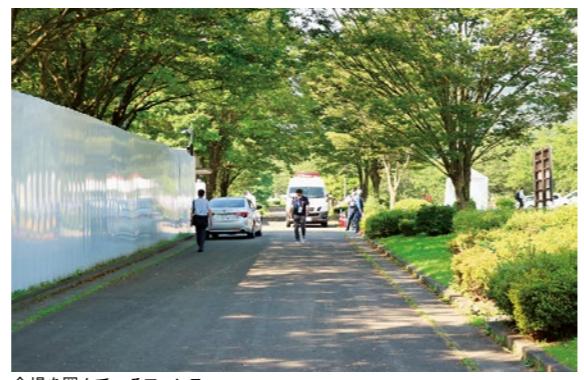
会場: 横浜スタジアム

3位決定戦 ドミニカ共和国 VS 韓国 10-6

決勝戦 アメリカ VS 日本 0-2



れた関係者であっても、会場に入るためにはその都度手荷物検査を受ける必要があり、厳戒態勢の中で試合は開催されました。



会場を囲んでいるフェンス

II 都市ボランティア

1 都市ボランティアの募集

福島県は、県営あづま球場で開催される野球・ソフトボール競技の観戦や、郡山市、会津若松市、いわき市で開催されるライブサイトへの来場者を、観光案内や交通案内を通じておもてなしするため、都市ボランティア(シティキャスト)を2018年(平成30年)12月14日～2019年(平成31年)2月28日まで募集し、2,281人の応募がありました。(ライブサイトの詳細はⅢ6参照)

2 研修及びイベント

(1) オリエンテーション

都市ボランティアへ応募した全員を対象に、大会の概要や活動内容の説明のため2019年(令和元年)5月26日～7月16日(うち15日間)に福島市、郡山市、会津若松市、いわき市、東京都でオリエンテーションを実施し、1,970人が参加しました。オリエンテーションでは内堀知事からの感謝を伝えるビデオメッセージを上映するとともに、グループアクティビティ(ボランティア同士で交流を図るための活動)やユニフォームサイズの確認、ボランティア登録情報の確認を行いました。



(2) City Cast Fukushima ミートアップ!

都市ボランティアへの機運醸成やボランティア同士の交流促進のため、(一財)日本財團ボランティアサポートセンターと共に、2019年(令和元年)8月25日に「City Cast Fukushima ミートアップ!」

を開催し、164人が参加しました。

過去に開催されたオリンピックのボランティア経験者による講演や、グループアクティビティを行ったほか、点字ブロックを並べて作ったコース上で目隠しをして歩行する体験、東京2020パラリンピック競技大会の種目であるボッチャの体験、県内の6次化商品、日本酒や伝統工芸品の展示を行い、福島県の魅力を再発見しながら、参加者同士が交流を深めました。



点字ブロックの上を目隠して歩く体験コーナー



ボッチャの体験コーナー

(3) テストイベントでの活動

2019年(令和元年)10月5日～6日、県営あづま球場で第52回日本女子ソフトボールリーグ1部第8節が東京2020大会の公式テストイベントとして開催された際に、都市ボランティアの経験値向上やオリエンピック本番に向けた運営課題の抽出のため、観戦客の誘導や、イベントチラシの配付等のボランティア活動を実施し、153人が参加しました。

(4) 共通研修

大会の歴史や、福島県の観光や復興に関する都市ボランティアの知識の向上を目的として、2019年(令和元年)11月10日～12月15日(うち13日間)に福島市、郡山市、会津若松市、いわき市、東京都で共通研修を実施し、1,773人が参加しました。多様性や障がいについて考えるダイバーシティ&インクルージョンに関するプログラムは、障がいのある方が講師を担当しました。



ダイバーシティ&インクルージョン研修



東京2020大会に向けての意気込み「We are City Cast!」

(5) その他の研修

2019年(令和元年)7月7日、都市ボランティアのうち中高生を対象に、全国7つの外国语大学で組織される全国外大連合が主催となり、外国人講師を招いて語学のスキルアップやコミュニケーションスキルを磨く「グローバルサマーセミナー2019」を実施し、64人が参加しました。

また、2019年(令和元年)8月24日～10月26日(うち9日間)には、日本赤十字社福島県支部が主催となり、AEDの使い方などの心肺蘇生、熱中症対策を含む手当の基本について座学や実技で学ぶ救急法講習会等を福島市、郡山市、会津若松市、いわき市で実施し、延べ195人が参加しました。

2019年(令和元年)12月10日～2020年(令和2年)2月4日及び2021年(令和3年)4月9日～9月8日には、(一財)日本財団ボランティアサポートセンターから提供されたプログラムを活用して、eラーニング研修を行いました。

3 都市ボランティアの決定

2020年(令和2年)2月4日、オリエンテーションと共に研修の修了者に対して、都市ボランティア決定通知を1,781人に送付しました。併せてリーダー希望者の215人には、都市ボランティアリーダー決定通知を送付しました。

4 東京2020大会の延期決定後

2020年(令和2年)3月24日に東京2020大会の延

期が決定したことにより、ボランティア活動も2021年に延期となったため、延期後の活動までのモチベーションの維持・向上を目的として様々な取組を行いました。

(1) City Cast NEWS

東京2020大会に関する情報や県営あづま球場の紹介、都市ボランティアへのインタビュー内容を掲載した情報誌「City Cast NEWS」を、2020年(令和2年)4月から毎月発行しました。



City Cast NEWS 第1号

(2) 活動に関する意識調査

2020年(令和2年)8月28日～9月30日まで、2021年の大会時の活動が可能かどうかの意向確認調査を実施した結果、1,485人が回答しました。回答した方のうち76%が活動できる見込みとの意向を示しました。

(3) 第2回 City Cast Fukushima ミートアップ！

2020年(令和2年)12月13日に、オリンピック・パラリンピックへの興味・関心やボランティア活動へのモチベーションを高めることを目的として「第2回 City Cast Fukushima ミートアップ！」をJヴィレッジで開催し、68人が参加しました。オリンピアンの朝原宣治さんをゲストに招いた講演会や交流会などをオンラインでも同時に実施しました。イベントでは、ボランティアの機運醸成につなげることを目的として、オリンピック会場となる県営あづま球場の改修の様子や設備等を福島県の担当者が紹介する動画を作成して上映しました。



朝原宣治さんによる講演



ボランティア同士の交流会



県営あづま球場紹介動画

(4) オリンピック聖火リレーでの活動

2021年(令和3年)3月25日～27日、オリンピック聖火リレーのイベント会場での誘導、受付補助のボランティア活動を実施し、138人が参加しました。



オリンピック聖火リレーのイベント会場での受付補助

(5) リーダー研修・配置場所別研修

2021年(令和3年)3月～4月、都市ボランティアへ配置場所希望調査を実施し、各活動場所への配置を決定しました。

2021年(令和3年)5月21日～30日(うち6日間)にはリーダーを対象とした研修をオンラインで実施し、151人が参加しました。同年6月11日～7月10日(うち6日間)には都市ボランティア全員を対象として、それぞれの活動場所において、活動内容の説明やロールプレイングを行う配置場所別研修を実施し、683人が参加しました。併せてユニフォーム一式の配付も行いました。



いわき駅で実施した配置場所別研修



ユニフォーム配付

5 福島県内での都市ボランティア活動の中止

2021年(令和3年)6月18日に福島県主催のライブサイト(鶴ヶ城公園・アクアマリンパーク)が新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止となり、また、6月29日に東京都と組織委員会が主催するライブサイト(開成山公園)も同様の理由により開催中止となりました。これを受け、会津若松エリア・いわきエリア・郡山エリアにおけるボランティア活動が中止となりました。(ライブサイトの詳細はⅢ6参照)

さらに、福島会場における野球・ソフトボール競技が無観客での開催となったことから、残っていた福島エリアでのボランティア活動も中止となりました。

6 東京2020大会期間から大会後の活動

(1) SNSでの情報発信

野球・ソフトボール会場やライブサイト会場でのボランティア活動の代替として、東京2020大会期間の2021年(令和3年)7月21日～9月5日に、都市ボランティアが地域の魅力や大会情報等をSNSで発信する取組を行い、27人が参加しました。

(2) 第54回日本女子ソフトボールリーグ1部

決勝トーナメント

2021年(令和3年)11月6日～7日、県営あづま球場で第54回日本女子ソフトボールリーグ1部決勝トーナメントが開催された際に、初めてユニフォームを着用してボランティア活動を行いました。2日間で91人が参加し、チケットもぎり、検温などの受付や誘導、福島県PRブースでのスタンプラリーの対応等を通して観客へのおもてなし活動を行いました。



来場者の受付



スタンプラリーブースでの対応



活動後の記念撮影

(3) 第3回 City Cast Fukushima ミートアップ！

2021年(令和3年)12月19日、これまでのボランティア活動の振り返りとボランティア同士の交流を目的として「第3回 City Cast Fukushima ミートアップ！」を福島県自治会館とオンラインの両方で実施し、77人が参加しました。ボランティアからの活動の報告や、(一財)日本財團ボランティアサポートセンターからの活動の説明、今後参加したいボランティア活動等についてグループごとの意見交換を行いました。



ボランティアからの活動報告



(4) ふくしまオンラインツアー

2021年(令和3年)12月19日と2022年(令和4年)1月22日に、福島県主催のオリンピアンと6人の都市ボランティアが福島を紹介するオンラインツアーを実施し、浜通り、中通り、会津地方の魅力や福島県の復興の姿について、オリンピアンと対話しながらオンラインで発信しました。

(5) オリンピックコンサート 2022 in ふくしま

2022年(令和4年)1月15日、郡山市民文化センターで開催されたJOC主催の「オリンピックコンサート 2022 in ふくしま」において、来場者の受付や誘導等

のボランティア活動を行い、33人が参加しました。(オリンピックコンサート 2022 in ふくしまの詳細は第4章VI参照)



来場者の受付



来場者の誘導

(6) 駐日外交団福島県視察ツアー

2022年(令和4年)1月13日～14日と18日～19日に、福島県主催の駐日大使等を対象とした県内の東日本大震災からの復興状況等を視察するツアーにおいて、16人の都市ボランティアが訪問先での視察の補助を行いながら、福島県の観光や魅力を発信しました。



東日本大震災・原子力災害伝承館での視察



県営あづま総合体育館メモリアルコーナーでの写真撮影

III 福島県の取組

1 県産品の活用

(1) 食材

①選手村

選手の東京2020大会期間中の拠点となる選手村では、生産工程の安全性を担保する第三者認証「GAP (Good Agricultural Practices)」を取得した福島県産の食材が活用され、日本食を提供するカジュアルダイニングでは、東日本大震災の被災3県の食材が毎日提供されました。(提供された食材一覧は資料編V参照)

また、農産物の国際認証「グローバルGAP」に取り組む岩瀬農業高等学校の生徒のポスターが選手村等に掲示され、福島県産農林水産物の魅力を発信しました。



②県内の選手食事会場

野球・ソフトボール競技開催のために福島県を訪れた選手の食事会場では、福島県産食材が提供されました。特に桃は、ソフトボール競技アメリカ代表のエリクセン監督から「桃はデリシャスだった」と絶賛され、野球競技ドミニカ共和国代表選手も「こんなに美味しいものは食べたことがない」とコメントするなど、各国の選手や監督に喜ばれました。



県内の食事会場で提供された福島県産桃(あかつき)

(2) 花き

①ビクトリーブーケ

メダリストに副賞として授与されるビクトリーブーケに、東日本大震災で被災した地域で育てた花きが採用されました。福島県産の花きは、オリン

ピックではトルコギキョウとナルコラン、パラリンピックではトルコギキョウが採用され、メダリストに花を添えました。



オリンピックビクトリーブーケ



パラリンピックビクトリーブーケ

②オリンピック聖火リレー

2021年(令和3年)3月25日にJヴィレッジで開催されたオリンピック聖火リレーランドスタートのステージの装飾には、福島県産のサクラ、ハナモモ、トルコギキョウ、レンギョウが活用されました。また、第1走者と第2走者の聖火受け渡し場所に設置した生け花には、福島県産のレンギョウ、ユキヤナギ、アンスリウム、アルストロメリア、キンギヨソウ、ストックが活用されました。

さらに、2021年(令和3年)7月23日に東京都庁の都民広場で行われた聖火リレー到着式の会場装飾には、福島県産のヒマワリ約1,000本が活用され、リレー終了後は都庁内に展示されました。



聖火リレーランドスタートでの装飾



聖火受け渡し場所に設置した生け花



聖火リレー到着式での福島県産ヒマワリの装飾

③福島あづま球場、県内の選手食事会場

福島県は、福島あづま球場に設けられた来賓向けのラウンジや、福島県を訪れた選手の食事会場を、福島県産の花で作られたアレンジメントで装飾して、大会関係者を迎えるました。



福島あづま球場ラウンジの装飾



選手食事会場の装飾



選手食事会場の装飾

(3) 水素

浪江町の「福島水素エネルギー研究フィールド(FH2R)」で製造された福島県産水素が大会関連の

燃料として活用されました。

①オリンピック聖火トーチと聖火台

県内で行われた聖火リレーでは、浪江町を走行した3人と県内の各走行日の最終ランナー3人が水素を活用した聖火トーチを掲げて走行しました。また、オリンピックスタジアムで行われた東京2020オリンピック・パラリンピックの開閉会式の聖火台に活用されました。

②選手村等

選手村内のリラクゼーションハウスでのクールスボットやマッサージチェアの電源として水素が活用されました。また、大会関係車両として使用された燃料電池自動車(FCV)にも活用されました。

(4) 木材**①選手村**

全国の自治体から提供された木材が選手村内交流施設「ビレッジプラザ」の構造材や床材等に活用され、福島県では、いわき市、白河市、田村市、矢祭町から伐採、搬出したスギ・ヒノキ材約113m³を提供しました。



ビレッジプラザで活用された福島県産木材

②メインプレスセンター、東京都メディアセンター等

世界各国のメディアの活動拠点となるメインプレスセンター内に設置された「東京2020復興ブース」や、東京都メディアセンターを含む大会関連施設において、福島県内の小中学生(29市町村から71校が参加)が製作に携わった木製ベンチが設置されました。



Photo by Tokyo 2020

③福島あづま球場

福島あづま球場に設けられた来賓向けのラウンジでは、感染症対策のため、福島県木材協同組合連合会から提供された福島県産タモ製の消毒液スタンドを設置しました。



消毒液スタンド

(5) 工芸品

東京2020大会をいつまでも人々の記憶に残る大会とするため、組織委員会が日本各地の伝統工芸品等を公式ライセンス商品化する取組を行い、福島県からは大堀相馬焼、白河だるま、赤ベコ、二本松万古焼、会津木綿、漆皮、会津塗、会津本郷焼の8品目38商品が販売されました。(詳細は資料編V参照)

(1) 東京2020大会延期前の都市装飾

福島県では、2020年(令和2年)3月16日から、競技会場となるあづま総合運動公園、会場へ向かう観客の動線上であり、シャトルバスの発着場となるJR福島駅及び県内各方部の主要6駅(JR郡山駅、JR会津若松駅、JR新白河駅、JR原ノ町駅、JRいわき駅、会津鉄道会津田島駅)、福島県庁で、のぼり旗や横断幕を設置しました。

2020年(令和2年)3月24日に東京2020大会と聖火リレーの延期が決定されましたが、延期後の大会に向けて福島県内の機運を高めるため、9月17日まで実施しました。



あづま総合運動公園



JR福島駅



JR郡山駅



JR会津若松駅



JR新白河駅



会津鉄道会津田島駅



JR原ノ町駅



JRいわき駅



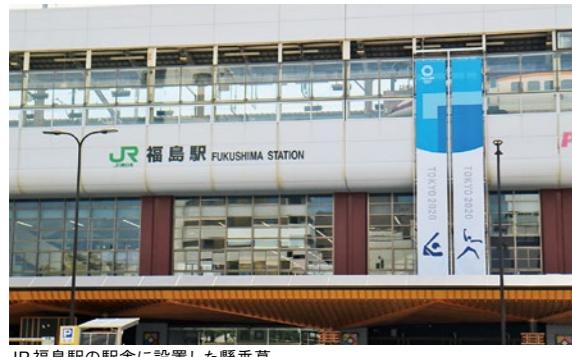
福島県庁

(2) 東京2020大会延期後の都市装飾

延期後の大会開催まで残り3ヶ月と迫った2021年(令和3年)4月14日~9月16日まで、都市装飾を実施しました。

延期前と同様に、あづま総合運動公園、JR福島駅及び県内各会場の主要6駅、福島県庁にのぼり旗や横断幕を設置しました。

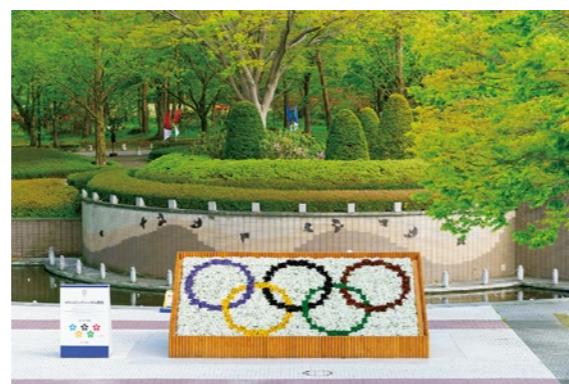
さらに、大会開催1ヶ月前には、長さ13mの大型懸垂幕と階段装飾がJR福島駅西口を彩りました。



JR福島駅の駅舎に設置した懸垂幕



JR福島駅西口構内に設置した階段装飾



あづま総合運動公園に設置されたオリンピックシンボル花壇

花壇には、福島明成高等学校の生徒が育てた草花を使用し、草花の植え替えは生徒が1株ずつ手作業で行いました。

東京2020大会前には県営あづま総合体育館前広場、大会の直前には競技会場となる福島あづま球場前に設置し、大会関係者や来県したメディアを迎えるました。



福島明成高等学校の生徒による植え替え作業

2020年(令和2年)5月15日~6月14日

ビオラ(赤、青、黄、黒、白)、リーフレタス(緑)



2020年(令和2年)6月15日~7月19日

ベゴニア(赤、白)



2020年(令和2年)7月20日~8月27日

カリプラコア(赤、青、黄、白)、バジル(緑、黒)



2020年(令和2年)8月28日~9月30日

カリプラコア(黄、青)



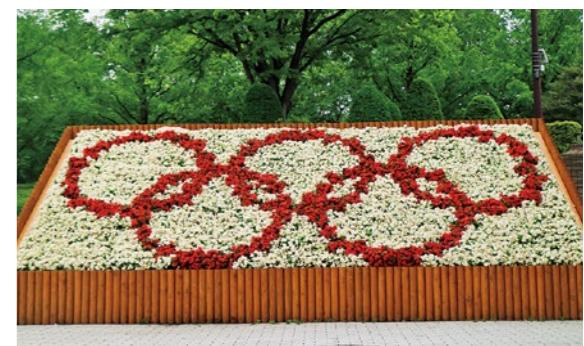
2021年(令和3年)4月26日~5月20日

ビオラ(赤、青、黄、黒、白)、西洋芝(緑)



2021年(令和3年)5月21日~6月25日

ベゴニア(赤、白)



2021年(令和3年)7月14日~7月25日※県営あづま球場前に移設

ベゴニア(赤、白)、アゲラタム(青)、マリーゴールド(黄)、バジル(黒、緑)



2021年(令和3年)7月26日~7月30日

ベゴニア(赤、白)、エキザカム(青)、マリーゴールド(黄)、コリウス(黒)、西洋芝(黒、緑)



3 スペクタキュラー

スペクタキュラーとは、大会機運を盛り上げるとともに、祝祭感を演出するため、IOCの承認を受けオリンピック・パラリンピックシンボルや大会固有のマークなどを用いて作られる大型展示物で、東京2020大会の地方会場においてはそれぞれ1ヶ所のみ展示することが認められました。

福島県では、来場者のおもてなしのため、福島県産の草花と会津坂下町産の杉丸太を使用した横6.4m、奥行3.2m、高さ2.35mの「オリンピックシンボル花壇」をあづま総合運動公園に設置しました。

東京2020大会の延期前には1回あたり2,160株の草花を使用しましたが、延期後には草花1株1株の成長を促すため株数を減らし、1回あたり1,620株の草花を使用しました。

オリンピックシンボル花壇を制作して



福島明成高等学校 生物生産科 3年
鈴木 花帆さん

今回、オリンピックシンボル花壇に携わることができたのは、とても貴重な体験でした。本当であれば先輩方が行う予定でしたが、コロナの影響で大会が延期になってしまいました。その為、先輩方の想いを受け継ぎ、私たちの精一杯の力で多くの人に喜んでもらえるような花壇を作る!と決意し参加しました。

福島では原発事故の影響で、当時は外で遊べない時期がありました。そんな福島が、時間をかけて復興に向けて歩みを進め、オリンピック競技の会場にも選ばれるほどになったことにとても喜びを感じました。震災があったころには、考えられないことです。地元、福島で一生に一度かもしれないオリンピックに携われたことは、私が一生自慢できることだと思います。ご助力いただいた方々、本当にありがとうございました。



4 輸送

(1) 輸送体制

東京2020大会の観客や選手、関係者に安全かつ円滑で迅速な輸送サービスを提供するため、組織委員会と福島県が共同座長となり、警察本部やバス事業者等の関係機関を構成員として「福島県輸送連絡調整会議」を2018年(平成30年)1月に設置し、輸送方針の策定や輸送のオペレーションについて検討しました。

また、輸送の司令塔となる輸送センターを稼働させ、大会期間前から大会期間中の交通の状況等をリアルタイムで把握することで、様々な事象に迅速かつ適切に対応しました。

(2) 輸送ルート

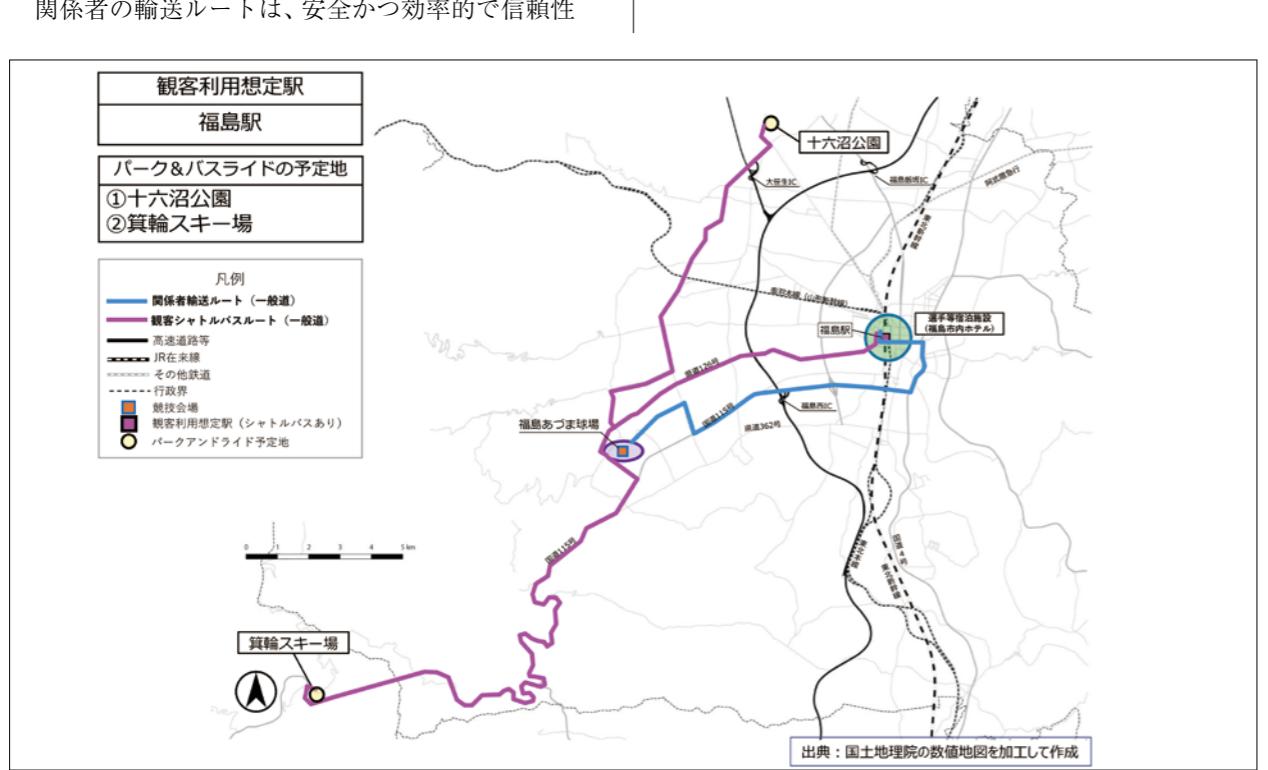
関係者の輸送ルートは、安全かつ効率的で信頼性

が高く、遅れのない輸送サービスを提供するとともに、一般市民生活や都市活動に与える影響を考慮して設定しました。(下図青線参照)

また、観客輸送ルートも設定しましたが、無観客開催に伴い利用はありませんでした。(下図紫線参照)

(3) パーク&バスライド

会場から一定の距離があり、関係者ルートや観客ルートに大きな影響を与えない位置に自家用車駐車場を用意し、そこから競技会場までシャトルバスを運行する「パーク&バスライド」方式を採用しました。福島会場では、十六沼公園(福島市)と箕輪スキー場(猪苗代町)に駐車場を設定しましたが、無観客開催に伴い利用はありませんでした。(下図参照)



東京2020大会輸送の概要(大会関係者・観客)

(4) 交通対策等

競技会場周辺及び福島駅周辺については、福島県警察本部等と連携し、通行規制エリアを設定しました。各関係機関と連携して福島市内全域や商工会議所にチラシを配付するなど広く周知を行って交通需要の抑制を図り、安全かつ円滑な輸送を実施しました。



5 学校連携観戦プログラム(中止)

組織委員会は、オリンピック・パラリンピックの競技観戦を通じて一生の財産として心に残る機会を提供し、スポーツの力による元気と感動を届けるとともに、子どもたちの応援を通じて世界に向けて復興への感謝を発信するため、東京2020大会に子どもたちを招待する学校連携観戦プログラムを企画しました。

福島県では、2019年(令和元年)8月～2020年(令和2年)2月にかけて、県内の小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校を対象として4回の募集を行った結果、177校20,680人から申込がありました。

東京2020大会が1年延期となった後の2021年(令和3年)5月～7月に改めて観戦への最終意向調査を実施したところ、48校3,684人から引き続き観戦したいとの意向が示されました。

観戦に向け、子どもたちが安全・安心に観戦できるよう、マスク着用や手指消毒の徹底、児童生徒と一般の観客との動線を区分するなどの新型コロナウイルス感染症対策を行うこととしたほか、ミストファンの設置やうちわ及び冷却タオルの配付、休憩

場所としての日除けテントの設置などの暑さ対策を準備しました。しかし、2021年(令和3年)7月10日、福島会場における野球・ソフトボール競技が無観客での開催となったことから、学校連携観戦プログラムは中止となりました。

6 東京2020ライブサイト(中止)

ライブサイトとは、東京2020大会期間中に大型モニター等を利用して競技中継等を通して東京2020大会の感動と興奮を共有する場で、福島県内では、福島県と組織委員会が主催する開成山野外音楽堂(郡山市)、東京都と組織委員会が主催する鶴ヶ城公園(会津若松市)とアクアマリンパーク(いわき市)の3か所で開催予定でした。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、2021年(令和3年)6月18日に開成山野外音楽堂での開催が、6月29日に鶴ヶ城公園とアクアマリンパークでの開催が中止となりました。

7 福島あづま球場周辺でのイベント(中止)

福島県では、オリンピック競技開催時に福島あづま球場を訪れる国内外からの来場者に対して、福島県の復興の姿や魅力を発信するため、市町村等が出演するPRイベントの実施を予定していました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により2021年(令和3年)6月28日に中止を発表し、暑さ対策の観点から大型冷風機等の設置やうちわ等の暑さ対策グッズの配付を行う観客向けの休憩所の設置に内容を変更しました。さらに、福島会場における野球・ソフトボール競技が無観客での開催となったことから、休憩所の設置も中止となりました。

8 各国大使招待(中止)

福島県では、県の復興の姿や震災からこれまでの支援に対する感謝を伝えるため、関係各国の大使を福島あづま球場での競技観戦へ招待する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、2021年(令和3年)7月9日に中止を発表しました。

IV 組織委員会と連携した取組

1 オリンピック開閉会式への福島県民の出演

(1) 開会式

2021年(令和3年)7月23日にオリンピックスタジアムで行われた開会式では、東日本大震災で被災した岩手県、宮城県、福島県の小中学生6人が、国立競技場内で聖火ランナーを務め、最終走者の大坂なおみ選手[女子テニス]に聖火をつなぎました。福島県からは、青木心那さん(いわき市立藤間中学校)と、中澤蓮さん(広野町立広野中学校)の2人が参加しました。



聖火を運んだ被災地の子どもたち

また、郡山高等学校の生徒8人と豊島岡女子学園高等学校(東京都)の生徒12人で編成した男女合唱団が、東京都交響楽団が演奏する「オリンピック賛歌」に合わせてステージで歌唱する中、オリンピッ

ク旗が掲揚されました。



写真:ロイター/アフロ
オリンピック賛歌を披露する郡山高等学校と豊島岡女子学園高等学校の生徒

(2) 閉会式

2021年(令和3年)8月8日にオリンピックスタジアムで行われた閉会式では、ボランティア表彰が行われ、都市ボランティアの代表の1人として、福島県シティキャストの押山奈央さんが参加し、IOCから表彰を受けました。



Photo by Meg Oliphant/Tokyo 2020
表彰式でIOCから花束の贈呈を受けたボランティア

開会式・閉会式に参加して

開会式



青木 心那さん

福島、岩手、宮城の3県から集まった5人の小中学生と共に、たくさんの思いをのせた聖火をつなぎました。東日本大震災を経験した私たちには、どんな辛いことも乗り越える力があるということを、日本の皆さん、いや世界中の人たちに知ってほしいという気持ちで聖火ランナーを務めました。

聖火台に点火された瞬間、私は世界が一つにまとまった気がしました。どんな困難も、一人一人が手を取り合えば乗り越えることができるということを実感できた素晴らしい体験でした。

開会式



中澤 蓮さん

世界が注目するオリンピックの開会式で聖火ランナーを務めることには驚きましたが、復興を望むふるさとの方々を勇気づけたいという想いで、聖火を手に取り、大きく手を振りながら国立競技場を走りました。

開会式では世界の選手団の姿を間近に見て、オリンピックに出場したいという気持ちがより強くなりました。将来はサッカー日本代表として再びオリンピックの開会式に参加し、活躍したいです。

閉会式



押山 奈央さん

東京五輪の閉会式で都市ボランティア「シティキャスト」の代表として表彰を受けたことは、とても貴重な経験でした。ステージに上がったときに、近くにいた日本人選手団の皆さん笑顔で拍手をしてくれたことが強く印象に残っています。

実際に予定していたボランティア活動はなくなりましたが、シティキャストとして東京2020大会に関わった経験を胸に刻み、今後も国際交流やボランティアを通して福島の復興の状況や魅力を発信するような活動を行っていきたいと思います。

2 フラワーレーンプロジェクト

組織委員会は、オリンピックの来場者をおもてなしするため、福島県内の子どもたちが育てたアサガオの鉢植えを、福島あづま球場の観客動線に設置しました。無観客開催となったものの球場内外に設置され、応援の気持ちや東京2020大会開催への感謝を選手や関係者に届けました。



観客動線に並べられたアサガオ

ました。福島会場では、野球・ソフトボール競技に取り組む県内の小学生から6人が選ばれました。

無観客開催のため大会では活動できませんでしたが、2021年(令和3年)11月7日に県営あづま球場で行われた日本女子ソフトボールリーグ決勝トーナメントにおいて、坂本結飛さん(いわき市立夏井小学校)が始球式の投手と表彰式の補助を、湯田珠梨さん(南会津町立田島中学校)が表彰式の補助を務めました。



始球式で投球する坂本さん



子どもたちからのメッセージ

3 エスコートキッズ

組織委員会は、東京2020大会を契機に、未来を担う子どもたちにスポーツへの興味関心を持ってもらうとともに、すでに競技に取り組んでいる子どもたちに競技への意欲をより一層高めてもらえるよう、大会時に選手入場のエスコート等を行う「東京2020みんなのエスコートキッズプロジェクト」を企画し

V 文化プログラム

オリンピックの根本原則であるオリンピック憲章では、「オリンピズムはスポーツを文化、教育と融合させ、生き方の創造を探求するものである」とされており、開催都市をはじめ各地で様々な文化イベント(文化プログラム)が実施されました。

1 東京2020NIPPONフェスティバル しあわせはこぶ旅 モッコが復興を歩む東北からTOKYOへ

組織委員会は、大会への期待感とオリンピック・パラリンピックムーブメントの醸成を図るとともに、大会後にレガシーを遺すことを目的として、クリエイティブディレクターの箭内道彦さんが監修し、東北の子どもたちとのワークショップを通じて生まれた、身長10mを超える巨大人形「モッコ」を、東北各地と東京を舞台に展開しました。「モッコ」は、岩手県、宮城県、福島県の各会場で預かったメッセージを世界に発信しました。

県内では、2019年(令和元年)4月23日に、南相馬市立原町第二小学校で「モッコ」のデザインを考えるワークショップが開催され、5年生31人が参加しました。



原町第二小学校でのワークショップ

また、「モッコ」の製作には、「東北ゆかりの繊維素材」が活用され、福島県からは、会津木綿が「モッコ」の髪などに使用されました。

2021年(令和3年)5月29日には、南相馬市の雲雀ヶ原祭場地で、「しあわせはこぶ旅 モッコが復興を歩む東北からTOKYOへ in ふくしま」が無観客で開催されました。福島県のメッセージがモッコに託された後、南相馬市の中ノ郷騎馬会による礼螺を合団にモッコの操演が行われ、青空の下、躍動感のある踊りを披露しました。



モッコの操演

2 東京2020参画プログラム

東京2020参画プログラムは、オリンピック・パラリンピック・ムーブメントへの参加やレガシー創出に向けた取組の促進を目的として実施するイベントや事業であり、組織委員会から認証を受けたイベントや事業は、参画プログラムのマークや「オリンピック・パラリンピック」等の文言を使用することができ、福島県では、2016年～2021年まで取り組みました。

参画プログラムには各府省庁、開催都市、会場関連自治体、大会スポンサー等を対象とする「公認プログラム」と、会場関連自治体以外の自治体、自治会・町内会、商店街、一般社団・財団法人、NPO等の非営利団体を対象とする「応援プログラム」があり、福島県内で認証された公認プログラムは2,450件、応援プログラムは132件ありました。そのうち、福島県が申請し認証された公認プログラムは38件ありました。(詳細は資料編VI参照)



3 beyond 2020 プログラム

beyond2020プログラムは、日本文化の魅力を発信するとともに2020年以降のレガシー創出に資する取組に対し、国が「beyond2020ロゴマーク」を付与して推進する文化プログラムで、福島県では2017年～2022年まで取り組みました。

日本文化の魅力を発信するとともに、共生社会、国際化に繋がるレガシーを創出するため、「日本文化の魅力を発信する事業・活動」であること及び「多様性・国際性に配慮した事業・活動」を認証要件としました。

公的機関のほか、民間事業者、その他任意団体等幅広い主体が実施する事業・活動が認証の対象となり、営利活動、非営利活動に関わらず、文化に関わる幅広い活動が認証されました。

福島県内では、内閣官房等により48件、福島県により22件が認証され、次世代に誇れるレガシーの創出に資する活動が実施されました。(詳細は資料編VII参照)



beyond 2020プログラムのロゴマーク

第3章

福島県ゆかりの出場アスリート

- I オリンピアン
- II パラリンピアン
- III 監督・コーチなど

第3章 福島県ゆかりの出場アスリート

I オリンピアン

桃田 賢斗

ももたけんと

1994年(平成6年)
9月1日生まれ
富岡高等学校卒

バドミントン
男子シングルス



渡辺 勇大

わたなべ ゆうた

1997年(平成9年)
6月13日生まれ
富岡高等学校卒

バドミントン
男子ダブルス
混合ダブルス[銅メダル]



宮田 悠佑

みやた ゆうすけ

1991年(平成3年)
5月21日生まれ
二本松市出身
安達高等学校卒

カヌー
男子スプリント
カヤックフォア500m



皆川 博恵

みながわ ひろえ

1987年(昭和62年)
8月19日生まれ
福島県レスリング協会
所属
(クリナップ株所属)

レスリング
フリースタイル
女子76kg級[5位入賞]



東野 有紗

ひがしの ありさ

1996年(平成8年)
8月1日生まれ
富岡高等学校卒

バドミントン
混合ダブルス[銅メダル]



遠藤 純

えんどう じゅん

2000年(平成12年)
5月24日生まれ
白河市出身
ふたば未来学園高等学校卒
(JFAアカデミー福島出身)

サッカー
女子[8位入賞]



金子 広美

かねこ ひろみ

1980年(昭和55年)
9月9日生まれ
白河第二高等学校卒

自転車競技
女子ロードレース



新田 祐大

にった ゆうだい

1986年(昭和61年)
1月25日生まれ
会津若松市出身
白河高等学校卒

自転車競技
男子ケイリン
男子スprint



菅澤 優衣香

すがさわ ゆいか

1990年(平成2年)
10月5日生まれ
富岡高等学校卒
(JFAアカデミー福島出身)

サッカー
女子[8位入賞]



三宅 史織

みやけ しおり

1995年(平成7年)
10月13日生まれ
富岡高等学校卒
(JFAアカデミー福島出身)

サッカー
女子[8位入賞]

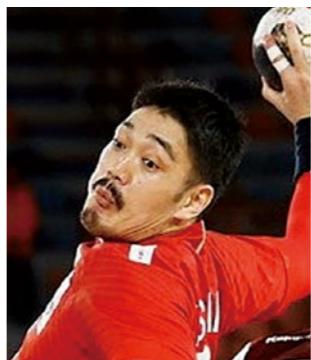


笠原 謙哉

かさはら けんや

1988年(昭和63年)
5月15日生まれ
福島市出身
聖光学院高等学校卒

男子ハンドボール



相澤 晃

あいざわ あきら

1997年(平成9年)
7月18日生まれ
須賀川市出身
学法石川高等学校卒

陸上競技
男子10000m



近内 三孝

こんない みつのり

1996年(平成8年)
3月14日生まれ
三春町出身
田村高等学校卒

ウエイトリフティング
男子67kg級[7位入賞]



松元 克央

まつもと かつひろ

1997年(平成9年)
2月28日生まれ
いわき市出身

競泳
男子200m自由形
男子4×200mリレー
混合4×100mリレー



山内 大夢

やまうち ひろむ

1999年(平成11年)
8月24日生まれ
会津若松市出身
会津高等学校卒

陸上競技
男子400m障害



山下 潤

やました じゅん

1997年(平成9年)
8月23日生まれ
福島市出身
福島高等学校卒

陸上競技
男子200m



II パラリンピアン

半谷 静香

はんがい しづか

1988年(昭和63年)

7月23日生まれ

いわき市出身

東日本国際大学附属

昌平高等学校卒

視覚障がい(B1)

柔道

女子48kg級 [5位入賞]



佐々木 真菜

ささき まな

1997年(平成9年)

9月2日生まれ

福島市出身

県立盲学校高等部卒

視覚障がい(T13)

陸上競技

女子100m

女子400m [7位入賞]



豊島 英

とよしま あきら

1989年(平成元年)

2月16日生まれ

いわき市出身

平商業高等学校卒

車いすバスケットボール
[銀メダル]



橋本 勝也

はしもと かつや

2002年(平成14年)

5月9日生まれ

三春町出身

田村高等学校卒

車いすラグビー [銅メダル]



III 監督・コーチなど

●オリンピック

高倉 麻子監督(サッカー)

橋本 寛コーチ(フェンシング)

舍利弗 学コーチ(ハンドボール)

前田 翔吾コーチ(レスリング)

柿木 孝之コーチ(自転車競技)

●パラリンピック

村上 光輝監督(ボッチャ)

権丈 泰巳監督(自転車競技)

菊池 日出子競技パートナー(トライアスロン)

第4章

競技開催後の取組

I 記念碑・銘板

II 東京2020大会記念展示

III 東京2020復興のモニュメント

IV メダリストの凱旋

V 第54回日本女子ソフトボールリーグ1部
決勝トーナメント

VI オリンピックコンサート2022 in ふくしま

VII 東京2020表彰台レガシープロジェクト贈呈式

第4章 競技開催後の取組

I 記念碑・銘板

福島県では、東京2020大会の記録や記憶を後世に継承するレガシーとして、東京2020オリンピック野球・ソフトボール競技開催記念碑と銘板を、県営あづま球場前に設置しました。

これは、会場所在自治体が国際オリンピック委員会（IOC）の承認を受けて設置するもので、2019年（令和元年）12月に承認され、2021年（令和3年）12月7日にお披露目しました。

1 記念碑

記念碑には、いわき市産の御影石を使用し、大会エンブレムや野球・ソフトボール競技のピクトグラム、県営あづま球場の会場カラーである藍色の大会ルック（オリンピック専用デザイン）などを表示しました。



大会が開催された証の記念碑

また、これまで国内外から頂いた東日本大震災からの復興支援への感謝を発信するため、「あったかふくしま観光交流大使」として福島県を拠点として

東京五輪 記念碑「感謝」揮毫の思い



千葉 清藍さん

県営あづま球場に設置された東京五輪の記念碑および銘板は、2021年12月にお披露目されました。私は記念碑の「感謝」の文字を揮毫し、熱戦の記憶と東日本大震災から10年という月日の中で全世界から頂いた支援に対する思いをしたためました。コロナ禍の東京五輪は延期に加え、制限と困難の中で開催されました。しかし、選手や携わる人々から勇気と感動を与えてもらい、苦難とともに得られた記憶は経験となり、明日への希望につながると信じています。県営あづま球場の四季折々の美しい景色の中で、福島・日本・世界中の人々がそれぞれの人生の中にある思い出や感謝の心と照らし合わせて、記念碑と銘板をご覧になっていただけたらうれしく思います。

国内外で活動する書道家の千葉清藍さんが揮毫した「感謝」の文字を表示しました。



千葉さんが揮毫した感謝の文字

2 銘板

銘板には、競技を開催した会場のみが表示できるオリンピック競技大会会場ラベルや野球・ソフトボール競技のピクトグラム、競技結果、大会時の球場の様子を写真で表示し、大会の足跡を感じられるデザインとしました。



大会の様子が感じられる銘板
オリンピック競技大会会場ラベル



東京2020大会記念展示

II 東京2020大会記念展示

福島県は、東京2020大会の記録や感動を伝え、大会のレガシーを継承するため、2022年（令和4年）1月11日、県営あづま総合体育館に野球・ソフトボール競技の選手ゆかりの品や大会関連の品の展示コーナーを設けました。

県営あづま球場で試合を行った各国チームのサインボールや、実際に大会で使用されたファーストベース、メダリストの副賞となったビクトリーブーケのレプリカ等が展示され、大会の様子を伝えています。

III 東京2020復興のモニュメント

東京2020復興のモニュメントは、組織委員会が東日本大震災の被災地と世界が結び付き復興を後押しすることを目的として、被災地の仮設住宅のアルミ建材を再利用し制作されました。東京2020大会時に国立競技場近くの聖徳記念絵画館前に設置された後、大会終了後に大会レガシーとして岩手・宮城・福島の各県に設置されました。

福島県では、2019年（令和元年）8月20日に安積黎明高等学校で開催されたワークショップで、モニュメントのデザインの決定とメッセージの作成が行われました。同校の生徒のほか県内の高校生86人が参加し、東京藝術大学の学生が用意した5つの案から、投票によりデザインを決定しました。



安積黎明高等学校でのワークショップ

2021年（令和3年）12月18日、福島県に譲渡されたモニュメントのお披露目式がJヴィレッジで実施されました。モニュメントをデザインした東京藝術大学卒業生の岡つくしさん、ワークショップに参加した郡山北工業高等学校の伊藤楓真さん、ゲストとして東京2020大会柔道男子100kg級金メダリストのウルフ・アロン選手が出席しました。ウルフ選手は「オリンピックが被災地の方々の心に元気を与えられたらうれしく思う」とあいさつし、式の最後には、小名浜海星高等学校による「じゃんがら念佛踊り」が披露されました。



出席者によるモニュメントの除幕
Photo by Tokyo2020



伊藤さん(左)と岡さん(右)

IV メダリストの凱旋

1 侍ジャパン稻葉監督、 ソフトジャパン宇津木ヘッドコーチ 知事表敬訪問

2021年(令和3年)9月16日、野球日本代表の稻葉篤紀監督、ソフトボール日本代表の宇津木麗華ヘッドコーチが、東京2020オリンピック野球・ソフトボール競技における金メダル獲得の報告のため、内堀知事を表敬訪問しました。表敬訪問には福島県野球団体協議会の松本壹雄会長、福島県ソフトボール協会の長澤初男会長も同席しました。

両監督は、県営あづま球場の素晴らしい環境でプレーができることや福島県民からの応援に対する感謝の思いを述べました。

稻葉監督は「改修されたあづま球場はプレーがしやすい球場だと思いました」とコメントし、初戦のドミニカ共和国戦での逆転サヨナラ勝ちについて「勢いに乗れた。ここからスタートして、最高の形で終えられた」と振り返りました。また、宇津木ヘッドコーチは、「選手村よりも、福島のお米がおいしかった。私は毎食桃を食べていた」と福島県産農産物のおいしさについてコメントしました。



両監督から贈られたサイン入りパネルとユニフォーム



2 SOFT JAPAN ゴールドメダリストセレモニー

2021年(令和3年)11月3日、ソフトボール日本代表の宇津木麗華ヘッドコーチと15人の選手たちが、

東京2020オリンピックソフトボール競技の開幕の地となった県営あづま球場に凱旋しました。

内堀知事から宇津木ヘッドコーチと選手たちに県産品が贈呈された際、宇津木ヘッドコーチは「福島で勇気づけられて金メダルを取れた。福島はすべてが最高！」とコメントしました。

トークショーでオリンピックの試合を振り返った後、選手たちと県内の子どもたちが「キックベースボール」で交流しました。



県産品の贈呈



参加者による記念撮影

V 第54回日本女子ソフトボール リーグ1部決勝トーナメント

2021年(令和3年)11月6日～7日、(一社)日本女子ソフトボールリーグ機構が主催する「第54回日本女子ソフトボールリーグ1部決勝トーナメント」が県営あづま球場で開催され、2日間合計で6,722人の観客が来場しました。大会には、金メダルを獲得した日本代表選手も多く参加しました。

東京2020大会では活動できなかった都市ボランティアが受付や検温、感染対策の呼びかけ等で活動したほか、東京2020大会で選手と一緒に入場する「エスコートキッズ」への参加を予定していた県内の子どもたちが始球式や表彰式のメダル贈呈補助等を行いました。また、試合前のセレモニーでは、出場チームに福島県産の米「福、笑い」や、りんごを贈呈したほか、球場内のコンコースでは、市町村等県内17団体が県産品販売等のPRブースを展開し、福島県の復興に向けた取組等を発信しました。



都市ボランティアの活動



県産品の贈呈



市町村との連携で実施したPRブース



観客でにぎわうPRブース

VI オリンピックコンサート2022 in ふくしま

2022年(令和4年)1月15日、(公財)日本オリンピック委員会(JOC)が主催する「オリンピックコンサート2022 in ふくしま」が、郡山市民文化センター大ホールで開催されました。東京2020大会の競技映像と壮大なオーケストラの演奏、郡山高等学校合唱団の美しい歌声の競演で、714人の観客が東京2020大会の感動を再び共有しました。

コンサートには、JOCの山下会長と内堀知事が登

壇し、山下会長はこれまでJOCが実施してきた被災地復興支援事業について「スポーツの力で、これからも復興に役立てるよう頑張りたい」と語り、内堀知事は「福島県で野球とソフトボール計7試合が開催され、それぞれの日本代表が見事に勝ち抜いて、最後、金メダルをとった。そのプロセスを見て、県民の皆さん本当に感激して、勇気と元気をいただきました」と振り返りました。

また、東京2020大会に出場した福島県ゆかりのオリンピアン・パラリンピアン6人(山内大夢選手[陸上競技]、近内三孝選手[ウエイトリフティング]、新田祐大選手[自転車]、峰幸代選手[ソフトボール]、半谷静香選手[柔道]、豊島英選手[車いすバスケットボール])が登壇し、峰選手は、「被災地の皆さんから感謝してもらい、勇気や励ましをいただいた。『もう一度、オリンピックにチャレンジしたい』という気持ちは、福島の皆さんから頂いたという、とても深いご縁があり、この場に立って皆さんに金メダルをお見せできるのを本当にうれしく思っています」と話し、観客から拍手が送られました。



福島県ゆかりのオリンピアン・パラリンピアン6人が登壇



ソフトボール競技金メダリストの峰選手

オリンピックコンサートに参加して



郡山高等学校 合唱部 部長

佐藤 美憂さん

「勇気をありがとう、感動をありがとう」をテーマに開催された今回のオリンピックコンサートで、素晴らしい共演者の方々と素敵なステージを作ることができ、また、オリンピックコンサートだからこそ歌うことの出来る曲を演奏させていただき、とても良い経験となりました。

私はスポーツと音楽は全く違うものだと思っていました。しかし、オリンピックコンサートに参加したこと、スポーツも音楽も人々に感動を与えるものであり、その2つが合わさることでさらに大きな感動が生まれるということに気付きました。その奇跡的な瞬間に私たちも携わらせていただけたことに心から感謝申し上げます。

最後に、今回の経験をいかしてこれからも部活動に励むとともに、福島の復興に少しでも貢献出来るように精進してまいりたいと思います。



VII 東京2020表彰台 レガシープロジェクト贈呈式

2022年(令和4年)1月17日、組織委員会により東京2020大会のメダリストが登壇した表彰台を母校に届ける「表彰台レガシープロジェクト」の贈呈式が行われました。

バドミントン混合ダブルス競技で銅メダルを獲得



銅メダリストの渡辺選手



渡辺選手と全校生徒による記念撮影

した、渡辺勇大選手、東野有紗選手が実際に登壇した表彰台が、両選手の出身校である富岡高等学校の伝統を引き継ぐふたば未来学園中学校・高等学校に寄贈されました。

式に参加した渡辺選手は、全校生徒に対して「自分が経験したことを、表彰台として受け継いでもらうことに意義を感じる。実際に見て何かを感じとつて欲しい」とあいさつしました。

第5章

ホストタウン

I 福島県内のホストタウン

II 東京2020大会における事前合宿の受入れ

III 事前合宿における新型コロナウイルス感染症対策

第5章 ホストタウン

東京2020大会をきっかけとして、日本の自治体と東京2020大会に参加する国・地域の住民等が、スポーツ、文化、経済などの多様な分野で交流することを通じて、地域の活性化等にいかし、東京2020大会を超えた末永い交流を目的とした、国を挙げた取組が行われました。この取組は、過去の大会にはないもので、2019年（令和元年）12月に「オリンピック休戦決議」が国連総会で採択された際に、史上初の取組として「ホストタウン」が紹介されました。

福島県では、6市2町1村のホストタウン、6市3町2村の復興「ありがとう」ホストタウン、1市1町の共生社会ホストタウンが登録され、東京2020大会に向けて各市町村が工夫を凝らし、各国・地域と交流を深めました。

福島県は、海外に向けて復興する姿を発信し、風評の払拭につなげるため、各市町村が実施するホストタウン交流を積極的に支援しました。

I 福島県内のホストタウン

1 ホストタウン

ホストタウンには、東京2020大会に向けて、ス

〈福島県内のホストタウン（9自治体 6市2町1村）〉

自治体名	相手国・地域との交流内容
福島市	<p>(スイス)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●復興支援としてスイスが福島市で航空イベント等を開催したことが契機 ●2019年、福島市にスイス柔道連盟の学生たちを招き、農業体験、柔道交流等を実施 ●「2019ホストタウンフェスティバルinふくしま」開催  <p>こげしの絵付け体験</p> <p>(ベトナム)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ベトナムサッカー代表チームと事前合宿について合意したことが契機 ●2019年、ベトナムサッカー女子代表候補の合宿受入 ●2019年、ふくしま・ベトナム友好協会と「ベトナムフェスティバルinふくしま」等文化イベントを開催  <p>桃狩り体験</p>
会津若松市	<p>(タイ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●会津若松市とタイ企業による共同事業が契機 ●2018年、タイボクシング代表候補の合宿受入 ●2019年、タイ・日本ボクシング代表候補の合宿受入 ●2019年、東京2020大会時の事前合宿受入れに向けて、会津農林高等学校と連携し「おもてなしメニュー」を開発  <p>タイ・日本代表合同合宿</p>

自治体名	相手国・地域との交流内容	サッカー教室を開催
郡山市	<p>(オランダ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●1988年から続く姉妹都市のブレメン市との交流が契機 ●2017年以降、オランダサッカー教室を毎年開催 ●2021年パラリンピック終了後、金メダルを獲得したオランダ女子車いすバスケットボール代表と市内に拠点を置く車いすバスケットボールチームとのオンライン交流を実施 	
	<p>(ハンガリー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●鯉を食す文化が共通していることをきっかけとして2016年から食文化を通じた交流が始まったことが契機 ●2019年、ハンガリー及びイスラエル競泳代表候補の合同合宿を受け入れた際、県立岩瀬農業高等学校と連携して開発した「おもてなしメニュー」を合宿中に試食会を開催 ●2020年、市内小学生を対象に福島大学のハンガリー留学生による出前講座を実施 	
いわき市	<p>(サモア)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●2015年、第7回太平洋・島サミット開催をきっかけにスパリゾートハワイアンズ内に在福島サモア独立国名誉領事館を開設したことが契機 ●2018年、市内高校生をサモアに派遣し、現地学生との交流を実施 ●ラグビーW杯2019においてサモア代表の事前合宿受入 	
二本松市	<p>(デンマーク)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●デンマークカヌー連盟から事前合宿受入について打診されたことが契機 ●2019年、デンマークカヌー連盟と二本松市が事前合宿に関する協定締結 ●2020年、応援メッセージ動画を作成し、デンマークカヌー連盟へ送付 	
田村市	<p>(ネパール)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●以前より交流のあったスポーツ団体より、ネパール陸上競技の事前合宿誘致の提案を受けたことが契機 ●2018年、ネパール陸上競技代表候補の合宿受入 ●2019年、ネパール陸上競技代表候補のオリンピックとパラリンピックの合同合宿受入 	
大玉村	<p>(ペルー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大玉村出身でマチュピチュ村初代村長を務めた野内与吉さんの功績が縁で、2015年にマチュピチュ村と友好都市協定を締結したことが契機 ●2019年、東京大会時の受入れに向けて、小野高等学校と連携し「おもてなしメニュー」を開発 ●2021年、ペルー駐日代理大使が大玉村を訪れ、東京2020大会での応援に対する感謝の気持ちを込めて、選手団が選手村等で使用した国旗を大玉村へ寄贈 	

自治体名	相手国・地域との交流内容
南会津町	(アルメニア) <ul style="list-style-type: none"> 福島県レスリングの発祥の地である南会津町は、レスリングを町のシンボルスポーツとして位置付けており、レスリングという共通するスポーツや人的つながりからアルメニア大使館と交流が始まったことが契機 2021年、オンラインでアルメニア料理教室を開催 八芳園MuSuBuでのホストタウンイベントに出展し、アルメニア大使館関係者や日本在住者等と交流
猪苗代町	(ガーナ) <ul style="list-style-type: none"> 猪苗代町出身の野口英世博士が、黄熱病の研究中に終焉を迎えた地であるガーナと20年以上続く交流が契機 2019年、ガーナ駐日大使等をいなわしろ花火大会に招待し、猪苗代町やガーナ選手に関する情報発信者として「ホストタウン交流大使」に任命 2021年、ガーナと猪苗代町の子どもたちがオンライン交流を実施

2 復興ありがとうホストタウン

復興ありがとうホストタウンには、東日本大震災の被災3県（岩手県・宮城県・福島県）のうち、これ

まで支援してくれた海外の国・地域に復興した姿を見せつつ、住民との交流に重点を置いて交流を行う自治体が登録されました。

〈福島県内の復興ありがとうホストタウン（11自治体 6市3町2村）〉

自治体名	相手国・地域との交流内容
白河市	(カタール) <ul style="list-style-type: none"> カタール被災地復興支援プロジェクト「カタールフレンド基金」より資金援助を受け、白河市体育施設の改修及び新設を行ったことが契機 2021年、市内小中学校にて、カタール駐日公使が特別授業を実施し、給食でカタール風料理を提供
喜多方市	(米国) <ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災後、姉妹都市のウィルソンビル市民から激励を受けたことが契機 2019年、米国ボートU19選手及び米国ボート協会を喜多方市に招き、市内の子どもたちとボート交流等を実施 2021年、耶麻農業高等学校と連携し「おもてなしメニュー」を開発
二本松市	(クウェート) <ul style="list-style-type: none"> 復興支援として、クウェートから日本赤十字社を通じて日本に義援金が寄付され、二本松市においても市民の生活再建などに役立てられたことが契機 2019年、東京2020大会時の事前合宿受入れに向けて、安達東高等学校と連携し「おもてなしメニュー」を開発 2020年、クウェート選手団に向けた応援メッセージや上川崎和紙による押し絵を作成

自治体名	相手国・地域との交流内容
南相馬市	(ジブチ、台湾、米国、韓国) <ul style="list-style-type: none"> 復興支援として、ジブチ、台湾、米国、韓国から義援金等の支援を受けたことが契機 2017年、南相馬市の空手指導者がジブチを訪問し、空手教室を開催 2018年、ジブチ及び台湾の中学生を相馬野馬追に招待 2020年、市内中学生が選手団に向けて応援メッセージ動画を作成

自治体名	相手国・地域との交流内容
伊達市	(ガイアナ) <ul style="list-style-type: none"> 復興支援として、ガイアナから日本赤十字社に送られた義援金を基に、避難した市民に対して生活家電が提供され、生活再建などに役立てられたことが契機 2019年、ガイアナオリンピック委員会を伊達市に招き、桃狩り体験やだてな太鼓祭り参加等の交流事業を実施 2021年、ガイアナオリンピック・パラリンピック委員会とのオンライン交流を実施

自治体名	相手国・地域との交流内容
本宮市	(英国) <ul style="list-style-type: none"> 復興支援として、英国ウィリアム王子が本宮市を来訪したことが契機 2019年、市内中学生がロンドンを訪問し、本宮市をPRしたほか、金メダリストのカヌーオリンピアンとの交流も実施 2021年、東京2020大会期間中「おうちdeライブサイト」を企画し、市民が各家庭で英国選手団を応援

自治体名	相手国・地域との交流内容
北塩原村	(台湾) <ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災後、北塩原村に避難している浜通りの被災者に対し、村内で台湾の伝統舞踊団による慈善公演が開催されたことが契機 2019年、台湾舞踏家協会が北塩原村を訪れ、村民や村に避難していた方々と交流 2020年、台湾の中学生が北塩原村を訪れ、村内中学生と交流

自治体名	相手国・地域との交流内容
川俣町 広野町 楢葉町 (3町合同)	(アルゼンチン) <ul style="list-style-type: none"> 楢葉町、広野町は、Jヴィレッジが2002年サッカーW杯日韓大会においてアルゼンチン代表の合宿地であったこと、川俣町は、フォルクローレ音楽祭にちなんだ川俣町での国内最大級の中南米音楽祭を通じた交流が契機 2019年、アルゼンチン5人制サッカー代表をJヴィレッジに招き、各町の文化体験や子どもたちとのサッカー交流を実施 2021年、アルゼンチンが出場する5人制サッカーの試合をアルゼンチン国民とともにオンラインでつなぎ応援
広野町	(インドネシア) <ul style="list-style-type: none"> 復興支援として、インドネシアから日本赤十字社に送られた義援金を基に、避難した町民に対して生活家電が提供され、生活再建などに役立てられたことが契機

自治体名	相手国・地域との交流内容
楓葉町	(ギリシャ) <ul style="list-style-type: none"> 復興支援として、ギリシャから日本赤十字社送られた義援金を基に、避難した市民に対して生活家電が提供され、生活再建などに役立てられたことが契機 2021年、「東北復興宇宙ミッション」の一環で宇宙を旅してきたオリーブの種をギリシャから譲り受け、楓葉町の子どもたちが種まきを実施
飯館村	(ラオス) <ul style="list-style-type: none"> 飯館村の子どもたちの募金等でドンニヤイ村の中学校建設を支援したつながりで、東日本大震災後、ドンニヤイ村の中学生から激励のお手紙やメッセージ入りの鯉のぼりが届けられたことが契機 2019年、飯館村でラオスパラリンピック水泳代表候補選手の合宿を受け入れた際、中学生がラオスに因んだおもてなし料理を提供 2020年、ドンニヤイ村の中学生を飯館村に招き、村内中学生と交流



宇宙オリーブの種帰還式



代表候補選手の合宿受入

3 共生社会ホストタウン

共生社会ホストタウンには、パラリンピアンの受け入れを契機に、共生社会の実現に向けた取組を加速

し、大会後のレガシーにつなげていく自治体が登録されました。

〈福島県内の共生社会ホストタウン（2自治体 1市1町）〉

自治体名	相手国・地域との交流内容
福島市	(スイス) <p>2019年、ボッチャ地区対抗交流記念大会を開催し、市民が日本人ボッチャ選手と交流。継続的に大会を開催し、障がいの有無や年齢・性別に関わらない親睦を深める。また、地元パラアスリートや障がい者などが参画し、市内全域におけるバリアフリー化の方針を示す福島市バリアフリーマスターplanを策定し、「誰にでもやさしいまち ふくしま」の実現を目指す。</p>
猪苗代町	(ガーナ) <p>地域住民が参加する特別支援学校の学校行事の開催、小学校と特別支援学校との相互訪問による交流、特別支援学校行事への高校生のボランティア参加といった特別支援学校を核とした障がい者への理解促進を継続的に実施。また、町内に数多くある障がい者福祉施設ごとに、地域住民とふれ合う場等を設けている。</p>

4 先導的共生社会ホストタウン

先導的共生社会ホストタウンには、パラリンピアンとの交流をきっかけに共生社会を実現するため、

先導的かつ先進的な心のバリアフリー及びユニバーサルデザインの街づくりの取組を総合的に実施する自治体が登録されました。

〈福島県内の先導的共生社会ホストタウン（1自治体 1市）〉

自治体名	相手国・地域との交流内容
福島市	(スイス) <ul style="list-style-type: none"> 「誰にでもやさしいまち ふくしま」の実現に向けた取組 官民連携体制の構築とバリアフリー化を重点的に推進する地区でのまち歩き点検 手話出前講座、心のバリアフリー出前講座、バリア疑似体験講座の実施 バリアフリートイレや施設の情報を集約したWEB版バリアフリーマップの作成 防災広場や避難路のバリアフリー化

II 東京2020大会における事前合宿の受入れ

ホストタウン自治体は、東京2020大会に出場する相手国・地域の選手と地域住民との大会前後ににおける事前合宿や大会後交流を計画していました。しか

〈福島県内の東京2020大会における事前合宿の受入れ〉〔2021年（令和3年）〕

自治体名	合宿内容
福島市	(スイス パラリンピック・バドミントン 受入人数：4人) <p>期間 8月24日～8月28日（5日間）</p> <ul style="list-style-type: none"> 福島市到着初日の昼食に、福島明成高等学校が選手団のために考案し、食材の一部に同校で収穫された野菜を使用したレシピ（かき揚げ）を提供 食事の際は生徒から選手へのメッセージ動画を放映 運動導入教室に参加している市内小中学生と選手とのオンライン交流を開催
郡山市	(ハンガリー オリンピック・競泳 受入人数：46人) <p>期間 7月10日～7月25日（16日間）</p> <ul style="list-style-type: none"> 公開練習後、市内で水泳に取り組んでいる子どもたちから選手団に向けた応援メッセージビデオを披露 バスで出発する選手たちを市職員と市民が手作りの旗やメッセージボードで見送り
二本松市	(ハンガリー パラリンピック・水泳 受入人数：9人) <p>期間 8月14日～8月22日（9日間）</p> <ul style="list-style-type: none"> 公開練習後、市内で水泳に取り組んでいる子どもたちから選手団に向けた応援メッセージビデオを披露 宿泊ホテル内の日本庭園を開放した際、郡山市のお菓子を提供
デンマーク	(クウェート オリンピック・競泳、射撃、空手 受入人数：17人) <p>期間 7月8日～7月31日（24日間）</p> <ul style="list-style-type: none"> 空手選手団と地元空手スポーツ少年団とのオンライン交流を実施。交流の最後に、児童がクウェート選手に形を披露。 食事は地元の高校生が考えたGAP食材を活用した「おもてなしレシピ」をホテル料理長が調理し提供 出発時には、地元の商店街の皆さんや宿舎のスタッフ等が集まり、市民が手作りしたクウェート国の手旗を振って見送り
デンマーク	(デンマーク オリンピック・カヌー 受入人数：9人) <p>期間 7月18日～7月31日（14日間）</p> <ul style="list-style-type: none"> 地元ジュニアカヌークラブとのオンライン交流を実施し、児童・生徒約20人が参加 食事はカレーライス、焼きそばなどの家庭的な日本料理、福島県産の桃やメロン、スイカなどフルーツ類が好評



し、新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの自治体が計画変更や中止を余儀なくされ、事前合宿の受入れを行うことができた自治体は以下のとおりとなりました。その他の自治体については、オンライン等を利用し、選手団との交流を実施しました。

第6章

オリンピック・パラリンピック聖火リレー

自治体名	合宿内容
猪苗代町	<p>(ガーナ オリンピック・ウェイトリフティング、競泳、ボクシング 受入人数：16人) 期間 7月2日～7月17日(16日間)</p> <ul style="list-style-type: none">●ボクシングは、会津若松市の好意により全日本チームとの合同練習や練習会場の提供を受けた●町内児童クラブの子どもや町職員が作成した国旗がデザインされた「折り鶴」を「レイ」にして選手に贈呈●合宿後、駐日ガーナ大使館・選手村に滞在する選手団・町内小学校の3者で小学校の昼食時間にオンライン交流を行ったほか、小学校ではガーナ風料理を提供 <p>(ガーナ パラリンピック・陸上(走り高跳び)、パワーリフティング 受入人数：10人) 期間 8月8日～8月22日(15日間)</p> <ul style="list-style-type: none">●空港検疫で新型コロナウイルス感染症の陽性者1人が出たため、選手団長、駐日大使館、町とで受け入れについて協議し、入国後5日後の検査において陰性が確認できた場合、練習を行うことで合意●町内児童クラブの子どもや町職員が作成した国旗がデザインされた「折り鶴」を「レイ」にして選手に贈呈。パラリンピック開会式で選手団はレイを首から下げて入場した。
楢葉町	<p>(オーストラリア オリンピック・サッカー男子 受入人数：35人) ※ホストタウン相手国ではないが、Jヴィレッジにおいて事前合宿を行うため受入 期間 7月2日～7月8日(7日間)</p> <ul style="list-style-type: none">●新型コロナウイルス感染症の影響により、町民等との交流は実施されなかったが、県産GAP認証農産物(#青春GAP米、桃、リーフレタス)を提供●最終日にバスで出発する選手たちを町の職員とJヴィレッジ職員が見送り

III 事前合宿における新型コロナウイルス感染症対策

2021年(令和3年)2月3日、組織委員会と国際オリンピック委員会(IOC)、国際パラリンピック委員会(IPC)は、東京2020大会に参加する選手団を始めとする各関係者向けの「プレイブック」(ルールブック)の初版を公表しました。選手や関係者の安全・安心な環境を整備するため、プレイブックには、大会の参加にあたっての行動規範や、どのような検査を受けるかが示され、同年4月28日に第2版が、6月15日には第3版が公表されました。

福島県では、プレイブックの改訂に合わせ、国が作成した「受入れマニュアル作成の手引き」を基に、選手団及びホストタウン自治体の双方が安全・安心に合宿、交流ができるよう、以下の取組を実施しました。

1 検査体制の整備

2021年(令和3年)4月28日、国の「第7回新型コロナウイルス感染症対策調整会議」及び「プレイブック

ク」第2版において、「海外から来日するアスリート等については、入国後、事前キャンプ地、ホストタウン、選手村において、原則毎日検査を実施すること」、「地域の保健衛生機能に支障を來さないよう、必要な検査・医療提供が可能となる体制を整備すること」とされました。

「毎日検査」は、受け入れるホストタウン自治体の検査体制を圧迫しかねないため、選手団及び選手団に接触する業務を行うホストタウン関係者のスクリーニング検査(抗原定量検査)を福島県が実施しました。

2 保健所、医療機関との連携調整

スクリーニング検査で陽性疑い者が出了場合は、管轄保健所と連携して速やかに再検査(PCR検査による確定検査)を実施し、その結果陽性と判明した場合は、一般の県民と同様に隔離し、療養・入院等の措置を受けられるよう、ホストタウン自治体、管轄保健所、福島県との間で、夜間・休日問わず連絡を取り合える体制を整えました。

I 福島県のオリンピック聖火リレー

II 福島県のパラリンピック聖火リレー

I 福島県のオリンピック聖火リレー

1 全体概要

(1) 東京2020オリンピック聖火リレー

ふくしま実行委員会

2018年(平成30年)2月13日、組織委員会から各都道府県に対し、聖火リレーの準備・実施のための各都道府県実行委員会の設立依頼がありました。



〈実行委員会の開催内容〉

	日時	内容
第1回	2018年(平成30年) 8月24日	●県実行委員会の設立 ●県内ルート選定に向けた基本的な考え方の決定(被災地の現状発信、県内バランス、復興五輪にふさわしい聖火リレーのスタート)
第2回	2018年(平成30年) 11月16日	●県内ルート概要(案)の協議 ●「通過対象市町村の考え方」の了承
第3回	2018年(平成30年) 12月21日	●県内ルート概要(案)の取りまとめ
第4回	2019年(平成31年) 4月18日	●通過市町村内のルートについて意見交換し、被災地の現状や福島県の魅力を発信できるようなルートとすることを確認
第5回	2019年(令和元年) 6月5日	●ルート詳細や聖火ランナーの選出について意見交換 ●聖火ランナーについて、県実行委員会への割当数66人のうち、全59市町村から一人ずつの計59人を公募することを決定
第6回	2019年(令和元年) 9月27日	●ルート詳細について意見交換 ●福島県の「聖火ランナーの選定の考え方」を決定 (①福島県の現状や魅力を発信するのにふさわしい方、②県民に夢や希望、元気を与えることができる方、③リレーの盛り上げに資する方、④地域の未来の担い手となる方など)
第7回	2019年(令和元年) 10月28日	●県実行委員会枠の66人の聖火ランナー候補者を選定
第8回	2020年(令和2年) 1月23日	●聖火リレー初日3月26日のルートに双葉町の追加を組織委員会へ依頼することを決定 ※1月17日に国の原子力災害対策本部会議において双葉町の一部地域の避難指示解除が決定されたことを受けたもの。
第9回	2020年(令和2年) 12月8日 ※書面開催	●延期後の県実行委員会枠の66人の聖火ランナー候補者を選定 ●「延期後のオリンピック聖火リレールートに係る基本的な考え方」が承認される。(実施市町村、セレブレーション会場は原則維持、詳細ルートは延期後の状況変化等を踏まえ、一部区間で変更)
第10回	2022年(令和4年) 3月16日 ※書面開催	●リレー実施結果の報告、県実行委員会の解散

れを受け福島県では、県内ルート案の選定、県選出ランナーの選定、リレーの準備・運営などに必要な事業を行うため、下記委員で構成する東京2020オリンピック聖火リレーふくしま実行委員会(県実行委員会)を同年8月24日に設立し、「復興五輪」として福島の現状を世界に発信し、県内一丸となり参加できる聖火リレーの開催に向け準備を始めました。

■ 東京2020オリンピック聖火リレー

ふくしま実行委員会 委員

委員長:福島県知事
副委員長:(公財)福島県体育協会会長
委員:福島県市長会長
福島県町村会長
福島県警察本部長
福島市消防本部消防長
福島県教育委員会教育長

(2) 国内・県内での聖火リレー概要

①大会延期前

2018年(平成30年)7月12日、組織委員会は、国内の聖火リレーについて、2020年(令和2年)3月26日に福島県内3日間の聖火リレーから始まり、東京2020大会開会式当日の7月24日まで、全都道府県を巡る121日間の行程を発表しました。

また、2019年(平成31年)3月12日には、福島県の復興のシンボルでもあるサッカーナショナルトレーニングセンターJヴィレッジ(Jヴィレッジ)から聖火リレーが出発(グランドスタート)することが決定されました。さらに、聖火リレーに先立って、東日本大震災の被災3県で聖火を展示する「復興の火」の取組を行うことも決定しました。



②大会延期の決定と聖火リレーの延期

2020年(令和2年)3月12日、ギリシャ・オリンピアでは東京2020大会に向けた聖火の採火式が行われ、ギリシャ国内聖火リレーが開始されました。新型コロナウイルス感染症の影響により翌13日にはギリシャ国内での聖火リレーは中止となり、日本への聖火引継式は無観客で開催されました。



2020年(令和2年)3月17日には、組織委員会が国内聖火リレーの沿道での観覧自粛、セレブレーションでのステージプログラムや一般観覧の中止等を発表しました。

ギリシャから日本へ旅立った聖火は、2020年(令和2年)3月20日に宮城県東松島市の航空自衛隊松島基地に到着しました。聖火到着式が行われた後、

聖火は「復興の火」として被災3県で展示されました。(復興の火の詳細は4(1)参照)



しかし、世界的に深刻化する新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年(令和2年)3月24日、国際オリンピック委員会(IOC)と組織委員会は東京2020大会の延期を決定しました。グランドスタートを2日後に控えた聖火リレーはスタートせず、組織委員会が今後の対応を検討することになりました。

③大会延期後の聖火リレー概要

延期の決定から約半年が経った2020年(令和2年)9月25日及び28日、組織委員会は、延期後の聖火リレーについて、日数や聖火ランナー、ルート等の大枠は従前の計画を原則変更せず、一部の準備や実施内容を簡素化する方針を発表しました。県実行委員会では2021年(令和3年)3月25日から始まることになったグランドスタートと県内3日間の聖火リレーに向け再び準備を開始しました。

2021年(令和3年)2月25日、組織委員会は聖火リレーにおける新型コロナウイルス感染症対策ガイドラインを発表し、沿道の密集状況や実施都道府県での感染状況等を踏まえ、公道や一部区間でのリレーの中止など、実施形態を変更する場合があると発表しました。

福島県内では、計画どおり2021年(令和3年)3月25日にJヴィレッジからグランドスタートし、3日間の公道でのリレーを実施しました。しかし、その後は公道を走行せず、聖火ランナーによるトーチの点火セレモニーの形で実施する都道府県もありました。

2 県内聖火リレー開催に向けた準備

(1) 聖火ランナー

①県実行委員会選出の聖火ランナー

東京2020大会の聖火リレーでは、各都道府県実行委員会や聖火リレーパートナーなどによる公募または推薦により約1万人が選定されました。このうち県実行委員会では、組織委員会から割り当てられた66人について、59人の公募枠ランナーと7人のPRランナーを選定しました。

②公募枠ランナーの選定

県実行委員会では、県内の多くの地域、県民がかかわり、一緒になってオリンピックに向けた盛り上がりの輪を広げていくため、県内全59市町村それぞれにゆかりのある方を一人ずつ選定しました。

公募は2019年(令和元年)7月1日～8月31日まで行われ、2,020人の応募がありました。その中から、復興に向けて挑戦を続ける人、地域で精力的に活動している人、全国・世界を舞台に活躍する人、さらには、福島の未来を担う若者など、県民に夢や希望を与えることができる方々を、福島県を代表する公募枠聖火ランナーとして59人選定しました。

③PRランナー

公募枠ランナーのほかに、県民に夢や希望、元気を与える顕著な功績がある方7人を、福島県の現状や魅力を発信する「PRランナー」として選定しました。



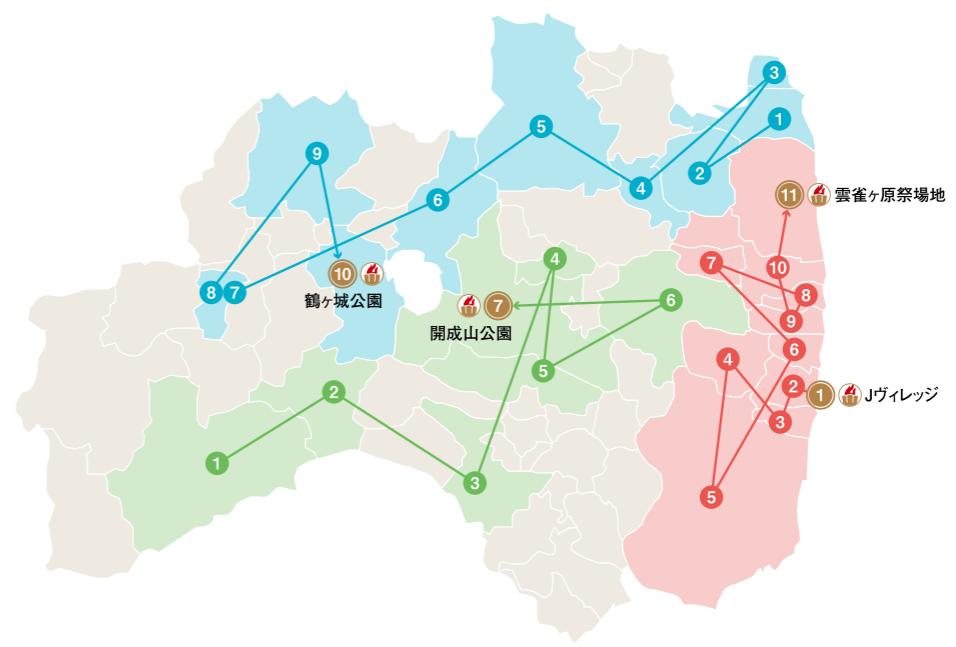
(上段左から) しづちゃん／室屋義秀さん／菊池桃子さん
(中段左から) 遠藤尚さん／大林栄子さん
(下段左から) 箭内道彦さん／千葉麻美さん

(2) 聖火リレールート

県実行委員会では、県内7方部のバランスや被災地域の現状の発信、景勝地や観光・産業拠点等を考慮して通過市町村やルートの検討が行われました。実行委員会での意見交換を重ね、3日間をかけて福島県が誇る美しい自然や奥深い歴史・伝統文化、そして復興に向けて挑戦を続ける福島の今の姿に触れる、「復興五輪」にふさわしい聖火リレーのスタートとなるようルート選定を行い、組織委員会・IOCの承認を経て、県内26市町村でのリレー実施・ルート詳細を決定しました。



■ 福島県の聖火リレールートマップ



DAY-1

2021.3.25 Thu

- ① グランドスタート(J-Village)
- ② J-Village
- ③ 植葉町
- ④ 広野町
- ⑤ 川内村
- ⑥ いわき市
- ⑦ 富岡町
- ⑧ 双葉町
- ⑨ 大熊町
- ⑩ 浪江町
- ⑪ 南相馬市
- ⑫ セレブレーション(雲雀ヶ原祭場)

DAY-2

2021.3.26 Fri

- ① 相馬市
- ② 飯館村
- ③ 新地町
- ④ 川俣町
- ⑤ 福島市
- ⑥ 猪苗代町
- ⑦ 三島町①
- ⑧ 三島町②
- ⑨ 喜多方市
- ⑩ 会津若松市
- ⑪ セレブレーション(鶴ヶ城公園)

DAY-3

2021.3.27 Sat

- ① 南会津町
- ② 下郷町
- ③ 白河市
- ④ 本宮市
- ⑤ 須賀川市
- ⑥ 田村市
- ⑦ 郡山市
- ⑧ セレブレーション(開成山公園)

3 県内聖火リレーの実施状況

(1) グランドスタート

2021年(令和3年)3月25日、福島県のJヴィレッジから聖火リレーがグランドスタートしました。

スタート前に行われた式典には、橋本組織委員会会長や丸川オリ・パラ担当大臣、小池東京都知事、内堀福島県知事などが出席しました。

式典に先立ち、オープニングパフォーマンスとし

て、福島県の伝統芸能やフラダンスなどが披露されました。また、式典では県内の子どもたちが「花は咲く」を合唱し、東日本大震災の発生からこれまでの温かい支援に対する感謝と復興が進む福島の姿を発信しました。

第1聖火ランナーは、2011年FIFA女子ワールドカップで優勝したサッカー日本女子代表「なでしこジャパン」のメンバーが務めました。



聖火が灯る第1聖火ランナーのトーチ



Jヴィレッジのピッチに踏み出すなでしこジャパン

(2) 県内聖火リレー

① 県内聖火リレーの経過

■ DAY1 3月25日

福島県復興のシンボルであるJヴィレッジから、東日本大震災により地震・津波や原発事故によって被災した10の市町村を巡り、この10年で着実に復興が進んでいる福島の今を伝えました。沿道では、各市町村が制作したオリジナルの手旗等を振っての応援、最終区間の南相馬市では騎馬武者が相馬野馬追のパフォーマンスを披露するなど聖火リレーを盛り上げました。セレブレーション会場の雲雀ヶ原祭場では、エアロバティック・パイロットの室屋義秀さんが聖火皿に聖火を灯しました。



第2区間 楢葉町
Photo by Tokyo2020



第3区間 広野町
Photo by Tokyo2020



第4区間 川内村
Photo by Tokyo2020



第5区間 いわき市
Photo by Tokyo2020



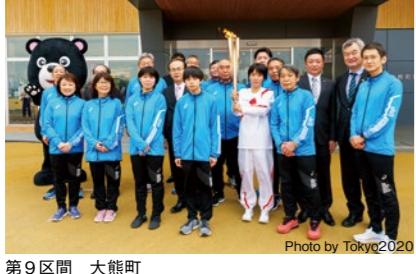
第6区間 富岡町
Photo by Tokyo2020



第7区間 葛尾村
Photo by Tokyo2020



第8区間 双葉町
Photo by Tokyo2020



第9区間 大熊町
Photo by Tokyo2020



第10区間 浪江町
Photo by Tokyo2020



第11区間 南相馬市
Photo by Tokyo2020

聖火リレーに参加して

DAY1 最終ランナー



室屋 義秀さん

聖火リレー初日の最終区間という大役でしたが、多くの皆さんとの一体感の中、楽しんで走ることができました。

もちろん聖火ランナーは初めての体験で、「トーチを持って走る」ということは知っていましたが、オリンピック開幕に向かって、聖火ランナーや関係者の方々も含めてみんなで一体感をもって作り上げる現場で体験ができたことは感動的でした。

また、復興五輪として福島から聖火リレーがスタートし、震災から立ち上がる福島の様子をネットやテレビを通じて見ていただくことができました。

世界中からの多くのご支援に感謝申し上げるとともに、今後も現状を伝え続けたいと思います。



■ DAY2 3月26日

歴史ある相馬中村神社のある相馬市を出発、浜通りからオリンピックマーチの作曲者・古関裕而ゆかりの地を巡り、会津地方まで駆け抜けました。猪苗代町では同町出身のオリンピアンの遠藤尚さんが、子どもたちと隊列を組んでスキーで白銀のゲレンデを滑走し、三島町の第一只見川橋梁展望台では、雄大な只見川と只見線の橋梁・列車が織りなす絶景の中をランナーが走行しました。鶴ヶ城の天守閣を背景に、オリンピアンの大林素子さんが聖火皿に点火しました。



第2区間 飯舘村
Photo by Tokyo2020



第3区間 新地町
Photo by Tokyo2020



第1区間 相馬市
Photo by Tokyo2020



第5区間 福島市
Photo by Tokyo2020



第6区間 猪苗代町
Photo by Tokyo2020



第7区間 三島町①
Photo by Tokyo2020



第8区間 三島町②
Photo by Tokyo2020



第9区間 喜多方市
Photo by Tokyo2020



第10区間 会津若松市
Photo by Tokyo2020

聖火リレーに参加して

DAY2 最終ランナー



大林 素子さん

歴史が好きで、会津に二地域居住して4年目となります。五輪は3度出場させていただきましたが、出身は東京な私。福島県しゃくなげ大使や、会津若松観光大使を務めさせていただいておりますが、まさか会津を走ることができるとは、思いませんでした。

五輪は平和の祭典。会津は戦いの聖地でもあります。その地がスポーツへの戦いに、バトンタッチされた様な感慨深い一日となりました。先人が居たからこそ、今があり歴史となる。その新たな歴史の1ページに参加できたことに感謝します。

最後に、トーチリレーを行うにあたり、本当に沢山の方々がご協力ください、行なうことが出来ました。オリパラ成功的スタートは、福島から始まりました。皆様、本当にお疲れ様でした。そして、ありがとうございました。



Hope Lights Our Way
希望の道をつなごう。

■DAY3 3月27日

会津田島祇園祭で有名な南会津町をスタートし、江戸時代の宿場の面影を現代に残す大内宿を始め、1964年東京オリンピックのマラソン銅メダリスト・円谷幸吉さんの出身地である須賀川市や2019年の台風等の災害からの復旧が進む地域を巡り、自然や歴史・伝統文化を始めとする福島県の様々な魅力が聖火により照らし出されました。たくさんの思いを乗せた聖火は、オリンピアンの千葉麻美さんによって開成山公園に灯され、福島県での聖火リレーを締めくくりました。



聖火リレーに参加して

DAY3 最終ランナー



千葉 麻美さん

聖火ランナーに選ばれてから、走れる日をずっと楽しみにしてきました。私にとって、オリンピックは特別な大会です。子どもの頃からの夢であったオリンピックに陸上競技の現役時代は選手として、そして今回は聖火ランナーとして参加できたこと、本当に幸せな気持ちでいっぱいです。本来であればたくさんの方々に聖火ランナーの走っている姿、また、オリンピック選手たちのプレーを実際に会場で見ていただきたかったということが正直な気持ちです。

今年の東京2020オリンピック・パラリンピックでは聖火ランナーのスタート地点や野球・ソフトボールの会場、選手村の食堂で福島県産の桃が提供されるなど、福島県を世界にアピールすることができ、大変うれしく思っています。今回のオリンピック・パラリンピックを通して、これから福島県出身のオリンピック選手が一人でも増えてくれることを願っています。



②各区間での聖火リレーの盛り上げ

各市町村では、沿道やスタート・ゴール地点などで、聖火ランナーを応援し盛り上げるため、地域の伝統や特色をいかした様々な盛り上げイベントが行われました。

2、3日目の第1区間のスタート地点では「出発式」が行われ、伝統芸能などが披露され花を添えました。各日の最終区間のセレブレーション会場では、聖火リレースポンサーのプログラムのほか、県実行委員会プログラムとしてセレブレーション開催地ゆかりのパフォーマンスが披露され会場を盛り上げました。

他にも、地域住民独自の応援や、聖火ランナーの後方を走る「サポートランナー」が各地域から選出されるなど、聖火ランナーのみではなく、多くの住民が関わる聖火リレーとなりました。

③県内聖火リレー運営の総括

3日間を通じてリレールートの変更等はありませんでした。

1日目、3日目についてはほぼ予定時間どおりのリレー実施となりました。

2日目は、第6区間(猪苗代町)で濃霧の影響で第1ランナーのスタートが遅れたことなどから、第1ランナー走行後、第一只見川橋梁上の列車の通過に時間を合わせていた第7区間(三島町①)を先に走行し、その後、第6区間(猪苗代町)の第2~4ランナーが走行する対応をとりました。これにより最大15分の遅れが発生しましたが、最終の第10区間(会津若松市)は定刻で出発し、リレー運営に大きな支障は生じませんでした。

福島県内では3日間、26市町村(28区間)、51.71kmの道のりを299人の聖火ランナーが、それぞれの思いを胸に聖火をつなぎました。

④県内聖火リレーにおける

新型コロナウイルス感染症対策

聖火リレーの実施にあたっては、組織委員会が示した新型コロナウイルス感染症対策ガイドラインを踏まえ、主に以下のような取組を行いました。

〈リレールート沿道〉

- ・感染症対策員を配置し、観客に対しマスク着用、前後左右の方と適切な距離を取っての観覧、大声を出さずに拍手等により応援することなど、感染対策を拡声器で呼びかけた
- ・沿道警備スタッフがプラカードで感染対策を呼びかけた
- ・隊列の先導車が沿道の状況を本部に随時共有し、スタッフへ対策を指示した
- ・沿道の状況に応じて観覧スペースの臨時の拡大措置を講じた

〈セレブレーション会場〉

- ・観客が適切な距離を確保できるよう、観客数を制限した

・事前予約制とし、対象を県民に限定した

〈事前広報〉

- ・インターネットのライブ視聴や、居住地に近い場所での観覧を呼びかけた
- ・ホームページやテレビCMなどで観覧時の対策への協力を呼びかけた

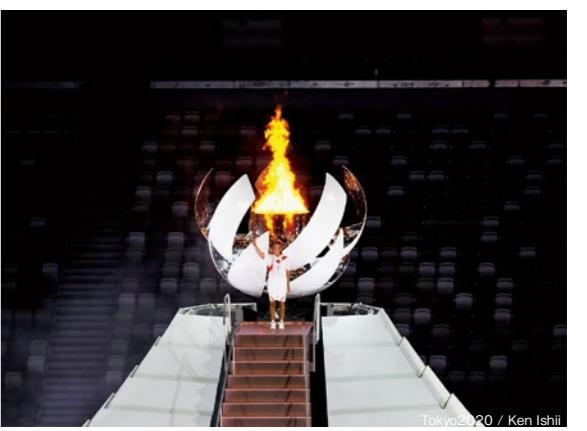
観覧者の密集が生じた場合、ルート変更や走行中止などの措置を取る可能性が懸念されましたが、こうした取組の成果により予定していたルートで実施されました。

⑤全国の聖火リレーを経てオリンピック開会式へ

聖火は福島県から全国を巡っていましたが、リレー開催時の新型コロナウイルス感染症の感染状況が悪化している地域などでは公道での走行が中止されるケースも発生しました。公道を走行せず、聖火ランナーによるトーチへの点火セレモニーを行うなどの方法も取られながら、全国約1万人の聖火ランナーにより聖火がつながれました。2021(令和3年)年7月23日、オリンピック開会式で国立競技場に設置された聖火台にその火は灯されました。最終聖火ランナーを務めた大坂なおみ選手[女子テニス]には、被災3県の子どもたち6人(うち福島県から2人)が聖火をつなぎました。



写真: AP/アフロ
被災3県の子どもたち



121日間のリレーを終えオリンピックスタジアムに灯された聖火

4 関連行事

(1) 「復興の火」の展示

東京2020オリンピック聖火リレーでは、復興に尽力する被災地の方々に、ギリシャで採火した聖火を聖火リレーに先立って見てもらうため、2020年(令和2年)3月20日～25日までの間、「復興の火」として宮城県、岩手県、福島県の順に各2日間展示されました。



聖火皿に灯された聖火／福島市／いわき市／展示された復興の火



5 聖火トーチと福島県のつながり

(1) 聖火トーチのデザイン・素材

聖火トーチは桜の花びらがモチーフとなっており、これはトーチをデザインした吉岡徳仁さんが、2015年(平成27年)に南相馬市立石神第一小学校を訪問しワークショップを開催した際、児童が描いた桜の絵を目にしたことが原点となっています。

また、トーチの素材の一部には東日本大震災の仮設住宅のアルミ建築廃材が再利用されました。



ランタンに納められた聖火



Photo by Tokyo2020
オリンピック
聖火トーチ

Photo by Tokyo2020
パラリンピック
聖火トーチ

(2) 聖火トーチの県内展示

福島県では、より多くの人に聖火リレーやオリンピック・パラリンピックへの関心を持ってもらうため、県内各地でオリンピック・パラリンピックの聖火トーチの巡回展示を行いました。

■ オリンピック聖火トーチ

県内7方部の合同庁舎(県北地区は県庁西庁舎)

2020年(令和2年)2月26日～3月26日

県内市町村(22市町村)

2020年(令和2年)10月6日

～2021年(令和3年)3月9日、

2021年(令和3年)7月6日～7月18日

県内小・中学校、高等学校、特別支援学校(36校)

2021年(令和3年)5月31日～6月28日、

2021年(令和3年)9月3日～12月21日



県内各地を巡回した聖火トーチ

■ パラリンピック聖火トーチ

県内市町村(2市町)

2020年(令和2年)12月7日～12月27日

県内小・中学校、高等学校、特別支援学校(37校)

2021年(令和3年)2月8日～3月14日、

2021年(令和3年)5月31日～7月1日、

2021年(令和3年)9月3日～12月23日

盛り上げ、パラリンピックを契機に多くの県民に共生社会への理解・関心を深めてほしいという思いから、県内全59市町村が「種火起こし」を行い、その種火を県内3地方ごとに集約した「浜通りの火」「中通りの火」「会津の火」を作り、さらに3つの火を1つに集火し「福島県の火」としました。

II 福島県のパラリンピック聖火リレー

1 県内での聖火フェスティバルの概要

東京2020パラリンピックの聖火は、パラリンピック発祥の地である英国のストーク・マンデビルと全国47都道府県で採火した火が、開催都市東京都で集められ作り上げられました。各都道府県での採火式などは「聖火フェスティバル」と呼ばれました。

福島県では、県内一丸となってパラリンピックを

〈福島県内聖火フェスティバルのスケジュールと概要〉

2021年 (令和3年) 8月12日	浜通りの火 採火式 (Jヴィレッジ: 檜葉町・広野町) 浜通り地方(相双・いわき) 13市町村の種火から「浜通りの火」を採火
2021年 (令和3年) 8月13日	中通りの火 採火式 (四季の里: 福島市) 中通り地方(県北・県中・県南) 29市町村の種火から「中通りの火」を採火
2021年 (令和3年) 8月14日	会津の火 採火式 (亀ヶ城公園: 猪苗代町) 会津地方(会津・南会津) 17市町村の種火から「会津の火」を採火
2021年 (令和3年) 8月15日	県内集火・出立式 (開成山陸上競技場: 郡山市) 浜通り/中通り/会津の3つの火を集火し「福島県の火」とし東京へ送り出した

2 県内での取り組み

(1) 各市町村の種火起こし

各市町村では、様々な方々が互いに協力し合い、工夫を凝らし、思いを込めながら種火を起こしました。

地域の歴史・特色ある場所で地域の特産品やゆか

りのものを使って地域の文化、伝統行事に触れながら子どもも大人も、障がいのある人もない人も協力し合う共生社会への思いや選手へのエール、復興やコロナ収束の願いなど、多くの思いを込めた火が灯りました。

浜通り



中通り



会津地方





(2) 採火式 (福島県内3方部)

各市町村の種火は、2021年(令和3年)8月12日～8月14日の3日間、浜通り・中通り・会津の各会場で行われた採火式で、込められた思いとともに聖火台に灯され、それぞれ「浜通りの火」「中通りの火」「会津の火」に集約されました。

■8月12日 浜通りの火 採火式

採火者：佐藤聰さん(パラリンピアン)、齋藤春香さん(相馬支援学校高等部)



■8月13日 中通りの火 採火式

採火者：千葉麻美さん(オリンピアン)、斎藤朱さん(たむら支援学校高等部)



■8月14日 会津の火 採火式

採火者：佐藤智美さん(パラアスリート)、権瓶顯太朗さん(会津支援学校高等部)



(3) 県内集火・出立式

2021年(令和3年)8月15日、郡山市の開成山陸上競技場で「県内集火・出立式」を行いました。各市町村の種火から生まれた「浜通りの火」「中通りの火」「会津の火」を1つにし、「福島県の火」が誕生しました。

誕生した福島県の火は、パラリンピアンの増子恵美さんが聖火台からトーチに移し、開催都市である

東京都に向かって出立しました。

各採火式、県内集火・出立式は新型コロナウイルス感染症の影響により、無観客で開催されました。当初計画されていたステージパフォーマンスは、セレモニーの後に動画を撮影し、県公式YouTubeチャンネルにて公開しました。



Dance Studio Vividによる
しなやかで力強いダンスの披露

(4) 集火式(全国)への参加

2021年(令和3年)8月20日、東京都内の迎賓館赤坂離宮では「パラリンピック聖火」が誕生する集火式が開催されました。式典では、全国47都道府県の火が灯る中、それらの火とストーク・マンデビルの火が各地から届けられ一つになる映像演出の後、オリエンピアンの野村忠宏さん、パラリンピアンの田口亜希さん、俳優の石原さとみさんが聖火皿に火を灯し「東京2020パラリンピック聖火」が誕生しました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、各都道府県の代表者は映像での出演となりました。映像には福島県の代表者の増子恵美さんが出演し、「福島県の火」とその火に込められた思いを、パラリンピック聖火へつなげました。



Photo by Tokyo2020

(5) 聖火リレー(開催都市・東京都内)への参加

聖火リレーは、2021年(令和3年)8月21日～8月24日の4日間、東京都内で開催されました。新型コロナウイルス感染症への対策のため、公道での実施に代え、無観客の会場で点火セレモニーの形式で実施されました。

福島県代表の聖火ランナーである星野千尋さん(いわき支援学校高等部)は、リレー1日目となる8月21日に都立葛西臨海公園第三駐車場での点火セレモニーに参加し、福島県の思いも込められた聖火をトーチに灯し、次のランナーにつなぎました。

聖火は、4日間の聖火リレーを経た2021年(令和3年)8月24日、東京2020パラリンピック開会式で上地結衣選手[車いすテニス]、内田峻介選手[ボッチャ]、森崎可林選手[パワーリフティング]により、国立競技場の聖火台に灯されました。



Photo by Tokyo2020

3 パラリンピック聖火リレー 被災3県と東京都のつながり

2021年(令和3年)8月20日、東京都が都庁都民広場で行った東京都の火の集火式では、東日本大震災の被災3県から、福島県の花(トルコギキョウ、スプレーマム、カスミソウ)、宮城県の七夕飾り、岩手県の高校生が作成した大漁旗が飾り付けられたほか、福島県の聖火フェスティバルで使用された聖火台が東京都の集火式でも使用されました。



福島県の聖火台と福島の花

パラリンピック聖火リレーに参加して

県内集火・出立式



増子 恵美さん

パラリンピックの聖火リレーは、県内59市町村それぞれの特色がいかされ、多くの人が関わってくださり種火を起こし、福島県の火として一つになりました。選手としてこんなにうれしいことはないと思いました。そして、皆さんの思いがたくさん詰まった福島県の火を東京、選手の元へお届けすることができました。

障がい者スポーツは、Disability (参加制約) Sportsと表現されてきました。障がい者がスポーツをすることは、障がいを乗り越えるために頑張っているという価値観です。これからはPara (向こうに) Sportsとして、その先の道へ進んでいきます。あらゆるライフステージにおいてスポーツ機会を創出し、共に楽しみ・成長しながら、障がい児・者の自己決定の支援を持続可能な形で残していくたいと思います。これからも福島の皆さんと共に未来への道を創っていきたいと思います。



福島県代表聖火ランナー



星野 千尋さん

私が聖火ランナーへ応募したきっかけは、今までお世話になった先生、家族に自分の成長した姿を見せたいと思ったからです。

私は中学時代まで、自分に自信が持てず、周囲の人とコミュニケーションを取ることが苦手でした。ずっと、自分を変えたいと思っていました。今の学校に入学してからは、先生にアドバイスをもらいながら、学級委員長や生徒会長などに挑戦しました。色々なことに挑戦する中で、自信をもって人前で話すことができるようになりました。

当日の聖火リレーでは今まで経験したことの無い緊張を感じましたが、「やればできる。」と自分に言い聞かせて、自信をもって走り切ることができました。福島県の復興の思いが込められた火と自分の成長を届けることができ、良かったです。この経験をこれからの社会生活へいかしていきたいです。



資料編

- I 東京2020大会開催に向けた福島県の体制
- II 市町村の取組
- III 東京2020大会に向けた国内外代表選手団の合宿誘致
- IV レガシーにつながる取組
- V 県産品の活用
- VI 東京2020参画プログラム
- VII beyond2020プログラム
- VIII オリンピック聖火リレー
- IX パラリンピック聖火リレー
- X 組織の変遷
- XI 年表

I 東京2020大会開催に向けた福島県の体制

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会 復興推進ふくしまアクションプラン

平成28年 2月 8日 制定
平成29年 3月21日 改定
平成30年 3月28日 改定
平成31年 3月27日 改定

I 策定の目的

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会(以下「東京大会」という。)の開催に向け、国内外へ感謝の気持ちを伝えるとともに、関連施策について、全局的な展開はもとより、市町村や民間企業などの県内関係機関・団体とともに「オールふくしま」で取り組み、大会組織委員会、関係省庁、東京都、全国自治体、JOC、JPC、オリンピック・パラリンピック・スポンサー企業等との交流拡大を通して、共感の輪を広げ、復興の更なる加速化につなげていく。

さらに、東京大会に多くの県民が関わることなどにより、ふくしまの誇りを醸成するとともに、2020年以降を見据えた取組として発展させ未来へつなげ、世界に向けた新しいふくしまのイメージを創りあげていく。

II 基本コンセプト

交流の拡大を通して、
前に進むふくしまの「魅力」を全世界に伝え、
ふくしまの「誇り」を「未来」につなげよう!

III 基本目標

基本目標1 前に進むふくしまの「魅力」発信

- (1) 復興状況と魅力の発信
- (2) 野球・ソフトボール競技の県内開催／事前キャンプの誘致
- (3) 外国人旅行者の来訪促進
- (4) 県産品の大会食材・資材への活用
- (5) 本県での大規模イベント等の開催

基本目標2 ふくしまの「誇り」の醸成

- (1) 競技力の向上
- (2) 「支えるスポーツ」の展開
- (3) 東京大会に向けた機運の醸成

(3) 外国人旅行者の来訪促進

- 東京大会を契機として来日する外国人旅行者の本県誘客に取り組みます。
- 関係機関と連携し、2020年における首都圏での魅力発信と県内への誘客を目指します。
- 外国人旅行者に向けて本県の歴史・文化の魅力を発信します。
- Wi-Fi環境や外国語案内標識の整備、外国語案内パンフレットの作成等外国人旅行者の受入環境の整備を図ります。
- 観光ガイドなどを行うボランティアの育成等によるおもてなしの向上に取り組みます。

(4) 県産品の大会食材・資材への活用

- 県産農林水産物や日本酒などの県産加工食品等が大会関連施設等において活用されるよう、魅力や安全性などの理解を深めるためのPRを行います。
- 県産農林水産物については、第三者認証GAP及び水産エコラベルの取得、県産加工食品についてはHACCPの導入など、食材供給に向けた产地の取組を支援します。
- 県産木材が大会関連資材として活用されるよう、森林認証制度の普及推進など、産学官が連携した取組を行います。
- 伝統工芸品などが大会記念品や関連グッズ、選手村の調度品などとして活用されるよう、ブランド価値を高めた商品づくりなどに取り組みます。

(5) 本県での大規模イベント等の開催

- 第43回日米大学野球選手権大会(2019年 郡山市)や第29回世界少年野球大会福島大会(2019年 福島市)、NPBイースタンリーグ(2019年 福島市)、第52回日本女子ソフトボールリーグ1部第8節福島大会(東京2020テストイベント 2019年 福島市)など大規模なスポーツ大会等において本県のPRを行います。

*これまでPRを実施した大規模イベント等

- WBSC第3回U-15野球ワールドカップ(2016年 いわき市)
- 第11回食育推進全国大会(2016年 郡山市)
- 2017ジャパンパラ陸上競技大会(福島市)
- 南東北総体2017(福島県、宮城県、山形県)
- 第8回太平洋・島サミット(2018年 いわき市)
- 第69回全国植樹祭ふくしま2018(南相馬市)
- 日米対抗ソフトボール(2018年 福島市)
- 第10回世界水族館会議(2018年 いわき市)
- 第20回日本ボッチャ選手権大会(2018年 福島市)

- ワールドロボットサミット(2020年 南相馬市)などにおいて、国内外へ情報発信します。

基本目標2 ふくしまの「誇り」の醸成

(1) 競技力の向上

- 将来の活躍が期待される本県選手に対し、東京大会を見据えた育成・強化に取り組みます。
- スポーツを通して本県の未来を担う子どもたちの体力・運動能力向上に取り組みます。

(2) 「支えるスポーツ」の展開

- 本県関係の選手をはじめ、全力で取り組むアスリートを応援する機運を醸成します。
- スポーツボランティアの育成に取り組み、東京大会等への参加を促します。

(3) 東京大会に向けた機運の醸成

- 野球・ソフトボールの本県開催に向けて、全県的な機運醸成を図ります。
- 東京大会開催時において、県内でライブサイト(大型スクリーンでの中継等)を実施します。
- 健康をテーマとしたチャレンジふくしま県民運動をはじめとした健康イベント等と連携した機運醸成に取り組みます。
- 県内外の人々に向け、オリンピック・パラリンピックに向けたふくしまの取組を発信し、機運醸成を図ります。
- 大学等と連携した関連イベントへの若者の参加を促し、東京大会に向けた機運醸成に取り組みます。

(4) 聖火リレーや東京大会に向けた スポーツ観戦等の促進

- 本県がグランドスタートとなるオリンピック聖火リレー開催準備を進め、多くの県民の参加や応援を通して地域の絆を深められるよう努めます。また、パラリンピック聖火リレーについても、参画に向けた準備を進めます。
- 東京大会の競技観戦への機会を創出するよう努めます。
- 2020年に向け、県民のスポーツ観戦等の促進に努めます。

(5) 本県「宝」の表現機会の創出

- 芸術文化団体、伝統芸能団体等と連携した文化事業の展開を図ります。
- 「ふるさとの祭り」の開催などにより本県の「絆」や「誇り」を醸成します。
- 音楽文化の振興を図り、「合唱王国ふくしま」を発信していくため、全国大会の開催などに取り組みます。

基本目標3 「未来」のふくしまの創造

(1) 子どもの夢・希望の育成

- 小中高校生へのオリンピック・パラリンピック教育を推進します。
- 子どもとオリンピアン・パラリンピアンとの交流を促進します。
- 様々な競技の日本代表チーム等の県内合宿の誘致を進め、トップアスリートと県民との交流を推進します。

(2) 障がいのある方等が活躍できる社会づくり

- 障がいのある方等が、身近な地域において、スポーツ・文化活動に親しむことができる環境づくりに取り組みます。
- 障がいのある方等が、スポーツ観戦などの活動範囲を広げられるよう、外出、移動しやすい環境整備等を進めます。
- 障がいの有無等にかかわらず、県民の一人ひとりの人格・人権が尊重されるユニバーサルデザインの普及・啓発に努めます。

(3) 国際交流の活発化

- 國際理解を深めるためのイベント等を開催します。
- ホストタウンの推進等により、諸外国や外国人選手との交流に取り組みます。
- 高校生、大学生等を始めとした幅広い世代の国際交流に取り組みます。

(4) 生涯スポーツの振興

- 県内の子どもたちが新しいスポーツにチャレンジできる環境・機会を整え、保護者も含めたスポーツ・レクリエーション活動への参加を促進します。
- 「だれでも、いつでも、どこでも」気軽にスポーツを楽しめる生涯スポーツの普及に取り組みます。
- 総合型地域スポーツクラブの設立・育成を支援します。

(5) 地域の活力の創造

- 地域力を高めるとともに、魅力ある福島の暮らしの発信と受入環境の整備などを通じ、定住・二地域居住を推進します。
- 2020年に開催されるワールドロボットサミットに向け関連産業の振興に取り組みます。
- 福島イノベーション・コースト構想に関する新事業創出に向けた取組について情報発信を行います。
- 東京大会における県産水素エネルギーの供給等を目指した研究・開発に取り組みます。
- アニメや映画等を活用した文化の振興に取り組みます。

- 福島県をホームとする地域密着型プロスポーツチームと連携し、スポーツの力で地域活性化を図ります。

(6) 安全対策の推進

- 関係機関と連携したテロ対策を推進します。
- 安全かつ円滑な交通の確保を図ります。
- 雑踏事故等各種事件事故の未然防止と諸対策を推進します。
- 救急・災害対応及びスポーツ対応医療福祉機器開発、大会での活用等に向けた取組を推進します。

II 市町村の取組

■ 福島県東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催準備事業補助金を活用した事業の実績

[2019年度(平成31年度・令和元年度)]

対象	概要	活用市町村
聖火リレー関連	リレールート沿道の装飾やサポートランナーエンブレムの作成など	福島市、本宮市、川俣町、郡山市、須賀川市、田村市、白河市、会津若松市、喜多方市、猪苗代町、三島町、下郷町、南会津町、相馬市、南相馬市、広野町、楢葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、新地町、飯館村、いわき市
都市装飾関連	公共施設等での懸垂幕、横断幕、のぼり旗等による装飾など	福島市、二本松市、本宮市、国見町、郡山市、南相馬市

[2020年度(令和2年度)]

対象	概要	活用市町村
聖火リレー関連	リレー出発地点・到着地点及び沿道での盛り上げイベントの実施など	福島市、本宮市、川俣町、郡山市、須賀川市、田村市、白河市、会津若松市、喜多方市、猪苗代町、三島町、下郷町、南会津町、相馬市、南相馬市、広野町、楢葉町、富岡町、双葉町、浪江町、新地町、飯館村、いわき市
都市装飾関連	公共施設等での懸垂幕、横断幕、のぼり旗等による装飾など	福島市、本宮市、郡山市、南会津町、南相馬市

[2021年度(令和3年度)]

対象	概要	活用市町村
都市装飾関連	公共施設等での懸垂幕、横断幕、のぼり旗等による装飾など	福島市、二本松市、伊達市、本宮市、郡山市、田村市

III 東京2020大会に向けた国内外代表選手団の合宿誘致

■ 競技・キャンプ地誘致等事業の実績

■ 事前キャンプ誘致モデル事業による誘致の実績

[2016年度(平成28年度)]

事業名	場所	日程	参加者
1 2016リオデジャネイロパラリンピックボート競技日本代表最終強化合宿	県営荻野漕艇場	8月8日～23日	選手2人 コーチ・スタッフ12人

■ 福島県事前キャンプ誘致活動等支援事業補助金を活用した誘致の実績

[2017年度(平成29年度)]

事業名	場所	日程	参加者
1 東京2020大会選手団事前キャンプ誘致活動事業	開成山屋内水泳場、開成山陸上競技場ほか郡山市内	5月29日～31日	ウクライナ青年・スポーツ省及びオリンピック委員会視察団3人
2 ソフトボール女子日本代表GEM4(U23)第1次強化合宿	十六沼公園スポーツ広場	6月12日～16日	選手17人 コーチ・スタッフ6人
3 2020東京オリンピック競技事前キャンプ誘致事業	あいづ総合体育館、河東総合体育館ほか会津若松市内	8月6日～9日	タイ王国ボクシング協会役員等3人
4 オーストラリアソフトボール事前合宿誘致	県営あづま球場	8月27日～28日	オーストラリアソフトボール協会関係者1人

〔2018年度(平成30年度)〕

	事業名	場所	日程	参加者
1	ハンガリー国水泳競技事前キャンプ 誘致活動事業	開成山屋内水泳場ほか 郡山市内	4月5日～6日	ハンガリー水泳協会4人 ハンガリー大使館職員2人
2	サモア独立国高校生受入事業	いわきグリーン フィールドほか	5月16日～22日	高校生8人役員等3人
3	ソフトボール女子日本代表 第2次国内強化合宿	県営あづま球場	6月24日～27日	選手20人 コーチ・スタッフ10人
4	ハンガリー水泳チーム強化合宿	開成山屋内水泳場	10月15日～24日	選手12人 コーチ・スタッフ4人
5	ネパールオリンピック委員会 陸上競技代表候補選手強化合宿	田村市陸上競技場	10月17日～24日	選手3人 コーチ・スタッフ4人
6	車いすバスケットボール 2018年12月女子U25強化・育成合宿(福島)	福島市体育館・武道場	12月13日～16日	選手14人 コーチ・スタッフ9人

〔2019年度(平成31年度・令和元年度)〕

	事業名	場所	日程	参加者
1	新体操日本代表合宿	福島市国体記念体育館	5月17日～19日	選手19人 コーチ・スタッフ4人
2	ソフトボール女子日本代表合宿	信夫ヶ丘野球場	7月21日～28日	選手13人 スタッフ4人
3	ベトナムサッカー女子代表合宿	信夫ヶ丘陸上競技場	7月29日～8月10日	選手26人 コーチ・スタッフ8人
4	タイ王国ボクシングチーム 会津若松市トレーニングキャンプ	会津富士通 リフレッシュセンター	8月8日～14日	選手・コーチ26人 (日本代表候補選手・ コーチ32人)
5	ネパールオリンピック陸上競技代表候補者 強化合宿	田村市陸上競技場	8月21日～24日	選手2人 コーチ・スタッフ2人
6	サモア独立国ラグビー代表チーム ワールドカップ事前キャンプ	いわきグリーン フィールドほか	9月10日～15日	選手31人 コーチ・スタッフ18人
7	ラオスパラ水泳選手団合宿	飯舘村希望の里学園 屋内プール	9月10日～18日	選手7人 コーチ・スタッフ5人
8	ネパールオリンピック・パラリンピック 陸上競技代表候補者合同強化合宿	田村市陸上競技場	9月14日～20日	選手4人 コーチ・スタッフ5人
9	オーストリアパラリンピック競技 事前キャンプ誘致活動事業	開成山屋内水泳場ほか 郡山市内	10月23日	選手1人 オーストリア大使館職員2人
10	ハンガリー・イスラエル水泳チーム 合同事前キャンプ	開成山屋内水泳場	11月3日～20日	選手8人 コーチ・スタッフ3人

〔2021年度(令和3年度)〕

2021年度(令和3年度)の東京2020大会に出場した海外選手団事前合宿については、第5章 ホストタウンを参照

	事業名	場所	日程	参加者
1	ボクシング日本代表合宿	河東総合体育館	7月4日～9日	選手12人 コーチ4人

■ トップアスリート強化合宿実施事業による誘致の実績

〔2017年度(平成29年度)〕

	事業名	場所	日程	参加者
1	ウィルチェアーラグビー日本代表合宿	あづま総合体育館 メインアリーナ	4月3日～9日	選手16人 コーチ・スタッフ14人
2	車いすバスケットボール女子日本代表合宿	あづま総合体育館 メインアリーナ	5月6日～14日	選手22人 コーチ・スタッフ8人
3	U23強化合宿(2017福島) トライアスロン競技日本代表	スポーツパーク桧原ほか 北塩原村内	8月23日～27日	選手9人 コーチ・スタッフ3人
4	車いすバスケットボール女子日本代表合宿	あづま総合体育館 メインアリーナ	2018年(平成30年) 3月18日～24日	選手28人 コーチ・スタッフ12人

〔2018年度(平成30年度)〕

	事業名	場所	日程	参加者
1	ウィルチェアーラグビー日本代表合宿	あづま総合体育館 メインアリーナ	4月3日～8日	選手16人 コーチ・スタッフ17人
2	U25車いすバスケットボール女子 日本代表合宿	Jヴィレッジ体育館	11月23日～25日	選手16人 コーチ・スタッフ7人

〔2019年度(平成31年度・令和元年度)〕

	事業名	場所	日程	参加者
1	車いすバスケットボール女子日本代表 国内強化合宿	Jヴィレッジ体育館	10月14日～19日	選手14人 コーチ・スタッフ6人

■ 市町村・企業・団体等との連携による誘致の実績

〔2018年度(平成30年度)〕

	事業名	場所	日程	参加者
1	2018タイ王国ボクシングチーム トレーニングキャンプ	河東総合体育館	12月3日～8日	選手6人 コーチ・スタッフ2人

〔2019年度(平成31年度・令和元年度)〕

	事業名	場所	日程	参加者
1	アルゼンチンブラインドサッカーチーム 合同招聘事業	Jヴィレッジ	11月2日～6日	選手・コーチ・スタッフ16人

〔2020年度(令和2年度)〕

	事業名	場所	日程	参加者
1	ボッチャ日本代表強化合宿	JR東日本 総合研修センター	9月20日～22日	選手5人 コーチ・スタッフ5人
2	ボッチャ日本代表強化合宿	JR東日本 総合研修センター	11月12日～15日	選手2人 コーチ・スタッフ4人

[2021年度(令和3年度)]

事業名					場所	日程	参加者
1	ボッチャ日本代表5月強化合宿	JR東日本 総合研修センター	5月7日～16日	選手4人 コーチ・スタッフ5人			
2	ボッチャ日本代表6月強化合宿	JR東日本 総合研修センター	6月11日～27日	選手4人 コーチ・スタッフ5人			
3	ボッチャ日本代表7月強化合宿	JR東日本 総合研修センター	7月24日～31日	選手4人 コーチ・スタッフ5人			

IV レガシーにつながる取組

福島県レガシー創出大交流ステップアップ補助金を活用した事業の実績

[2018年度(平成30年度)]

団体名		事業名・事業内容
1	郡山市	平成30年度郡山市トップアスリート養成教室 市内の競技団体が選抜した小学生～高校生を対象に、オリンピアンなど著名アスリートを講師として、実技指導や競技への取り組み方などの教室を開催した(陸上競技、新体操、柔道)。
2	郡山市体育協会	郡山市体育協会スポーツトークショー 陸上やバドミントンのオリンピアンなどによるトークショーを開催し、東京2020大会に向けた機運を醸成した。
3	NPO法人工湯温泉観光協会	福島から盛り上げよう！Let's Go Japan! 2020 JR福島駅西口にある土湯温泉特設ブースにおいて、東京2020オリンピック野球・ソフトボール競技県内開催のPRを行い、認知度の向上とおもてなしの機運を高めるとともに、土湯温泉をはじめとした福島観光を推進した。

[2019年度(平成31年度・令和元年度)]

団体名		事業名・事業内容
1	福島ジュニアオープンゴルフ実行委員会	2019福島ジュニアオープンゴルフinフラシティいわき ゴルフのジュニア大会をいわき市で開催し、福島県外から多くの参加者を募ることで福島の復興状況を発信するとともに、各部門上位者に国際大会等への出場権を付与することで人材育成に寄与した。
2	(公財)福島県文化振興財団	3館同時企画展開連 東京2020応援プログラム「学ぼう、感動を！」 福島市内の小学校(約60校)の児童がオリンピック・パラリンピックについて調べた結果を展示するとともに、1964年の東京大会について展示や上映会で振り返ることで、東京2020大会開催に向けて機運を醸成した。
3	郡山市	オランダサッカー教室2019 ホストタウン交流の一環として、オランダのプロサッカーリーグで活躍する選手を講師に招き、市内の小学生を対象としたサッカー教室を開催した。
4	NPO法人うつくしまスポーツルーターズ	東京2020ボランティア後夜祭 1年前イベント ～東京五輪音頭を踊ろう！～ スポーツボランティアを中心に福島県民が東京五輪音頭や双葉郡の盆踊りなどを踊り、交流を深めるとともに、「スポーツボランティア」を東京2020大会以降のレガシーとして遺す機運を高めた。
5	株いわきスポーツクラブ	～東日本大震災復興支援マッチ～ いわきFC VS コバルトーレ女川 東北社会人サッカーリーグ1部での試合を「東日本大震災復興支援マッチ」として実施し、地元食材を使用した飲食ブースやいわき市のPRブースを出店し、SNSでも発信するなどして、東日本大震災からの復興に向かういわき市の姿を全国に発信した。

団体名	事業名・事業内容
6	NPO法人工湯温泉観光協会 福島から盛り上げよう！Let's Go Japan! 2020 JR福島駅西口に東京2020大会野球・ソフトボール競技開催と土湯温泉をPRするディスプレイを設置した。2019年度は、ディスプレイを夏・冬で分けるとともにボッチャのPRもを行い、東京2020大会の機運醸成と観光推進を実施した。
7	郡山市 令和元年度郡山市トップアスリート養成教室 今後活躍が期待される市内の小学生～高校生を対象に、オリンピックなど世界大会の出場経験がある競技者や指導者等を講師として、実技指導などのスポーツ教室を開催した(バスケットボール男女、水泳、新体操)。
8	円谷幸吉・ レガシーサルビアの会 伝えよう円谷幸吉選手、盛り上げよう東京2020オリンピック 東京1964オリンピックマラソン銅メダリストである円谷幸吉選手の偉業を後世に伝えるとともに、東京2020大会の機運を盛り上げるため、同市出身のアスリートなどを招いたシンポジウムを開催したほか、聖火リレールートにある円谷幸吉写真パネルをリニューアルした。
9	郡山市体育協会 郡山市体育協会 みんなで楽しむ！スポーツの日in郡山 東京2020大会に向けた機運を醸成するため、競泳や陸上のオリンピアンなどを招いた競技体験を行う予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。

[2020年度(令和2年度)]

団体名	事業名・事業内容
1	郡山市 令和2年度郡山市トップアスリート養成教室 今後活躍が期待される市内の中・高校生を対象に、オリンピックなど世界大会の出場経験がある競技者等を講師として、実技指導などのスポーツ教室を開催した(陸上競技、バレーボール)。
2	ONLINE キャッチボールクラシック 福島実行委員会 ONLINEキャッチボールクラシック in 福島 福島発祥の野球競技「キャッチボールクラシック」のオンライン版を開催し、福島県内外の子どもたちの交流の場を創出するとともに、県産品の風評払拭のため県外22チームに福島県産米を贈呈した。
3	郡山市体育協会 郡山市体育協会スポーツ講演会及びトークセッション JOCアスリート委員会委員長や、競泳のオリンピアンなどによる講演・トークセッションを開催し、東京2020大会に向けた機運を醸成した。

[2021年度(令和3年度)]

団体名	事業名・事業内容
1	ONLINE キャッチボールクラシック 福島実行委員会 ONLINEキャッチボールクラシック in 福島 福島発祥の野球競技「キャッチボールクラシック」のオンライン版を開催し、福島県内外の子どもたち、さらには海外の子どもたちとの交流の場を創出するとともに、オンラインを通じて県産品のPRを実施し、福島の魅力を世界に発信した。
2	郡山市 オランダサッカー教室2021 ホストタウン交流の一環として、オランダのプロサッカーリーグで活躍する選手と市内中学生によるオンラインでのeスポーツ交流を実施するとともに、中学生からの質問と選手からの回答を撮影した動画をYouTubeで公開した。

V 県産品の活用

選手村における福島県産食材の活用

食材名	食材を活用して提供したメニュー
かぼちゃ	南瓜と人参の煮物
きゅうり	ミックスサラダ 等
トマト	トマトとにんにくのグリル、トマトの煮浸し、おでん夏バージョン、鮭ザンギの国産はちみつレモンソース 等
ミニトマト	トマトとにんにくのグリル、トマトの煮浸し
もも	フルーツ盛り
たまねぎ	鮭と野菜の味噌汁
米	白米、おにぎり（のり佃煮）（鮭塩糀）（梅） 等

食材を供給した学校・食材名

学校名	食材名
福島明成高等学校	米、もも
岩瀬農業高等学校	米
耶麻農業高等学校	米
会津農林高等学校	米
磐城農業高等学校	米
相馬農業高等学校	米、トマト
白河実業高等学校	米
農業短期大学校	米
修明高等学校	ミニトマト
安達東高等学校	たまねぎ

※各ダイニングの食材リストに掲載された食材のうち、学校等からの供給分を掲載したもの

東京2020公式ライセンス商品「伝統工芸品コレクション」

大堀相馬焼「ぐい呑み」

(東京2020オリンピックエンブレム) (東京2020パラリンピックエンブレム)



価格	15,000円(税別)
サイズ	W5×D5×H8cm (個)
大堀相馬焼特有の二重形状になったぐい呑みグラス。味わいや香りを引き出す形状で、左より「まろやか」「すっきり」「しっかり」と色味に合わせて飲み口も変わるもの。大きくエンブレムを入れ込み、ダイナミックな商品とした。	

大堀相馬焼「豆皿」(5枚セット)

(東京2020オリンピックエンブレム)



価格	7,500円(税別)
サイズ	W100×D10×H100cm ※1個あたり

商品説明	大堀相馬焼で作られた豆皿には、東京2020大会のマスコット、福島で開催された競技のピクトグラム、大堀相馬焼伝統の馬の絵柄をあしらった。東京2020大会の記念となる逸品。
------	--

大堀相馬焼「湯呑(アイボリー)」

(東京2020オリンピックエンブレム)



価格	4,000円(税別)
サイズ	W7.4×H9.6×D7.4cm

商品説明	大堀相馬焼の伝統的な技法「二重焼」を使用した湯呑み。この二重構造により、入れたお湯は冷めにくく、また熱いお湯を入れたままでも手に持つことが出来る。伝統の技を感じられる逸品。
------	--

大堀相馬焼「タンブラー(青磁色)」

(東京2020オリンピックエンブレム)



価格	18,000円(税別)
サイズ	W8.2×H12.8cm

商品説明	爽やかな青磁色の上に施された躍動感ある馬の絵と表面のひび割れは、大堀相馬焼の大きな特徴。スリムなシルエットがさらに高級感を演出し、伝統の絵柄と東京2020大会のエンブレムが融合した美しいタンブラー。
------	---

大堀相馬焼「皿(青白磁)」

(東京2020オリンピックエンブレム)



価格	8,000円(税別)
サイズ	W12×H10cm

商品説明	青白磁色の上に東京2020大会のエンブレムが映える逸品。食器としてだけではなく、インテリアとしても、様々な用途で使用できる。
------	--

大堀相馬焼「湯呑(桜)」

(東京2020オリンピック聖火リレーエンブレム)



価格	4,000円(税別)
サイズ	W7.4×H9.6×D7.4cm

商品説明	東京2020オリンピック聖火リレートーチのモチーフとなった桜をイメージし、美しい桜色で仕上げた大堀相馬焼の湯呑。
------	--

大堀相馬焼「8寸皿」

(東京2020オリンピック聖火リレーエンブレム)



価格	37,000円(税別)
サイズ	W27×H4cm

商品説明	聖火リレーのスタート地点である福島県の伝統的工芸品・大堀相馬焼の8寸皿。表面には東京2020オリンピック聖火リレーのデザインが、底面には大堀相馬焼の特徴である馬の絵柄が施された。
------	---

白河だるま「白河だるま」
(東京2020オリンピックエンブレム)



価格	2,000円(税別) (白) 3,000円(税別) (金)	サイズ	8.5cm
商品説明	江戸末期から市民に親しまれている「白河だるま」は、眉は鶴、口ひげは亀、鬢は松と梅、頸髪は竹等、幸運の象徴の「鶴亀松竹梅」が顔の中に描写されているのが特徴。オリンピック・パラリンピックシンボルカラーの筋が描かれただるまは、机の上にも置けるかわいいサイズ。		

白河だるま「だるま(金・桜)」
(東京2020オリンピックエンブレム)



価格	7,700円(税別)
サイズ	W9 × D9.5 × H11cm
商品説明	光沢のある表面と、全面に描かれた桜が特徴的。伝統的なだるまの顔や桜の模様は一つ一つ職人の手作業で描かれた。昔ながらの伝統と現代の技術が融合した逸品。

赤ベコ「赤ベコパールインディゴ」 赤ベコ「赤ベコパールレッド」
(東京2020オリンピックエンブレム) (東京2020パラリンピックエンブレム)



価格	3,000円(税別)
サイズ	W16 × D7 × H10cm
商品説明	一つ一つ職人の手張りと手書きで仕上げた赤ベコ。東京2020オリンピックのイメージを表現した「パールインディゴ」と、東京2020パラリンピックのイメージを表現した「パールレッド」のカラーが特徴的。

赤ベコ「赤ベコ(5号)」
(東京2020オリンピックエンブレム) (東京2020パラリンピックエンブレム)



価格	9,000円(税別)
サイズ	W21 × D8.7 × H13.5cm
商品説明	厄除けや子育ての縁起物として長年にわたり愛されてきた、福島県会津地方の民芸品。壮健祈願と疫病除けとして子供の誕生祝いに贈られ、親しまれている玩具。表面には伝統的な紋様と東京2020オリンピック・パラリンピックエンブレムをあしらった。

赤ベコ「赤ベコ」
(東京2020オリンピックエンブレム)



価格	4,000円(税別)
サイズ	W13.5 × H6 × D7.5cm
商品説明	東京2020大会ルックの藍色・桜色を表現した赤ベコ。日常生活にもじむマットな色味に仕上げた赤ベコは、洋室に飾っても違和感なく馴染む、モダンなデザイン。

二本松万古焼「マルチカップ」
(東京2020オリンピックエンブレム)



価格	11,000円(税別) ※ペア 5,800円(税別) ※1個あたり
サイズ	W6.5 × H7.6 × 7.6cm ※1個あたり
商品説明	使うほどに味わいが深まる二本松万古焼は、高温で焼き上げる焼締め製法により生まれ出された独特な美しい色合いと手触りが特徴。飲み物はもちろんスイーツの器、そば猪口としても使用できる。

会津木綿「ストール」
(東京2020オリンピックエンブレム)



価格	8,300円(税別)
サイズ	W37 × H185cm
商品説明	会津木綿の高級感ある風合いをそのままに、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のイメージを表現した商品。使うほどに肌馴染みがよくなり、気持ちよく使用できる。

会津木綿「ボトルカバー」
(東京2020オリンピックエンブレム)



価格	10,800円(税別)
商品説明	福島県伝統の会津木綿を使用したボトルカバー。ボトルにカバーを羽織らせインテリアとして楽しめる。会津木綿の奥ゆかしさと日本らしさを感じていただける逸品。

漆皮「ノートカバー」
(東京2020オリンピックエンブレム)



価格	27,000円(税別) ※A6サイズ 30,000円(税別) ※B6サイズ
サイズ	W12.5 × H17.3 × 2.4cm ※A6サイズ W15.5 × H19.4 × 2.4cm ※B6サイズ
商品説明	奈良時代が始まりといわれる伝統的な漆加工技術「漆皮」で作られたノートカバー。手にぬじむ革の質感と金箔を蒔いた独特的のデザインが特徴。使い続けることで風合いが出て経年変化が楽しめる。

会津塗「ミラー付き小箱」
(東京2020オリンピックエンブレム)



価格	5,800円(税別)
商品説明	伝統工芸の技術をいかして塗を施した、地域特産品の会津塗。東京2020大会のカラーのひとつである松葉をイメージして塗り上げたミラー付き小箱。内側はクッション素材で、アクセサリー入れとしても使用できる。

会津本郷焼・会津塗「高台盆」
(東京2020オリンピックエンブレム)



価格	25,000円(税別)
商品説明	福島県に戦国時代から伝わる会津本郷焼と地域特産品の会津塗とのコラボレーション商品。高台盆とは菓子や酒器などに使用し、風情豊かにモノを引き立てるもの。お盆の中央には会津本郷焼を取り入れ贅沢に作り上げた。

VI 東京2020参画プログラム

福島県が認証を受けたアクション（公認プログラム）

	アクション名	テーマ	会場	開催日
1	ふくしまからはじめよう。「地域のたから」民俗芸能承継事業 ふるさとの祭り2016 in 白河	復興	白河市立図書館	2016年(平成28年) 11月5日～6日
2	ふくしまラグビー交流事業	スポーツ・健康	県内の小学校	2017年(平成29年) 5月31日～ 2018年(平成30年) 1月18日
3	東京2020オリンピック・パラリンピック 復興ふくしま推進会議&ふくしま大交流ミーティング ～みんなのTokyo2020 3 years to Go!～	オールジャパン・ 世界への発信	ホテル福島 グリーンパレス	2017年(平成29年) 7月24日
4	私たちの2020年 ～未来を担う子どもたちが語る夢・希望～	オールジャパン・ 世界への発信	いわきPIT	2017年(平成29年) 7月24日
5	ふくしまスポーツフェスティバル2017	スポーツ・健康	あづま総合運動公園	2017年(平成29年) 9月23日～24日
6	ふくしまアイディアコンテスト	復興	あづま総合体育館	2017年(平成29年) 10月28日
7	ふくしまからはじめよう。「地域のたから」民俗芸能承継事業 ふるさとの祭り2017 in 浪江	復興	浪江町地域スポーツ センター	2017年(平成29年) 11月25日～26日
8	福島の輝く未来へ！スポーツわくわくプロジェクト スポーツクライミング教室	スポーツ・健康	フリークライミング ジヤンダルム	2018年(平成30年) 6月10日、6月24日
9	ふくしまラグビー交流事業	スポーツ・健康	県内の小学校	2018年(平成30年) 6月15日～ 2019年(平成31年) 2月20日
10	ふくしまスポーツボランティア育成事業	スポーツ・健康	福島学院大学 駅前キャンパスほか	2018年(平成30年) 6月20日、7月21日、 9月9日、10月13日
11	東京2020オリンピック・パラリンピック 復興ふくしま推進会議&ふくしま大交流ミーティング ～Tokyo2020 2 Years to Go!～	オールジャapan・ 世界への発信	ホテル福島 グリーンパレス	2018年(平成30年) 7月24日
12	スポーツボランティアのUD（ユニバーサルデザイン） 講演会＆ワークショップ2018	街づくり	コラッセふくしま ほか	2018年(平成30年) 8月5日、9月1日、 9月15日、10月21日
13	アートで広げるみんなの元気プロジェクト	文化	県内文化施設	2018年(平成30年) 8月6日～ 2019年(平成31年) 3月24日
14	「福島ホープスサポートイングマッチ」での 野球・ソフトボール競技PRブース出展	スポーツ・健康	県営あづま球場	2018年(平成30年) 9月1日
15	「ふくしまビックスクラム2018」での 野球・ソフトボール競技PRブース出展	スポーツ・健康	サッカーナショナル トレーニングセンター Jヴィレッジ	2018年(平成30年) 9月2日
16	「第13回農業総合センターまつり」での 野球・ソフトボール競技PRブース出展	スポーツ・健康	福島県農業総合センター	2018年(平成30年) 9月7日～8日
17	「ふたばワールド2018 in なみえ」での 野球・ソフトボール競技等PRブース出展	スポーツ・健康	浪江町地域スポーツ センター	2018年(平成30年) 9月29日
18	「いわき大交流フェスタ2018」での 野球・ソフトボール競技等PRブース出展	スポーツ・健康	21世紀の森公園	2018年(平成30年) 10月6日

	アクション名	テーマ	会場	開催日
19	ふくしま復興オリンピックin福大祭	スポーツ・健康	福島大学	2018年(平成30年) 10月27日
20	県営あづま球場改修【公共工事】	街づくり	県営あづま球場	2018年(平成30年) 11月～ 2019年(平成31年) 9月
21	ふるさとの祭り2018 in 富岡	復興	富岡町立 富岡第一小学校	2018年(平成30年) 11月10日～11日
22	東京2020オリンピック・パラリンピックへ GO GO GO !	教育	郡山市立赤木小学校	2019年(平成31年) 1月16日
23	君も挑戦！ スケートボード＆スポーツクライミング in 松川浦	復興	相馬市松川浦 川口公園	2019年(平成31年) 3月24日
24	BCリーグ「福島レッドホーブス」公式戦会場での 野球・ソフトボール競技等PRブース出展	スポーツ・健康	白河グリーンスタジアム ほか	2019年(令和元年) 5月11日～ 9月8日のうち12日
25	福島の輝く未来へ！スポーツわくわくプロジェクト スポーツクライミング教室	スポーツ・健康	ムーブメントクライミングスペース	2019年(令和元年) 5月26日
26	東京2020オリンピック・パラリンピック 復興ふくしま推進会議&ふくしま大交流ミーティング ～Tokyo 2020 1 Year to Go!～	オールジャapan・ 世界への発信	ホテル福島 グリーンパレス	2019年(令和元年) 7月24日
27	オリンピック・パラリンピックに向けた 1年前カウントダウンイベント鉄塔等ライトアップ	オールジャapan・ 世界への発信	原町火力発電所ほか	2019年(令和元年) 7月24日～9月6日
28	県営あづま球場をつくろう	スポーツ・健康	県営あづま球場	2019年(令和元年) 7月28日
29	「第14回農業総合センターまつり」での 野球・ソフトボール競技PRブース出展	スポーツ・健康	福島県農業総合センター	2019年(令和元年) 9月6日～7日
30	「未来館フェスティバル2019」での 野球・ソフトボール競技PRブース出展	スポーツ・健康	福島県男女共生センター	2019年(令和元年) 9月7日
31	東京2020オリンピックの盛り上げに向けた 300日前イベント	オールジャapan・ 世界への発信	県営あづま球場	2019年(令和元年) 10月5日
32	「ふたばワールド2019 in Jヴィレッジ」における 野球・ソフトボール競技PRブース出展	スポーツ・健康	サッカーナショナル トレーニングセンター Jヴィレッジ	2019年(令和元年) 10月5日
33	オリンピック・パラリンピックを体験！ ふくしまフェスティバル	オールジャapan・ 世界への発信	アピタ会津若松店ほか	2019年(令和元年) 10月12日、10月26日、 10月27日、11月10日
34	ふるさとの祭り2019	復興	JRA福島競馬場ほか	2019年(令和元年) 10月12日、10月26日、 10月27日、12月21日
35	障がい者芸術文化活動推進事業 「アートフェスタふくしま2019」	スポーツ・健康	ピッグパレットふくしま	2019年(令和元年) 10月22日
36	あすチャレ！Academy in 福島県	教育	ふたば未来学園高等学校 福島商業高等学校	2019年(令和元年) 11月23日、 2020年(令和2年) 2月8日
37	福島県 東京2020オリンピック・パラリンピックに 向けた1年前カウントダウンイベント	オールジャapan・ 世界への発信	県内各地	2020年(令和2年) 7月20日～9月5日
38	ふるさとの祭り2020	復興	道の駅 安達内モニター ほか	2021年(令和3年) 3月1日～31日

VII beyond2020プログラム

内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局等認証

	認証アクション	会場	開催日	主催
1	第10回声楽アンサンブルコンテスト全国大会	福島市音楽堂	2017年(平成29年) 3月17日~20日	声楽アンサンブル コンテスト全国大会 実行委員会
2	平成29年度福島県芸術祭	相馬市民会館ほか	2017年(平成29年) 6月1日~12月31日	福島県芸術文化団体 連合会
3	第71回福島県総合美術展覧会	福島県文化センター	2017年(平成29年) 6月16日~25日	福島県
4	ふくしまスポーツフェスティバル2017	あづま総合運動公園	2017年(平成29年) 9月23日~24日	福島県
5	あいづまちなかアートプロジェクト2017	会津若松市内七日町通り ほか	2017年(平成29年) 10月1日~11月5日	あいづまちなか アートプロジェクト 実行委員会
6	子どもの本がつなぐスマイルプロジェクト 親子ふれあい読書フェスティバル	福島県立図書館	2017年(平成29年) 10月29日	福島県立図書館
7	地域の魅力等の発信及び子どもの本がつなぐ スマイルプロジェクト事業	福島県立図書館	2017年(平成29年) 10月29日~ 2018年(平成30年) 3月31日	福島県立図書館
8	ふるさとの祭り2017	浪江町地域 スポーツセンター	2017年(平成29年) 11月25日~26日	ふるさとの祭り 実行委員会
9	ムジカ・レアーレ ~ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団メンバーによる室内楽~	郡山市民文化センター	2017年(平成29年) 11月26日	郡山市
10	福島県歴史資料館移動展示「檜枝岐村文書の世界」	福島県立図書館	2018年(平成30年) 1月5日~2月12日	福島県立図書館
11	ふくしまを知る講座「檜枝岐村文書の世界」	福島県立図書館	2018年(平成30年) 1月28日	福島県立図書館
12	ふくしま。GAPチャレンジ推進大会	ホテルハマツ	2018年(平成30年) 2月1日	福島県
13	文化芸術アソシエイツ創造発信プロジェクト 「アーツによる復興支援と地方創生」 津軽三味線・箏・尺八コンサート	母畠温泉 八幡屋ほか	2018年(平成30年) 2月7日~8日	文化庁
14	スペースオペラKEGON ~光と現代音楽とダンスのスペクタクル~	白河文化交流館コニネス	2018年(平成30年) 3月18日	白河市
15	第11回声楽アンサンブルコンテスト全国大会	福島市音楽堂	2018年(平成30年) 3月22日~25日	声楽アンサンブル コンテスト全国大会 実行委員会
16	「復興『ありがとう』ホストタウン」プロジェクトで 制作したポスターの掲示	飯館村立飯館中学校 仮設校舎	2018年(平成30年) 3月29日	飯館村
17	平成30年度福島県芸術祭	白河文化交流館コニネス ほか	2018年(平成30年) 6月1日~12月31日	福島県芸術文化団体 連合会
18	第72回福島県総合美術展覧会	福島県文化センター	2018年(平成30年) 6月15日~24日	福島県
19	国見町食文化振興事業 世界の料理講座「国見町産桃を使用したフランス料理」	道の駅 国見あつかしの郷	2018年(平成30年) 7月28日	国見町

	認証アクション	会場	開催日	主催
20	福島わらじまつり	国道13号・信夫通り	2018年(平成30年) 8月3日~4日	福島わらじまつり 実行委員会
21	アートで広げるみんなの元気プロジェクト	県内文化施設	2018年(平成30年) 8月6日~ 2019年(平成31年) 3月24日	福島県
22	サッカー交流事業 ASIAN ELEVEN (混成チーム)	サッカーナショナル トレーニングセンター Jヴィレッジ	2018年(平成30年) 9月1日~ 2019年(令和元年) 8月30日	国際交流基金
23	あいづまちなかアートプロジェクト 2018	会津若松市内各所	2018年(平成30年) 10月6日~11月4日	あいづまちなか アートプロジェクト 実行委員会
24	和のタイムトラベル・エンターテインメント 「ジパング笑楽座」	金刀比羅神社	2018年(平成30年) 10月13日	文化庁
25	「第九」演奏会開催事業	白河文化交流館コニネス	2018年(平成30年) 11月3日	白河市
26	いいたてっ子発表会「赤蜻祭」	飯館村立飯館中学校	2018年(平成30年) 11月10日	飯館村立飯館中学校
27	ふるさとの祭り 2018 in 富岡	富岡町立富岡第一小学校	2018年(平成30年) 11月10日~11日	ふるさとの祭り 実行委員会
28	国見町生活文化振興事業及び文化芸術振興事業 「暮らしの中の木づかい展」	国見町 観月台文化センター	2018年(平成30年) 11月24日~25日	国見町
29	飯館中学校ポストカード制作プロジェクト	飯館村立飯館中学校	2019年(平成31年) 2月1日~3月31日	飯館村立飯館中学校
30	ふくしま。GAPチャレンジセミナー	郡山ユラックス熱海	2019年(平成31年) 2月15日	福島県
31	第5回 国見町太鼓祭	国見町 観月台文化センター	2019年(平成31年) 3月9日	国見町
32	第12回声楽アンサンブルコンテスト全国大会	福島市音楽堂	2019年(平成31年) 3月21日~24日	声楽アンサンブル コンテスト全国大会 実行委員会
33	白河戊辰150周年記念事業・舞台公演 新作楽劇「影向のボレロ」	白河文化交流館コニネス	2019年(平成31年) 3月24日	白河市
34	東日本大震災復興祈念「伊藤若冲展」	福島県立美術館	2019年(平成31年) 3月26日~ 2019年(令和元年) 5月6日	東日本大震災復興祈念 「伊藤若冲展」 実行委員会
35	マッチフラッグプロジェクト2019	サッカーナショナル トレーニングセンター Jヴィレッジ	2019年(平成31年) 4月1日~ 2020年(令和2年) 3月31日	国際交流基金
36	東北縛まつり 2019福島	国道4号ほか	2019年(令和元年) 6月1日~2日	東北縛まつり 実行委員会
37	第73回福島県総合美術展覧会	福島県文化センター	2019年(令和元年) 6月14日~23日	福島県
38	2019年度藝文友の会会員ふれあい催事 加羽沢美濃&山田姉妹コンサート	いわき芸術文化交流館 アリオス	2019年(令和元年) 7月17日	公益財団法人 常陽藝文センター

	認証アクション	会場	開催日	主催
39	福島わらじまつり	国道13号・信夫通り	2019年(令和元年) 8月2日~4日	福島わらじまつり 実行委員会
40	文化芸術による「東京2020復興支援プロジェクト」 ～次世代を担う若い力によるレガシー創出～ 東京2020復興のモニュメントワークショップ(福島)	安積黎明高等学校	2019年(令和元年) 8月19日	組織委員会
41	あいづまちなかアートプロジェクト2019	会津若松市内各所	2019年(令和元年) 10月5日~11月4日	あいづまちなか アートプロジェクト 実行委員会
42	仙台フィルハーモニー管弦楽団特別演奏会 名曲コレクション ニューイヤーコンサート2020	福島市音楽堂	2020年(令和2年) 1月12日	公益財団法人 仙台フィルハーモニー 管弦楽団
43	仙台フィルハーモニー管弦楽団特別演奏会 名曲コレクション ニューイヤーコンサート2020	いわき芸術文化交流館 アリオス	2020年(令和2年) 1月13日	公益財団法人 仙台フィルハーモニー 管弦楽団
44	共同制作オペラ ヴェルディ歌劇「ラ・トラヴィアータ」	白河文化交流館コニネス	2020年(令和2年) 2月9日	白河文化交流館 コニネス
45	「奇跡の登竜門 in 西郷村」	西郷村文化センター	2020年(令和2年) 9月26日	公益社団法人 日本奇術協会
46	あいづまちなかアートプロジェクト2020	会津若松市内各所	2020年(令和2年) 10月3日~11月3日	あいづまちなか アートプロジェクト 実行委員会
47	「奇跡の登竜門 in 石川町」	旧石川町立 中谷第二小学校	2020年(令和2年) 10月11日	公益社団法人 日本奇術協会
48	あいづまちなかアートプロジェクト2021	会津若松市内各所	2021年(令和3年) 10月2日~11月3日	あいづまちなか アートプロジェクト 実行委員会

福島県認証

	認証アクション	会場	開催日	主催
1	復興「ありがとう」ホストタウン 寒河江市派遣交流事業	寒河江 スケートパーク(山形県)	2019年(令和元年) 5月25日~26日	南相馬市
2	令和元年度福島県芸術祭	いわき芸術文化交流館 アリオスほか	2019年(令和元年) 6月1日~12月31日	福島県芸術文化団体 連合会
3	第29回 世界少年野球大会 福島大会 国際交流試合及び交流行事	あづま総合運動公園	2019年(令和元年) 8月2日	一般財団法人 世界少年野球推進財団
4	国見町クラシックフェスティバル	国見町 観月台文化センター	2019年(令和元年) 9月1日~10月20日	国見町
5	ふくしまEXPO「FUKU博」 ～SAMURAI SPIRIT × FUKUSHIMA PRIDE～	JRA福島競馬場	2019年(令和元年) 10月12日	福島県
6	障がい者芸術文化活動推進事業 「アートフェスタふくしま2019」	ビッグパレットふくしま	2019年(令和元年) 10月22日	福島県
7	飯坂温泉で落語会「堀切亭」 ～全国から社会人落語家が集合～	旧堀切邸	2019年(令和元年) 12月21日	ふくしまで落語を やろう会
8	オリンピック・パラリンピックを体験! ふくしまフェスティバル	アピタ会津若松店ほか	2019年(令和元年) 10月12日、10月26日、 10月27日、11月10日	福島県

	認証アクション	会場	開催日	主催
9	ふるさとの祭り2019	JRA福島競馬場ほか	2019年(令和元年) 10月12日~12月21日	ふるさとの祭り 実行委員会
10	国見町伝統文化親子体験フェスタ	国見町 観月台文化センター	2019年(令和元年) 11月24日	国見町
11	ふくしまを伝えるアーカイブフォーラム2019	サッカーナショナル トレーニングセンター Jヴィレッジ	2019年(令和元年) 12月8日	福島県
12	公共ホール音楽活性化事業 観月台クラシックス ～サクソフォン四重奏で聴くクラシック名曲 いいとこどり!～	国見町 観月台文化センター	2019年(令和元年) 12月13日~15日	国見町
13	ふくしま。GAPチャレンジセミナー	ビッグパレットふくしま	2020年(令和2年) 2月12日	福島県
14	第13回声楽アンサンブルコンテスト全国大会	福島市音楽堂	2020年(令和2年) 3月19日~22日	声楽アンサンブル コンテスト全国大会 実行委員会
15	令和2年度福島県芸術祭	郡山市民文化センター ほか	2020年(令和2年) 6月1日~12月31日	福島県芸術文化団体 連合会
16	ふくしまフェスティバルin郡山 ホストタウン自治体取組み紹介事業	イオン郡山フェスタ店 ほか	2020年(令和2年) 10月26日~27日	南相馬市
17	ふくしまEXPO「FUKU博」2020 in 会津	西会津国際芸術村ほか	2020年(令和2年) 10月31日~11月30日	福島県
18	ふるさとの祭り2020	道の駅安達内モニター ほか	2021年(令和3年) 3月1日~31日	ふるさとの祭り 実行委員会
19	第14回声楽アンサンブルコンテスト全国大会	福島市音楽堂	2021年(令和3年) 3月18日~21日	声楽アンサンブル コンテスト全国大会 実行委員会
20	令和3年度第60回記念福島県芸術祭	伊達市ふるさと会館 ほか	2021年(令和3年) 6月1日~12月31日	福島県芸術文化団体 連合会
21	第75回福島県総合美術展覧会	福島県文化センター	2021年(令和3年) 6月18日~27日	福島県
22	第15回声楽アンサンブルコンテスト全国大会	福島市音楽堂	2022年(令和4年) 3月18日~21日	声楽アンサンブル コンテスト全国大会 実行委員会

VIII オリンピック聖火リレー

実施概要

リレー日程：2021年（令和3年）3月25日～27日の3日間

通過市町村：26市町村（28区間）

総走行距離：51.71km

スロット数：265スロット（ランナーの走行場所）

ランナー数：299人/3月25日：100人、3月26日：110人、3月27日：89人

サポートランナー数：421人/3月25日：144人、3月26日：159人、3月27日：118人

セレブレーション：1,280人/3月25日：490人、3月26日：331人、3月27日：459人

スタッフ数：約4,380人（3日間合計）※警察官除く

組織委・パートナー・NHK等/約1,380人、県・市町村等（警察官除く）/約3,000人

福島県59市町村ゆかりの公募枠聖火ランナー

No	走行区間	氏名	ゆかりの市町村
1	楢葉町	阿部 聖央	楢葉町
2	広野町	荒川 礼奈	広野町
3	川内村	山中 力	川内村
4	いわき市	渡辺 陽瀬	いわき市
5	富岡町	児玉 桃心	富岡町
6	葛尾村	佐久間 亮次	葛尾村
7	双葉町	桜庭 梨那	双葉町
8	大熊町	坂本 ちほ	大熊町
9	浪江町	池田 泉	浪江町
10	南相馬市	早坂 優一	南相馬市
11	相馬市	鈴木 莉桜	相馬市
12	飯舘村	庄司 幸智	飯舘村
13	新地町	鶴岡 拓弥	新地町
14	川俣町	上部 星	川俣町
15	福島市	齋藤 正昭	伊達市
16		進藤 あけ乃	福島市
17		高野 心平	桑折町
18		半澤 混憲	国見町
19	猪苗代町	大橋 清陽	猪苗代町
20	三島町①	五十嵐 望	三島町
21	三島町②	猪俣 昭夫	金山町
22		齋藤 幸弘	柳津町
23		舟木 哲也	昭和村
24	喜多方市	池田 忠孝	磐梯町
25		佐藤 正治	喜多方市
26		清水 秀俊	北塩原村
27		鈴木 俊哲	西会津町
28	会津若松市	遠藤 浩子	会津坂下町
29		菊池 正光	会津若松市
30		齋藤 雅文	会津美里町
31		白岩 雅夫	湯川村

No	走行区間	氏名	ゆかりの市町村
32	白河市	平野 太一	楢枝岐村
33		脇坂 斎弘	只見町
34		渡部 陽稀	南会津町
35		山田 武蔵	下郷町
36		阿久津 光市	鮫川村
37		石井 勇喜	塙町
38		兼子 卓也	泉崎村
39		小磯 洋四美	中島村
40		篠田 曜向	矢祭町
41		原田 東	棚倉町
42	須賀川市	藤田 敦史	白河市
43		三科 文	西郷村
44		矢吹 正男	矢吹町
45		後藤 克浩	大玉村
46		野地 裕太	二本松市
47		松本 襟加	本宮市
48		阿部 泰聖	平田村
49		木戸 望乃実	石川町
50		君原 健二	須賀川市
51		関 蒼	鏡石町
52	郡山市	宗田 幸夫	古殿町
53		常松 桜	天栄村
54		溝井 賢一郎	玉川村
55		八木沼 和夫	浅川町
56		佐久間 辰一	田村市
57		石川 由乃	郡山市
58		大桃 ひなた	三春町
59		根本 穂波	小野町

福島県PRランナー

氏名	職業等	福島県とのかかわり	走行区間
しづちゃん (南海キャンディーズ)	芸人、女優	●映画「フラガール」に出演	いわき市
室屋 義秀	エアロバティック・パイロット	●「レッドブル・エアレース・ワールドチャンピオンシップ」2017シリーズでアジア人初の年間総優勝 ●ふくしまスカイパークを拠点に活動 ●福島県民栄誉賞受賞（2017.12.4） ●福島市在住	南相馬市
菊池 桃子	女優 戸板女子短期大学客員教授	●NHK連続テレビ小説「エール」で福島市出身の作曲家古閑裕而氏の母親を演じる	福島市
遠藤 尚	オリンピアン (スキー・フリースタイル)	●2010バンクーバー、2014ソチ、2018平昌大会の3大会連続でオリンピックに出場。バンクーバー大会では7位入賞 ●猪苗代町出身	猪苗代町
大林 素子	オリンピアン (パレーボール)	●1988ソウル、1992バルセロナ、1996アトランタ大会の3大会連続オリンピック出場 ●会津若松市に二地域居住 ●福島県しゃくなげ大使	会津若松市
箭内 道彦	クリエイティブディレクター 東京藝術大学教授	●福島県クリエイティブディレクター ●福島県しゃくなげ大使 ●郡山市出身	郡山市
千葉 麻美	オリンピアン（陸上競技） 公務員	●2008北京大会出場（400m、4×400mリレー） ●陸上女子400m日本記録保持者 ●矢吹町民栄誉章受章 ●矢吹町出身	郡山市

各区間の出発地点・到着地点・ダイスケジュール

（出発及び到着時間は計画上の時間）

■ 2021年（令和3年）3月25日

区間	市町村名	出発時間	出発地点	到着時間	到着地点	走行距離
1	楢葉町・広野町	9:40	Jヴィレッジ全天候型練習場	9:50	Jヴィレッジ駅前	約 0.73km
2	楢葉町	9:55	楢葉町役場	10:08	みんなの交流館ならは CANvas	約 1.09km
3	広野町	11:16	ふたば未来学園中学校・高等学校	11:33	広野駅東口	約 1.36km
4	川内村	11:40	双葉地方広域市町村圏組合消防本部 富岡消防署川内出張所前	11:55	川内村立川内中学校	約 1.19km
5	いわき市	12:09	いわき陸上競技場	13:22	いわき芸術文化交流館アリオス前	約 5.04km
6	富岡町	13:27	富岡駅前	13:43	富岡町立富岡第一中学校	約 1.26km
7	葛尾村	13:53	みどりの里ふれあい館	14:10	葛尾村復興交流館あぜりあ	約 1.07km
8	双葉町	14:46	双葉駅	14:52	双葉駅前	約 0.48km
9	大熊町	15:03	常磐自動車道高架下付近	15:15	大熊町役場本庁舎	約 0.96km
10	浪江町	15:29	浪江町立浪江小学校前	15:38	道の駅なみえ	約 0.80km
11	南相馬市	16:40	南相馬市役所	17:09	雲雀ヶ原祭場地	約 2.35km

セレブレーション会場：雲雀ヶ原祭場地 計約 16.33km

■ 2021年(令和3年)3月26日

区間	市町村名	出発時間	出発地点	到着時間	到着地点	走行距離
1	相馬市	9:00	相馬中村神社	9:21	相馬駅前	約1.68km
2	飯館村	9:31	飯館村交流センターふれ愛館	9:46	いいたて村の道の駅までい館	約1.17km
3	新地町	10:11	観海堂公園	10:30	釣師防災緑地公園	約1.42km
4	川俣町	10:51	とんやの郷	11:02	川俣町立山木屋中学校	約0.80km
5	福島市	11:18	信夫ヶ丘競技場	12:34	福島県庁西庁舎前県民広場	約5.14km
6	猪苗代町	13:46	ぶな平グレンデ	14:06	葉山中央駐車場	約1.99km
7	三島町①	14:15	第一只見川橋梁展望台(スポットC)	14:25	第一只見川橋梁展望台(スポットD)	約0.07km
8	三島町②	15:00	三島町立三島中学校	15:17	三島町観光協会駐車場	約1.00km
9	喜多方市	15:34	酒造会社前	16:04	喜多方プラザ文化センター駐車場 (蔵の里前)	約2.35km
10	会津若松市	16:54	馬場道下交差点(中央通り)	17:37	鶴ヶ城公園市営駐車場(鶴ヶ城西出丸)	約3.35km

セレブレーション会場：鶴ヶ城公園市営駐車場(鶴ヶ城西出丸) 計約18.97km

■ 2021年(令和3年)3月27日

区間	市町村名	出発時間	出発地点	到着時間	到着地点	走行距離
1	南会津町	9:00	びわのかげ運動公園健康交流センター	9:29	南会津町消防団田島支団 第1分団第1支部	約2.23km
2	下郷町	9:38	大内宿駐車場	9:45	食堂前	約0.52km
3	白河市	11:19	白河市総合運動公園陸上競技場	12:15	白河小峰城	約4.32km
4	本宮市	14:01	白沢公民館前ふれあい夢広場	14:20	プリンス・ウィリアムズ・パーク 英國庭園	約1.56km
5	須賀川市	14:41	栄町東交差点(須賀川二本松線)	15:14	須賀川市役所	約2.56km
6	田村市	15:59	都路大橋付近	16:14	古道体育馆	約1.17km
7	郡山市	16:29	郡山駅西口駅前広場	17:22	開成山公園自由広場	約4.05km

セレブレーション会場：開成山公園自由広場 計約16.41km

各区間の盛り上げイベント

■ DAY1 2021年(令和3年)3月25日

第1区間：Jヴィレッジ(楓葉町・広野町)

Jヴィレッジ全天候型練習場(スタート地点)

- 福島県オープニングプログラム
 - ・法螺貝の演奏(相馬野馬追(標葉郷騎馬会))
 - ・和太鼓の演奏(會津田島太鼓保存会「白鼓」)
 - ・フラダンスの披露(スマリゾートハワイアンズ・ダンシングチーム「フラガール」)
 - ・作品の披露(福島西高等学校デザイン科学科)
 - ・マーチングバンドの演奏(Seeds+(シーズプラス))
- 聖火リレーグランドスタートセレモニー
 - ・「花は咲く」合唱(郡山市立郡山第五中学校、郡山市立朝日が丘小学校)

第2区間：楓葉町

楓葉町役場 駐車場(スタート地点)

- スタート地点での盛り上げイベント
 - ・和太鼓の演奏(ならは天神太鼓しお会、楓葉町立楓葉南小学校及び楓葉町立楓葉北小学校(3年生))
 - ※自治体公式キャラクター共演(楓葉町マスクットキャラクターゆず太郎)
 - ・楓葉町長挨拶
 - ・中学生代表挨拶

沿道

- 応援グッズ(オリジナルの扇子)による応援
- 町内おじいちゃん、おばあちゃんの写真(横断幕)の掲示

みんなの交流館ならはCANVAS(ゴール地点)

- 園児による出迎え(楓葉町立あおぞらこども園)
- サポートランナー走行
- ◆フォトセッション(聖火ランナー・サポートランナー)
- その他
 - スタート・ゴール・トーチキス時の花火打ち上げ

第3区間：広野町

ふたば未来学園中学校・高等学校(スタート地点)

- ◆フォトセッション(聖火ランナー・サポートランナー)
- サポートランナー走行

沿道

- 応援グッズ(オリジナルの手旗)による応援

広野駅東口(ゴール地点)

- ゴール後の盛り上げイベント※YouTube配信
 - ・オリンピアンや広野町所縁のアスリートとのトークショー
 - ・サポートランナーへのインタビュー
 - ・広野町長挨拶

第4区間：川内村

富岡消防署川内出張所前(スタート地点)

- 村内保育園児と自治体公式キャラクターの応援
 - (かわうち保育園・川内村公式キャラクターモリタロウ)

沿道

- 応援グッズ(オリジナルの手旗)による応援

川内村立川内中学校(ゴール地点)

- 5色のパーカーを着用した村内小・中学校の児童・生徒による出迎え(川内村立川内小学校・川内村立川内中学校)

■サポートランナー走行

- ◆フォトセッション(聖火ランナー・サポートランナー)

その他

- スタート・ゴール・トーチキス時の花火打ち上げ

第5区間：いわき市

いわき陸上競技場(スタート地点)

- オープニングイベント フラシティいわきスタートセレモニー
 - ・市内文化団体等のステージプログラム
 - フラダンス(フラ女将)
 - ファイヤーナイフダンス(シバオラ)
 - 和太鼓披露(和太鼓疾風)
 - ・サポートランナー紹介、代表宣誓
 - ・燃料電池自動車ミライの展示
- ◆フォトセッション
 - (聖火ランナー・サポートランナー・いわき市長)

■サポートランナー走行

いわき芸術文化交流館アリオス前(ゴール地点)

- ゴールイベント フラシティいわきゴールセレモニー
 - (※リレー終了後に実施)
- ・市内文化団体等のステージプログラム
 - オープニング演奏(東日本国際大学、東日本国際大学附属昌平高等学校吹奏楽部)
 - ダンスマーチ(エクスプレションD.S.)
 - 太鼓披露(いわき市立桶売小・中学校 鬼ヶ城太鼓)
- ・記念フラッグ披露

第6区間：富岡町

沿道

- 応援グッズ(オリジナルの横断幕とハリセン)による応援

富岡町立富岡第一中学校(ゴール地点)

- ゴール地点での盛り上げイベント
 - ・和太鼓の演奏(富岡町小浜風童太鼓)
 - ・富岡町長挨拶
 - ・自治体公式キャラクターの応援(富岡町公式キャラクターとみっぴー)
 - ・ゴール時に号砲

■サポートランナー走行

- ◆フォトセッション(聖火ランナー・サポートランナー・富岡町長・富岡町教育委員会教育長・富岡町議会議長・富岡町立富岡第一中学校校長)

第7区間：葛尾村

葛尾村立葛尾小学校入り口付近

- 自治体公式キャラクターの応援(葛尾村公式イメージキャラクターしみちゃん)

葛尾村立葛尾幼稚園前

- ◆フォトセッション(聖火ランナー・サポートランナー・葛尾村長)

■サポートランナー走行

沿道

- 応援グッズ(村旗)による応援

その他

- スタート・ゴール・トーチキス時の花火打ち上げ

第8区間：双葉町

双葉駅前(スタート、ゴール地点付近)

- 和太鼓の演奏(標葉せんだん太鼓保存会)
- サポートランナー走行
- ◆フォトセッション(聖火ランナー・サポートランナー・双葉町長・双葉町議会議長・埼玉県加須市長)
- 双葉町聖火リレー記念式典の実施(※リレー終了後に実施)
 - ・コーラスふたばの歌唱など

第9区間：大熊町**沿道**

- 応援グッズ（オリジナル手旗）による応援

大熊町役場本庁舎（ゴール地点）

- 自治体公式キャラクターの応援

（大熊町公式マスコットキャラクターああちゃん）

■サポートランナー走行**◆フォトセッション**

（聖火ランナー・サポートランナー・大熊町長・副町長・大熊町教育長・大熊町議会議長）

その他

- スタート・ゴール時の花火打ち上げ
- 記念品の配布（※リレー終了後に実施）

第10区間 浪江町**沿道**

- 花による装飾

道の駅なみえ（ゴール地点）

- 大漁旗による応援（諏訪漁港の漁業者）

○自治体公式キャラクターの出迎え（浪江町公式イメージアップキャラクターうけいん）

■サポートランナー走行**◆フォトセッション**

（聖火ランナー・サポートランナー・浪江町長・副町長・浪江町教育長・浪江町議会議長・浪江町公式キャラクター）

第11区間：南相馬市**南相馬市役所（スタート地点）**

- 甲冑武者によるサムライ文化のPR（相馬野馬追執行委員会）
- 法螺貝の吹奏（相馬野馬追執行委員会）

沿道

- 応援グッズ（市章の手旗、復興「ありがとう」ホストタウン相手国・の国旗の手旗）による応援

雲雀ヶ原祭場地（ゴール地点）

- 騎馬武者による出迎え、法螺貝の吹奏、篝火の設置（相馬野馬追執行委員会）

○復興PRイベント「南相馬市復興ありがとうフェスタ」の開催（南相馬市）

★セレブレーション

○県実行委員会オープニングプログラム
・相馬野馬追（相馬野馬追執行委員会）

■サポートランナー走行**◆フォトセッション【セレブレーション内で実施】**

（聖火ランナー・サポートランナー・福島県知事・南相馬市長）

○PRブースの設置

- ・相馬野馬追PR（陣羽織着付け体験・乗馬体験）（南相馬市）
- ・福島県観光PR（福島県観光交流課）
- ・福島県農産物PR（福島県環境保全農業課）
- ・福島県水素PR（福島県エネルギー課）

その他

- 騎馬隊列による行列（御先乘）（※聖火リレー実施前）（相馬野馬追執行委員会）

■DAY2 2021年（令和3年）3月26日**第1区間：相馬市****相馬中村神社（スタート地点）****●出発式 ウェルカムプログラム**

- ・相馬太鼓の演奏（相馬高等学校 相馬太鼓部）
- ・相馬野馬追の陣舞吹奏の披露（宇多郷騎馬会）

・相馬市長挨拶**◆フォトセッション【出発式内で実施】**

（聖火ランナー・サポートランナー・相馬市長（県実行委員会代表）・相馬高等学校相馬太鼓部・宇多郷騎馬会）

■サポートランナー走行**相馬駅前（ゴール地点）**

- プラスバンドの演奏

（相馬高等学校 及び 相馬東高等学校の吹奏楽部による合同演奏）

第2区間：飯館村**飯館村交流センターふれ愛館（スタート地点）**

- よさこいの演舞（いいたて・愛）

◆フォトセッション（聖火ランナー・サポートランナー）**■サポートランナー走行****沿道**

- 応援グッズ（オリジナルの手旗）による応援

第3区間：新地町**観海堂公園（スタート地点）**

- スタート地点での盛り上げイベント

・アルプホルンの演奏（アルプホルン倶楽部）

・吹奏楽の演奏（新地町立尚英中学校）

- 応援グッズ（町章の手旗）による応援

釣師防災緑地公園（ゴール地点）**■サポートランナー走行****◆フォトセッション**

（聖火ランナー・サポートランナー・新地町長・副町長・新地町教育長など）

その他

- スタート時に花火の打ち上げ

第4区間：川俣町**とんやの郷（スタート地点）**

- 和太鼓の演奏（山木屋太鼓）

沿道

- 応援グッズ（オリジナルの手旗）とアンシリウムの花束による応援

川俣町立山木屋中学校（ゴール地点）

- フルクローレ（南米音楽）の演奏（アミーゴ・デ・川俣）

○フルクローレに合わせた演舞

（コンフルエンシア 及び コンフルエンシアJr.）

■サポートランナー走行**◆フォトセッション**

（聖火ランナー・サポートランナー・川俣町長・川俣町教育長）

第5区間：福島市**信夫ヶ丘競技場（スタート地点）**

- スタート前セレモニー

・和太鼓の演奏（靈山太鼓保存会、三若連、錦町太鼓保存会）

・マーチングバンドの演奏（福島市立吉井田小学校 及び 福島市立野田小学校 各マーチングバンド部）

・吹奏楽の演奏（ふくしま古関楽団 2020）

◆フォトセッション

（聖火ランナー・サポートランナー・福島市長）

■サポートランナー走行

- 復興メッセージボードの掲示

○花見山をイメージした花木による装飾

福島市役所前

- 古関裕而メロディーバス配置、古関メロディー放送

沿道

- 応援グッズ（オリジナルの手旗）による応援

第6区間：猪苗代町**ぶな平ゲレンデ****■スキーによる特殊走行・サポートランナー走行****◆フォトセッション**

（聖火ランナー・サポートランナー、猪苗代町長、猪苗代町教育長）

葉山中央駐車場（ゴール地点）

- ゴール地点での盛り上げイベント

・和太鼓の演奏（猪駄天）

・ガーナ共和国のオリンピック・パラリンピック出場選手の紹介

・共生社会ホストタウン事業の映像上映

・町内小・中学校、高等学校及び支援学校等の児童・生徒が制作した「花アート」の披露

第7区間：三島町①（展望台）**第一只見川橋梁展望台****■只見川橋梁を通過する列車に合わせた聖火リレー****第8区間：三島町②（町内）****三島町立三島中学校（スタート地点）**

- 鼓笛隊の演奏（三島町立三島小学校 鼓笛隊）

沿道

- 応援グッズ（聖火リレー公式うちわ）による応援

三島町役場前

- 自治体公式キャラクターの出迎え

（柳津町マスコットキャラクターうちゃんと、金山町公式キャラクターかばまる、昭和村公式マスコットキャラクターからむん）

◆フォトセッション

（聖火ランナー・サポートランナー・三島町長・柳津町長・金山町長・昭和村長・各町村公式キャラクター）

■サポートランナー走行**三島町観光協会駐車場（ゴール地点）**

- 和太鼓の演奏（金山町和太鼓サークル ぽんぽこ）

その他

- スタート、ゴール時の花火打ち上げ

○記念花火の打ち上げ（※リレー終了後に実施）

第9区間：喜多方市**東四谷入口交差点（おたづき通り交差点）（スタート地点）**

- スタート地点での盛り上げ

・通過・近隣市町村首長等

（喜多方市・西会津町・磐梯町・北塩原村）の紹介

・伝統芸能の披露

（会津喜多方祭子盆踊り保存会、大山さゆり太鼓）

喜多方プラザ文化センター駐車場（蔵の里前）（ゴール地点）

- ゴール地点での盛り上げ

・伝統芸能の披露（大塩川前神楽保存会、赤枝青年会）

・吹奏楽の演奏（喜多方高等学校、喜多方桐桜高等学校 及び 喜多方東高等学校の吹奏楽部による合同演奏）

■サポートランナー走行**◆フォトセッション（聖火ランナー・サポートランナー）****第10区間：会津若松市****リオンドール駅前店 駐車場（スタート地点）**

- 和太鼓の演奏（安兵衛太鼓）

国道118号神明通り南側交差点北側（アーケード内）

- 東京五輪音頭の披露（スポーツ民踊あいづ白虎）

北出丸大通り（裁判所北交差点）**○「パプリカ」のダンス演舞**

（会津稽古堂キッズダンスプロジェクト）

鶴ヶ城公園市営駐車場（鶴ヶ城西出丸）（ゴール地点）**★セレブレーション****○県実行委員会オープニングプログラム**

・会津彼岸獅子の演舞（小松獅子保存会）

・白虎隊剣舞（会津若松市立一箕中学校 特設剣舞部）

■サポートランナー走行**◆フォトセッション（セレブレーション内で実施）**

第3区間：白河市	
白河市総合運動公園 陸上競技場（スタート地点）	
○スタート地点での盛り上げイベント ・応援団・チアリーダーの演奏 (光南高等学校 応援団・チアリーダー部) ・和太鼓の演奏（埼工業高等学校 和太鼓部）	
白河小峰城（ゴール地点）	
○ゴール地点での盛り上げイベント ・吹奏楽の演奏（白河旭高等学校 吹奏楽部） ・自治体公式キャラクターの出迎え（県南全9市町村）	
■サポートランナー走行	
◆フォトセッション（聖火ランナー・サポートランナー・県南地域9市町村の公式キャラクター）	
その他	
○スタート、ゴール時に花火打ち上げ	
第4区間：本宮市	
白沢公民館前 ふれあい夢広場（スタート地点）	
○スタート地点での盛り上げイベント ・ステージプログラム 二本松少年隊演武（現代版二本松少年隊）、 木幡の幡祭り（木幡観光振興会） ・ホストタウンPRブースの設置（本宮市、二本松市、大玉村）	
本宮市立白沢中学校周辺（白岩柳内地内）	
○高松権現太鼓の演奏（高松権現太鼓会）	
あだたら憩の家前	
○あだたら和（なごみ）太鼓の演奏 (NPO法人ハナ・おうえんじゅー)	
プリンス・ウィリアムズ・パーク屋内あそび場駐車場	
○安達太良太鼓の演奏（安達太良太鼓保存会）	
しらさわグリーンパーク野球場駐車場	
○御神輿等の展示（安達太良神社奉賛会）	
○もとみや秋祭り太鼓演奏（安達太良神社奉賛会）	
プリンス・ウィリアムズ・パーク英國庭園（ゴール地点）	
○ゴール地点での盛り上げイベント ・市長、議長の挨拶、駐日英国大使等のメッセージ披露 ・自治体公式キャラクターの出迎え (本宮市イメージキャラクター まゆみちゃん) ・真結女御輿の展示	
■サポートランナー走行	
◆フォトセッション (聖火ランナー・サポートランナー・本宮市長・ 本宮市議会議長・駐日英国大使館職員・ 本宮市公式キャラクター)	
沿道	
○応援グッズ（日本国旗、復興「ありがとう」ホストタウン相手国 英國国旗の手旗）による応援	
その他	
○ゴール時の5色の花火打ち上げ	
第5区間：須賀川市	
スタート地点・各トーチキスポイント・ゴール地点	
○サルビアのプランター設置（円谷幸吉・レガシーサルビアの会）	
○サルビアの道再現（円谷幸吉・レガシーサルビアの会）	
沿道	
○応援グッズ（オリジナルの手旗、丸形のチラシ）による応援	
須賀川市役所 駐車場（ゴール地点）	
■サポートランナー走行	
◆フォトセッション (聖火ランナー・サポートランナー・円谷喜久造氏※) ※ 1964年東京五輪・マラソン競技銅メダリスト円谷幸吉氏の実兄	
その他	
○スタート、ゴール時の花火打ち上げ	

第6区間：田村市	
都路大橋付近（スタート地点）	
○田村市観光キャンペーンクルーによる見送り ○自治体公式キャラクターの応援 (田村市PRキャラクター オリオンちゃん・カブトン)	
田村市都路行政局 駐車場	
○田村市観光キャンペーンクルーによる案内 沿道	
○応援グッズ（オリジナルの手旗）による応援	
古道体育馆駐車場（ゴール地点）	
○ゴール地点での盛り上げイベント ・和太鼓の演奏（大越町鬼五郎幡五郎和太鼓保存会） ・田村市観光キャンペーンクルーの出迎え	
■サポートランナー走行	
◆フォトセッション (聖火ランナー・サポートランナー・田村市長・副市長・ 田村市教育長・田村市議会議長・ 田村市観光キャンペーンクルー)	
○PRブースの設置	
その他	
○スタート・ゴール・トーチキス時の花火打ち上げ ○地元産米を使用した豆餅・シソ餅の配布	
第7区間：郡山市	

■サポートランナー一覧（2021年（令和3年））

区間	区間名	走行場所	走行者	人数
3月25日	2	楓葉町	みんなの交流館ならはCANvas	17
	3	広野町	ふたば未来学園 中学校・高等学校	18
	4	川内村	川内村立川内中学校	10
	5	いわき市	いわき陸上競技場	20
	6	富岡町	富岡町立富岡第一中学校	8
	7	葛尾村	葛尾村立葛尾幼稚園前	16
	8	双葉町	双葉駅前	8
	9	大熊町	大熊町役場本庁舎	13
	10	浪江町	道の駅なみえ	17
	11	南相馬市	雲雀ヶ原祭場地	17
3月26日	1	相馬市	相馬中村神社	19
	2	飯館村	飯館村交流センターふれ愛館	5
	3	新地町	釣師防災緑地公園	20
	4	川俣町	川俣町立山木屋中学校	18
	5	福島市	信夫ヶ丘競技場	20
	6	猪苗代町	ぶな平ゲレンデ	20
	8	三島町②	三島町役場前	17
	9	喜多方市	喜多方市文化センター 駐車場（蔵の里前）	20
	10	会津若松市	鶴ヶ城公園市営駐車場 (鶴ヶ城西出丸)	20
3月27日	1	南会津町	びわのかげ運動公園 健康交流センター	11
	2	下郷町	大内宿駐車場	18
	3	白河市	白河小峰城	19
	4	本宮市	プリンス・ウィリアムズ・ パーク英國庭園	19
	5	須賀川市	須賀川市役所駐車場	20
	6	田村市	古道体育馆駐車場	12
	7	郡山市	開成山公園自由広場	19

サポートランナー合計人数：421人（3月25日：144人・3月26日：159人・3月27日：118人）

IX パラリンピック聖火リレー

■全国のパラリンピック聖火リレーのスケジュールと概要 [2021年(令和3年)]

8月12日～16日	聖火フェスティバル	各道府県(43道府県)での聖火フェスティバル： 採火式(各道府県の火を採火)／ 聖火ビジット(県内各所をランタンで訪問・任意開催)／ 出立式(採火した火を東京へ送り出す)
8月17日		静岡県での聖火フェスティバル及び競技開催県内聖火リレー
8月18日		千葉県での聖火フェスティバル及び競技開催県内聖火リレー
8月19日		埼玉県での聖火フェスティバル及び競技開催県内聖火リレー
8月20日		東京都での聖火フェスティバル及び競技開催都内聖火リレー
8月20日		集火式(東京都・迎賓館赤坂離宮)： 47都道府県の火とストーク・マンデビルの火が1つになりパラリンピック聖火が誕生
8月21日～24日	聖火リレー	開催都市内聖火リレー 8月21日 都立葛西臨海公園 第三駐車場 8月22日 国分寺市新庁舎建設予定地(いずみプラザ東側用地) 8月23日 都立砧公園 納めのき広場 8月24日 都立代々木公園 中央広場
8月24日		東京2020パラリンピック開会式

■採火式(県内3地域)の採火者 [2021年(令和3年)]

8月12日 浜通りの火 採火式	
佐藤 聰	パラリンピアン(車いすバスケットボール)、2008北京、2012ロンドン大会出場、郡山市出身
齋藤 春香	相馬支援学校高等部
8月13日 中通りの火 採火式	
千葉 麻美	オリンピアン(陸上競技)、2008北京大会出場、陸上女子400m日本記録保持者、東京2020オリンピック聖火ランナー、矢吹町出身
齋藤 朱	たむら支援学校高等部
8月14日 会津の火 採火式	
佐藤 智美	世界パラ陸上日本代表(2013年、2017年)、陸上女子100m(T13クラス)日本記録保持者、二本松市出身
権瓶 顯太郎	会津支援学校高等部

■福島県代表者・聖火ランナー

福島県代表者：福島県の火を開催都市・東京へ届ける	
増子 恵美	パラリンピアン(車いすバスケットボール)、1996アトランタ大会出場、2000シドニー大会銅メダル、2004アテネ大会出場、2008北京大会出場、(公財)福島県障がい者スポーツ協会所属、三春町出身
福島県代表聖火ランナー：開催都市・東京での聖火リレーに福島県代表として参加	
星野 千尋	いわき支援学校高等部

■各市町村の種火起こしの方法と種火に込めた思い

■浜通り(13市町村) [2021年(令和3年)]

いわき市	8月10日
いわき市石炭・化石館 ほるる	
川内村	8月11日
川内村総合グラウンド	
大熊町	8月10日
頭森公園広場	
双葉町	7月1日
ふたば幼稚園	
浪江町	8月6日
道の駅なみえ	
葛尾村	8月7日
葛尾村役場	
富岡町	8月9日
麓山神社	
新地町	8月11日
新地町文化交流センター	

■浜通り(13市町村) [2021年(令和3年)]

いわき市では、市が推進する水素エネルギーを活用し、燃料電池車から給電した発火装置を利用して、いわき市の繁栄の基となった常磐炭田の石炭に火を起こし、新旧エネルギーで紡いだ火を種火とした。
コロナ禍で市の種火起こしセレモニーに参加がかなわなかった市民の皆さんへの思いも込め、パラリンピック聖火リレーに種火を送り出した。

相馬市では、スポーツ推進委員会と体育協会の皆さんのが水レンズを使用し、太陽光を集めて種火を起こした。
この種火には、共生社会の実現と、東日本大震災からの復興への思いを込めた。

南相馬市では、東日本大震災からの復興・原発事故で市外への避難を余儀なくされた市民たちの故郷への道しるべとして、神戸市「1.17希望の灯り」から分灯された「3.11希望の灯り」から種火を採った。
被災地の復興・思いやり・やさしさ・絆などを象徴する「3.11希望の灯り」から種火を探ることで、南相馬市から世界中へ、障がいのあるなしにかかわらず全ての方への思いやりや優しさ、そして感謝の思いを込めた。

広野町では、二ツ沼総合公園で栽培しているバナナの葉や茎に、町内の子どもたちが、マイギリ式と太陽光で種火を起こした。
この種火には、これまでいただいた多くの復興支援に対する感謝の気持ちと、広野町の復興・創生に向けて躍進する姿を國內及び世界の方々に届けたいという思いを込めた。

楢葉町では、楢葉町コミュニティセンター

ゼロカーボン宣言をしている楢葉町では、町内の子どもたちや太陽光発電推進に携わる大人が協働して作った空き缶を活用したエコ凹面鏡を使って、クリーンでエコな太陽光を用いた種火起こしにチャレンジした。
古代ギリシャの聖火の採火に通じる凹面鏡を用いて灯した種火には、持続可能な自然エネルギーを用いることで、かけがえのない故郷の環境を未来へつなぐ思いと、パラリンピックを応援する思いを込めた。

富岡町では、福島県指定重要無形民俗文化財に指定されている「上手岡麓山神社の火祭り」に倣った方法で起こした御神火から、種火を採った。
この祭りは、町を代表する夏の祭礼として毎年開催され、東日本大震災と原発事故から8年ぶりに復活した。2020年(令和2年)、2021年(令和3年)は新型コロナウイルス感染症の影響により中止を余儀なくされたが、今回はその方法に倣って起こした御神火から採った種火に、祭礼の後世への継承と、コロナ禍の終息、そして終息の暁には、この祭礼をまた皆さんに御覧いただきたい、そんな強い思いを込めて、パラリンピックの聖火として送り出した。

新地町では、新地町のオリンピック聖火リレースタート地点である観海堂公園に、町の子どもたちが作ったオリジナルキャンドルを並べ、キャンドルに灯した火を種火として採った。このオリジナルキャンドルの作成には、町の地域団体「みらいど」の皆さんも携わった。
子どもたちが未来への思いを込めて灯した希望の火が、新地町から全国へ、そして世界に届くよう願いを込め、種火を送り出した。

飯館村	8月11日
飯館村交流センター「ふれ愛館」	
<p>飯館村では、「復興」「再生」「希望」と名付けた3つの火を合わせて種火とした。</p> <p>「復興」の火は、村の鍛冶屋が鉄を叩き続けることで生じた熱から、「再生」の火は、村の再生エネルギー発電事業者が太陽光パネルから発電した電気を利用した着火装置から、そして、飯館村立いいたて希望の里学園では、復興ありがとうホストタウンの相手国ラオスへの思いなどを綴ったメッセージカードで炎の絵を作り、「希望」の火とした。</p> <p>3つの火は、村の地域おこし協力隊でキャンドル作家が作成した大きなオリジナルキャンドルに灯され、飯館村の種火となつた。</p> <p>飯館村の多くの場所や人が関わることで、村の様々な魅力を感じてもらいたいとの思いを込めた。</p>	
■中通り(29市町村) [2021年(令和3年)]	
福島市	8月13日
街なか広場	
<p>福島市では、市在住パラリンピアンや障がいのある方、ホストタウン相手国であるスイス、ベトナム出身の方など12人が参加し、マイギリ式により種火を起こした。</p> <p>種火には、将来に向け共生社会実現への願いを込めて、様々な立場の方が分け隔てなく対等な関係で助け合い、共に生活できる社会実現への思いを込めた。</p>	
郡山市	8月11日
大安場史跡公園	
<p>郡山市では、国指定史跡である大安場史跡公園で、当時を再現したマイギリ式火起こしにより種火を起こした。「SDGs未来都市こおりやま」の地で、障がいのある方もない方もともに火起こし体験を行い、共生社会への理解を高めた。</p> <p>種火には、誰もが手を取り合う共生社会を未来へつなげようという強い思いを込めた。</p>	
白河市	8月11日
白河小峰城 城山公園	
<p>白河市では、白河小峰城が築城された時代の、火打石を使った手法により種火を起こした。</p> <p>市のシンボルとして市民に親しまれる小峰城は、東日本大震災で被災した石垣が8年の歳月を経て美しい姿に蘇った。復興の象徴であるこの場所で起こした種火には、夢と希望を与えるパラリンピックの希望の灯となるよう、願いを込めた。</p>	
須賀川市	8月11日
二階堂神社	
<p>須賀川市では、伝統的な火祭り「松明あかし」の御神火奉授の手法を再現し、その火から種火を採った。</p> <p>須賀川市の福祉の基本理念「みんなでつくる 地域共生社会すかがわ」を目指し、400年以上の伝統を誇る「松明あかし」のような、持続可能な共生社会実現への思いを込めた。</p>	
二本松市	8月11日
生活介護事業所 菊の里	
<p>二本松市では、社会福祉法人あおぞら福祉会の生活介護事業所 菊の里と就労継続支援B型事業所 工房はっちの皆さん、凸レンズ等を利用し太陽光を集め種火を起こした。種火起こしに参加された方には、全国障がい者スポーツ大会に出場している方もあり、二本松市を代表する選手から世界に向けて多様性の種火を届けた。</p> <p>種火には、「多様性を認め合う」ことの大切さ、誰もが生きやすく、幸せを感じられる社会の実現に向けた思いを込めた。</p>	

田村市	8月11日
グリーンパーク都路	
<p>田村市では、市を代表する夏祭りの一つでもある「都路灯まつり」の竹灯を再現し、田村市立都路中学校の代表生徒2人がその火から種火を採った。</p> <p>都路灯まつりは約1万本の竹筒に火が灯される神秘的で幻想的な優しい火が特徴で、これまで、多くの方々に感動と勇気を与えてきた希望の灯である。東京2020パラリンピックが多くの方々に希望を届ける時間となるようにという願いを込めた。</p>	
伊達市	7月17日
伊達市立保原小学校	
<p>伊達市では、市内で行われたオリンピアン講演会・陸上教室に参加した小学校5・6年生の児童たちが、マイギリ式で種火を起こした。</p> <p>この種火には、オリンピック・パラリンピック選手の活躍を祈り、伊達市から応援するという気持ちを込めた。</p>	
本宮市	8月3日
本宮市ふれあい夢広場	
<p>本宮市では、市内の障がい福祉事業所の皆さんと、本宮高等学校の生徒が、マイギリ式火おこし棒、火打石で起こした火により、夢や願い事を書いた短冊を燃やし、その火を英國庭園フラワーフェスティバルで制作したローソクに灯し種火とした。</p> <p>障がいのある方とそうでない方の共同作業による共生の火とし、「復興ありがとうホストタウン」の相手国である英国との絆を込めて、東京2020パラリンピックの成功とアスリートたちの健闘を祈った。</p>	
桑折町	8月12日
桑折町屋内温水プール・多目的スタジオ「イコーゼ！」	
<p>桑折町では、町の未来を担う町内各地区の小学生が集まり、共同でマイギリ式により種火を起こした。</p> <p>種火には、新型コロナウイルス感染症の早期終息と、障がいのあるなしにかかわらず支え合う共生社会への思いを込めた。</p>	
国見町	8月12日
国見町観月台文化センター屋外ステージ	
<p>国見町では、ふるさとに愛着を持ち、元気な国見町を県内外に発信する「国見ジュニア応援団」の児童生徒が、マイギリ式により種火を起こした。</p> <p>種火には、ジュニア応援団の児童生徒が、共生社会の実現に向けて、自ら考え、判断し、行動を起こすことができるジュニアリーダーを目指していくという願いを込めた。</p>	
川俣町	8月12日
川俣町体育館	
<p>川俣町では、町内の子どもたちが、現在、発掘中の縄文時代の前田遺跡になぞらえ、マイギリ式により種火を起こした。</p> <p>原発事故から10年を経過した川俣町の更なる復興を祈念し、川俣町の将来を担う子どもたちと共同で取り組むことで共生社会の実現への思いを込めた。</p>	
大玉村	8月11日
まちなか ふれあい かよい路(みち)	
<p>大玉村では、村内の障がい福祉事業所「ふれんどりー大玉」及び「ふあいんぱる大玉」の皆さん、共生社会に関する思いや東京2020パラリンピックへのメッセージを記入した短冊を燃やし、種火を起こした。</p> <p>種火には、障がいのある方もない方も、ともに分け隔てなく暮らしていくける、共生社会の実現に向けた思いと、東京2020パラリンピックの成功への願いを込めた。</p>	
鏡石町	8月9日
鏡石町構造改善センター	
<p>鏡石町では、町内でパラスポーツに取り組む「TEAMまきばの朝」の皆さんが、マイギリ式により種火を起こした。</p> <p>種火には、スポーツを通して「世代や立場を超えて地域住民が共に支えあう地域づくり」が実現されることへの願いを込めた。</p>	
天栄村	8月11日
天栄村屋内運動場	
<p>天栄村では、村内小中学校の児童生徒の代表が、マイギリ式により種火を起こした。</p> <p>起こした種火は、天栄幼稚園の園児が作成したパラリンピックカラーである赤・青・緑のキャンドルへ灯され、村内の小中学生が書いた、共生社会の実現への思いや、パラリンピックの成功、選手への応援メッセージなどが書かれたメッセージカードの前で、種火にそれらの思いを込めた。</p>	
西郷村	8月11日
西郷支援学校	
<p>西郷村では、西郷支援学校の皆さんがマイギリ式で種火を起こした。</p> <p>この種火には、トップアスリートたちが輝くパラリンピックの成功と、共生社会の実現に向けた希望の灯(あかり)となるように、という願いを込めた。</p>	
泉崎村	8月11日
泉崎資料館	
<p>泉崎村の種火は、村内で活動するスポーツ少年団の子どもたちが協力しマイギリ式で火を起こし種火とした。</p> <p>種火にはスポーツの力によりパラリンピックの成功と新型コロナウイルス感染症が早期収束するようにとの願いを込めた。</p>	
中島村	8月5日
特別養護老人ホームひかりの里	
<p>中島村では、村の特別養護老人ホームの皆さんと、児童館の子どもたちが協力してマイギリ式で種火を起こした。種火起こしには村イメージキャラクターなかじうさんも協力した。</p> <p>この種火には、パラリンピックの成功と新型コロナウイルス感染症の終息への思い、そして不安を抱いてしまいがちな暗い世の中をこの火が照らし、明るい未来が来るよう、という願いを込めた。</p>	
矢吹町	8月11日
矢吹町大池公園	
<p>矢吹町の種火は、「水・花・緑が香る公園」がテーマの四季折々の魅力が楽しめる大池公園を会場に、町の夏祭りのかがり火を再現し、種火を採った。</p> <p>この種火には、全ての人が平等で平和に毎日の生活が送れるように、との願いを込めた。</p>	
棚倉町	8月10日
ルネサンス棚倉	
<p>棚倉町では、同じ北緯37度に位置するオリンピック発祥の地ギリシャのスパルタと、1986年(昭和61年)から友好都市の提携をしている繋がりがあることから、パルテノン風の建物があるルネサンス棚倉の敷地内で、棚倉町シンボルキャラクターたなちゃんが、凹面鏡により太陽光で種火を採った。</p> <p>住民が相互に尊重し協力し合い、家族や地域でのつながりを大切にし、ふるさとの歴史や文化、自然環境を守り愛着を持つて安全安心で健やかに暮らすことを目指す棚倉町の思いを込めた。</p>	
矢祭町	8月11日
矢祭山親水広場	
<p>町名の「矢祭」の名は八幡太郎義家(源義家)が奥州征伐の際、山麓の神社に矢を奉納したことによ来していると言われている。</p> <p>矢祭町では、マイギリ式により火をおこし、伝説にちなんだ「矢」に火を移しそこから種火を採った。</p> <p>種火には、障がい者が安心して生活できる社会、活躍できる社会になってほしい、最後まで諦めずにゴールをめざしてほしい、との願いを込めた。</p>	
塙町	8月10日
障がい者支援施設ウッドピアはなわ	
<p>塙町では、町内に障がい者支援施設を運営するNPO法人ウッドピアはなわの皆さんがマイギリ式により種火を起こした。</p> <p>種火には、障がい者が生き生きと暮らせる社会の実現や、男女差別のない社会の実現への願いを込めた。</p>	
鮫川村	8月11日
赤坂館 頂上	
<p>鮫川村では、かつて赤坂城というお城があった鮫川村市街を一望できる「赤坂館」の頂上で、村内の障がい者支援施設の皆さんがマイギリ式により種火を起こした。</p> <p>障がいのある方も多い方も協力して火を起こすこと、障がいのあるなしにかかわらず活躍できることを再認識するとともに、種火には、今後のさらなる共生社会の発展への願い、そして、パラリンピックで日本を代表して躍動する選手たちへのエールを込めた。</p>	
石川町	8月11日
愛恵自立支援センター	
<p>石川町では、社会福祉法人やまと会が震災後にスタートしたパン工房「ベーカリーあい」で働く皆さんと、障がい者通所事業所愛恵自立支援センターの皆さんが協力して、マイギリ式で種火を採った。</p> <p>町民の皆さんにもとてもおいしいと評判のパンで、運営や製造、販売を障がい者が主体となり行っている。皆さんが協力して起こした種火には、障がい者の社会参加、共生社会の推進への思いを込めた。</p>	
玉川村	7月16日
森の駅 yodoge	
<p>玉川村では2021年(令和3年)7月18日にオープンした観光交流施設「森の駅 yodoge」で、玉川村産の木材を用いたスウェーデントーチに灯した火から、村内で活動するパラアスリート2人が火を採り、玉川村の種火とした。</p> <p>種火には、共生社会の実現への祈り、世界平和への祈り、新型コロナウイルス感染症の早期収束と1日でも早くマスクのない日常に戻れるよう祈りを込めた。</p>	
平田村	8月11日
障がい者支援施設 だんでらいおん	
<p>平田村では、NPO法人がんばろう会の障がい者支援施設だんでらいおんの皆さん、マイギリ式により種火を起こした。</p> <p>この種火には、パラリンピックの主役である障がいのある方の活躍への熱い思いと、パラリンピックの成功への願いを込めた。</p>	

浅川町	7月29日
-----	-------

浅川町中央公民館

浅川町では、浅川町身体障がい者福祉会の皆さんが見守る中、町内の小学生がマイギリ式での種火起こしにチャレンジした。

オリンピック・パラリンピックが競技に関する人々だけではなく、幅広い人々に関心を持ってもらえるよう、その願いを種火に込めた。

古殿町	8月10日
-----	-------

農業集落多目的集会施設 大網庵

古殿町では、イメージキャラクターのやぶさめくんが古殿町の「古殿杉」を使って、種火を起こした。

種火には、障がいのある方、ない方といった垣根がない社会となることへの願いを込めた。

三春町	8月6日
-----	------

障がい者就労支援施設 桜工房

三春町では、NPO法人桜こまちが運営する障がい者就労支援事業所桜工房で、竹炭をつくるための窯の火から種火が採りだされた。

種火には、障がい者就労支援事業所での活動が広くPRされることで、共生社会への理解と実現が進むよう願いを込めた。

小野町	8月12日
-----	-------

障がい者支援センタープラスこまち

小野町では、NPO法人ほっと障がい者支援センタープラスこまちの皆さん、町木である杉の間伐材にマイギリ式で火をつけ、種火を採った。

種火には、多様性を尊重し障がいのあるなしにかかわらず、全ての人が共に支え合って生きる共生社会の実現に向けた願いを込めた。

■会津地方(17市町村)【2021年(令和3年)】

会津若松市	8月13日
-------	-------

株式会社グリーン発電会津

会津若松市では、山林未利用材を使用した木質バイオマス発電の炎から種火を採った。

木質バイオマス発電は「カーボンニュートラル」と言われ、SDGs達成に資する資源循環型エネルギーである。種火は、緑に親しみ、守り育てる活動を通じて、郷土に貢献する活動に取り組む会津若松市立大戸小学校「緑の少年団」のメンバーが採った。

この種火には、未来に向けて、美しい地球環境を守り継いでいくこうというメッセージを込めた。

喜多方市	8月9日
------	------

喜多方桐桜高等学校

喜多方市では、喜多方桐桜高等学校の生徒たちが学ぶ「工業」の知識や技術をいかし、SDGsの視点に立ち、廃材や身近なものを使った環境に優しい火を起こすプロジェクトチームを立ち上げた。

機械科の生徒が壊れた自転車を使い発電装置を、電気・電子科の生徒がシャープペンの芯を使い発火装置を、建設科の生徒が木くずから木のトーチを作り、生徒が渾身の力で車輪を回し、放電技術により熱を火花に変えて、採火しトーチに灯し種火とした。

生徒の皆さんが願う持続可能な社会の発展と、共生社会の実現への思いが込められた種火となつた。

下郷町	8月6日
-----	------

中山花の郷公園

下郷町では、社会福祉法人南陽会下郷作業所ホイップと日本夜景遺産「なかやま雪月火」を運営する中山行政区が、凸レンズを用いて太陽光からそれぞれ種火を起した。

種火は一旦、町特産のえごま油を燃料とするアルコールランプに移し、そこから、各代表がそれぞれの種火をランタンへ灯し、下郷町の火とした。

種火には、障がい者との共同作業による共生社会の実現、町特産品を用いることによる地域の発展など、さまざまな願いを込めた。

檜枝岐村	8月6日
------	------

檜枝岐村ミニ尾瀬公園

檜枝岐村では、尾瀬を気軽に体験できる「ミニ尾瀬公園」で、東北一の高さを誇る百名山燧ヶ岳を背景に種火起こしを行った。

種火は、村の名前の由来にもなっている「檜」を使った伝統工芸品「曲げ輪」の端材を使って、地元小学生が火打ち石での火起こしに挑戦した。

種火には、東京2020パラリンピックの成功と、新型コロナウイルスの終息への願いを込めた。

只見町	8月13日
-----	-------

旧長谷部家住宅

只見町では、福島県指定重要文化財である「旧長谷部家住宅」の囲炉裏で、町で伝統的に作られていた「かじご焼き」という炭に、先人が使用していた民具を使用して火を起こし、その囲炉裏の火から種火を採った。

自然と共に共生、その中で育まれた豊かな文化が認められ、ユネスコエコパークに認定されている只見町。自然の恵みと先人の知恵との結晶である炭から採火した種火に、持続可能な社会の発展と、共生社会の実現への願いを込めた。

南会津町	7月23日
------	-------

障がい者支援施設 あたご共同作業所

南会津町では、NPO法人あたごの皆さん、日々の活動で加工・製造している南会津産の「杉割り箸」の材料を用いて種火を起こした。

共生社会実現に向けた東京2020パラリンピックにおける聖火フェスティバルに、施設利用者全員で参加することで、これから仲間づくりと、地域社会のなかでの生きがいづくりにつなげていきたいという願いを込めた。

北塩原村	8月12日
------	-------

会津山塩企業組合工場

北塩原村の種火は、「会津山塩」を製造する薪窯の火を採った。

会津山塩は、かつて会津藩や皇室に献上するなど製造が盛んだったが、1945年(昭和20年)代に塩の専売化により製造が途絶えた。しかし、会津山塩を復活させようと地元有志が立ち上がり、2005年(平成17年)に復活を遂げ、以後村の特産品として欠かせないものとなった。

この種火には、地域住民の共生社会への願いや、困難を乗り越え立ち上がる「復興」へのメッセージを込めた。

西会津町	8月3日
------	------

障がい者支援施設 西会津町授産場

西会津町では、社会福祉法人西会津町授産場の皆さんのが共同作業により、施設で使用しているガス溶接機械から種火を採った。

施設ではガス溶接機を用いて車のブレーキランプの組立や加工などを手分けして行い、年間数10万個を加工するほか、様々な活動を通じて障がいのある方が活躍している。

この種火には、世界平和と共生社会を願い、障がいのある方の活躍への思いを込めた。

磐梯町	8月13日
-----	-------

磐梯町慧日寺金堂

磐梯山の懷に抱かれる靈験あらたかなこの地は、万葉集に詠まれた「会津嶺の国」の郷として発展し、いにしえからの山岳信仰に基づいたさまざまな宮みが現在に継承されている。そうした背景のもと、平安時代初期に高僧徳一により創建された慧日寺も、明治初めの廢寺に至るまで一千年余の歴史を重ねた。廢寺後の広大な寺跡は1970年(昭和45年)に国の史跡に指定され、現在町による史跡整備事業が行われている。磐梯町では、その一環として2008年(平成20年)に復元した金堂に灯された灯明から種火を採った。

この種火には、共に支え合い、誰もが生き生きとした人生を送ることができる社会の実現とお互いが分かれ合える、こころのバリアフリーを磐梯町から実行しようという思いを込めた。

猪苗代町	8月13日
------	-------

磐椅神社

猪苗代町では、町の伝統のまつり、「磐梯まつり」の御神火から種火を採った。磐梯まつりは、1888年(明治21年)7月15日の磐梯山噴火で殉難された方々の追悼と供養を目的に1948年(昭和23年)から始まり、以来地元住民が大切に継承し発展してきた。

その御神火に込められた2つの心、1つは噴火で亡くなった方の「魂を慰める心」、もう1つは新たなものを生み出す自然とそれを守ってきた先人への「誕生に感謝する心」、2つの思いを種火に込め、送り出した。

会津坂下町	7月7日
-------	------

栗村稻荷神社

会津坂下町では、町の伝統文化である「早乙女踊り」を継承している会津農林高等学校の生徒の代表と町長が、栗村稻荷神社の御田植祭の神事の際に、神社の灯明から種火を採った。

早乙女踊りを後世まで受け継いでいくため、早乙女踊りに関する皆さんの思いと、2020年度(令和2年度)コロナ禍により早乙女踊りを披露できなかった卒業生の思いを込め、全国の皆さんに届くよう送り出した。

湯川村	7月30日
-----	-------

湯川村公民館

湯川村では、湯川村立湯川中学校の生徒がマイギリ式で種火を起こした。

村の宝である子どもたちが、健やかに成長し、それぞれの夢を実現できるような未来への願いを種火に込めた。

柳津町	8月13日
-----	-------

福満虚空藏菩薩圓蔵寺

柳津町では、疫病退散の願いがこめられた「赤べこ伝説」発祥の寺「圓蔵寺」で、13日の縁日に御祈祷した際の灯明から種火を採った。

種火には、一日も早くコロナ禍が終息し、人と人との交流ができる平和な世界が戻ること、また、浪々と流れる只見川の豊かな水と、広大な森林を持つ奥会津の大自然とともに、美しい地球が永く続くことへの祈りを込めた。

三島町・金山町・昭和村	8月6日
-------------	------

三島町生涯学習センター「森の校舎カタクリ」

三島町、金山町、昭和村は、3町村合同で種火を起した。3町村の小学4~6年生が参加する合同行事の中で、昭和村の「からむし」、三島町の「桐」を火口に、マイギリ式火起こし器で火を起こし、その火を金山町の「漆ろうそく」へ移すことで、3町村の特産品・伝統文化をいかした種火とした。

それぞれの文化を持ち寄り、子どもたちが協力して火を起こすことで、絆を深めるとともに、パラアスリートのように、今自分たちが置かれている状況をポジティブなものとして捉え、お年寄りから子どもまで心地よく過ごせる地域づくりを目指していきたいという願いを込めた。

会津美里町	8月5日
-------	------

会津美里町役場

会津美里町では、古代の火起こしの道具を使用し、子どもたちに過去の火起こしを体験・学習する機会を提供しながら、種火を起した。

種火には、この行事を通じて子どもたちのパラリンピックへの興味・関心が高まり、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合えるような豊かな人間性を育んでもらいたいという願いを込めた。

X 組織の変遷

東京 2020 オリンピック・パラリンピック開催準備組織の変遷

2015年度(平成27年度)

文化スポーツ局文化振興課 (課長)	2人 (主幹) オリンピック・パラリンピック担当 (事2)
----------------------	--

2016年度(平成28年度)

文化スポーツ局スポーツ課 東京オリンピック・パラリンピック担当課長(事1)	8人 オリンピック・パラリンピック担当 (事5、教1、CIR1)
--	--

2017年度(平成29年度)

文化スポーツ局スポーツ課 東京オリンピック・パラリンピック担当課長(事1)	10人 調整担当主幹(事1) オリンピック・パラリンピック担当 (事6、教1、CIR1)
--	---

2018年度(平成30年度)

文化スポーツ局スポーツ課オリンピック・パラリンピック推進室 室長(事1)	12人 調整担当主幹(事1) 企画担当(事5、CIR1) 会場運営担当(事3、教1)
---	---

※組織委員会派遣(事3)

2019年度(令和元年度)

文化スポーツ局スポーツ課オリンピック・パラリンピック推進室 室長(事1)	23人 総合調整担当主幹(事1) 企画広報担当主幹(事1)	総合調整担当(事4) 会場運営担当(事6、警1)
		企画広報担当(事7、教1、CIR1)

※組織委員会派遣(事5、技1)

2020年度(令和2年度)

文化スポーツ局スポーツ課オリンピック・パラリンピック推進室 室長(事1)	23人 総合調整担当主幹(事1)	企画広報担当主幹(事1)	企画広報担当(事7、教1、CIR1)
			企画広報担当(事6、警1)

※組織委員会派遣(事7、技1)

2021年度(令和3年度)

文化スポーツ局スポーツ課オリンピック・パラリンピック推進室 室長(事1)	23人 総合調整担当主幹(事1)	企画広報担当主幹(事1)	企画広報担当(事6、教1、CIR1)
			会場運営担当(事6、警1)

※組織委員会派遣(事7、技1)

凡例
事……「一般事務」の職員
技……「一般事務」以外の職員
教……教育庁指導主事
警……警察職員
CIR……国際交流員

XI 年表

2011年(平成23年)

3月11日	東日本大震災の発生	第1章 I 1 (1)
7月16日	東京都が2020年オリンピック・パラリンピック競技大会開催都市に立候補を表明	第1章 I 1 (2)

2013年(平成25年)

9月7日	国際オリンピック委員会(IOC)総会(ブエノスアイレス)において、2020年オリンピック・パラリンピック競技大会開催都市が東京都に決定	第1章 I 1 (2)
------	---	-------------

2014年(平成26年)

1月20日	福島県知事を本部長とする2020年東京オリンピック・パラリンピック関連事業推進本部の設置	第1章 I 2
12月12日	内堀知事が12月議会で福島県への競技誘致を目指す意向を表明	第1章 I 3 (1)

2016年(平成28年)

2月8日	2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会復興推進ふくしまアクションプランの策定	第1章 I 2
8月3日	IOC総会(リオデジャネイロ)において、東京2020大会の追加種目として5競技(野球・ソフトボール、空手、スケートボード、スポーツクライミング、サーフィン)18種目が決定	第1章 I 3 (2)
8月31日	組織委員会に対し、「野球・ソフトボール競技の本県開催に関する要望書」を提出	第1章 I 3 (4)
11月19日	世界野球ソフトボール連盟(WBSC)のフラッカーリ会長が来県し、県内の施設を視察	第1章 I 3 (4)

2017年(平成29年)

3月17日	IOC理事会(平昌)において、県営あづま球場が野球・ソフトボール競技の会場として承認	第1章 I 3 (4)
7月24日	3年前カウントダウンイベント「第1回東京2020オリンピック・パラリンピック復興ふくしま推進会議 &ふくしま大交流ミーティング」@ホテル福島グリーンパレス(福島市)	第1章 II 1 (2)
10月28日	1000日前カウントダウンイベント「ふくしまアイデアコンテスト」@あづま総合体育館(福島市)	第1章 II 2 (1)
11月25日	1000日前カウントダウンイベント「福島県・横浜市少年野球交流試合」@横浜スタジアム(横浜市)	第1章 II 2 (2)

2018年(平成30年)

6月23日	日米対抗ソフトボール2018 @県営あづま球場(福島市)	第1章 III 1
7月12日	組織委員会がオリンピック聖火リレー日程及び福島県から出発(グランドスタート)することを発表	第6章 I 1 (2)
7月24日	2年前カウントダウンイベント「第2回東京2020オリンピック・パラリンピック復興ふくしま推進会議 &ふくしま大交流ミーティング」@ホテル福島グリーンパレス(福島市)	第1章 II 1 (3)
8月24日	東京2020オリンピック聖火リレーふくしま実行委員会の設立	第6章 I 1 (1)
9月12日	組織委員会が、県営あづま球場における試合数を、野球1試合、ソフトボール6試合と発表	第1章 I 3 (5)
11月24日	IOCのバッハ会長、安倍総理大臣が来県し、県営あづま球場を視察	第1章 I 4
12月14日	福島県都市ボランティアの募集開始(2019年(平成31年)2月28日まで)	第2章 II 1

2019年(平成31年・令和元年)

1月16日	555日前カウントダウンイベント @郡山市立赤木小学校体育館(郡山市)	第1章 II 3
3月12日	組織委員会が「復興の火」の日程・会場及びオリンピック聖火リレーランドスタートの会場をJヴィレッジに決定したことを発表	第6章 I 1 (2)
3月24日	500日前カウントダウンイベント @イオンモールいわき小名浜、アクアマリンパーク、小名浜潮目交流館(すべていわき市)	第1章 II 4
4月16日	組織委員会が、野球・ソフトボール競技を含む全競技の日程を発表	第1章 I 3 (5)
5月26日	都市ボランティアを対象としたオリエンテーションを県内4か所と東京都で実施(7月16日まで)	第2章 II 2 (1)

6月1日	組織委員会がオリンピック聖火リレールート概要を発表	第6章 I 2 (2)
7月1日	オリンピック聖火ランナー募集開始（8月31日まで）	第6章 I 2 (1)
7月24日	1年前カウントダウンイベント「第3回東京2020オリンピック・パラリンピック復興ふくしま推進会議 &ふくしま大交流ミーティング」 @ホテル福島グリーンパレス（福島市）	第1章 II 1 (4)
8月25日	都市ボランティア交流イベント「City Cast Fukushima ミートアップ！」 @福島県自治会館（福島市）	第2章 II 2 (2)
9月28日	2019プロ野球イースタン・リーグ公式戦 @県営あづま球場（福島市）	第1章 III 2
10月5日	300日前カウントダウンイベント @県営あづま球場（福島市）	第1章 II 5
10月5日 10月6日	第52回日本女子ソフトボールリーグ1部第8節 @県営あづま球場（福島市）	第1章 III 3 第2章 II 2 (3)
10月10日	内堀知事がスイス・ローザンヌのIOC本部とWBSC本部を訪問	第1章 I 6
11月10日	都市ボランティアを対象とした共通研修を県内4か所と東京都で実施（12月15日まで）	第2章 II 2 (4)
11月21日	内堀知事が第3回WBSC総会（堺市）に出席	第1章 I 7
12月17日	組織委員会がオリンピック聖火リレールート詳細を発表	第6章 I 2 (2)
12月25日	オリンピック聖火ランナー（公募枠）の発表	第6章 I 2 (1)
2020年（令和2年）		
1月27日	オリンピック聖火リレーPRランナーの発表	第6章 I 2 (1)
3月12日	オリンピック聖火採火式 @ギリシャ・オリンピア	第6章 I 1 (2)
3月17日	組織委員会がオリンピック聖火リレーの沿道での観覧自粛、セレブレーションでのステージプログラムや一般観覧の中止等を発表	第6章 I 1 (2)
3月24日	東京2020大会の延期決定	第1章 I 8 (1)
3月24日	「復興の火」の展示 @福島駅東口駅前広場（福島市）	第6章 I 4 (1)
3月25日	「復興の火」の展示 @アクアマリンパーク（いわき市）	第6章 I 4 (1)
3月30日	東京2020大会延期後の競技日程の決定	第1章 I 8 (2)
4月1日	オリンピック聖火展示（4月7日まで） @Jヴィレッジ（楢葉町・広野町）	第6章 I 4 (2)
9月28日	組織委員会がオリンピック聖火リレー実施概要を発表	第6章 I 1 (2)
12月13日	都市ボランティア交流イベント「第2回City Cast Fukushima ミートアップ！」 @Jヴィレッジ（楢葉町・広野町）	第2章 II 4 (3)
12月15日	組織委員会がオリンピック聖火リレー実施市町村・詳細ルート等を発表	第6章 I 2 (2)
2021年（令和3年）		
2月25日	組織委員会が聖火リレーにおける新型コロナウィルス感染症対策ガイドラインを発表	第6章 I 1 (2)
3月20日	五者協議（IOC、IPC、東京都、組織委員会、国）により、東京2020大会における海外観客の日本への受け入れを断念	第1章 I 9 (1)
3月25日	オリンピック聖火リレー1日目 グランドスタートセレモニー：Jヴィレッジ 走行区間：Jヴィレッジ・楢葉町・広野町・川内村・いわき市・富岡町・葛尾村・双葉町・大熊町・浪江町・南相馬市 セレブレーション：南相馬市 雲雀ヶ原祭場地	第6章 I 3 (1) (2)
3月26日	オリンピック聖火リレー2日目 走行区間：相馬市・飯舘村・新地町・川俣町・福島市・猪苗代町・三島町①・三島町②・喜多方市・会津若松市 セレブレーション：会津若松市 鶴ヶ城公園市営駐車場（鶴ヶ城西出丸）	第6章 I 3 (2)

3月27日	オリンピック聖火リレー3日目 走行区間：南会津町・下郷町・白河市・本宮市・須賀川市・田村市・郡山市 セレブレーション：郡山市 開成山公園自由広場	第6章 I 3 (2)
5月21日	都市ボランティアのリーダーを対象としたリーダー研修をオンラインで実施（5月30日まで）	第2章 II 4 (5)
5月29日	しあわせはこぶ旅 モッコが復興を歩む東北からTOKYOへ in ふくしま @雲雀ヶ原祭場地（南相馬市）	第2章 V 1
6月11日	都市ボランティアを対象とした配置場所別研修を県内で実施（7月10日まで）	第2章 II 4 (5)
6月18日	福島県が郡山市で開催予定であった「東京2020ライブサイト」を中止することを発表	第2章 III 6
6月28日	あづま総合運動公園内で予定していた、福島県の復興状況や魅力を発信するイベントを中止し、観客向けの休憩所に内容を変更することを発表	第2章 III 7
6月29日	東京都が会津若松市といわき市で開催予定であった「東京2020ライブサイト」を中止することを発表	第2章 III 6
7月8日	第4回2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた関係自治体等連絡協議会において、福島会場の有観客開催が決定。定員14,300人の2分の1の7,150人を観客上限とした	第1章 I 9 (2)
7月10日	内堀知事の臨時記者会見で、同日、福島県での野球・ソフトボール競技を「無観客」で行うよう組織委員会に要請し、了承されたことを発表	第1章 I 9 (2)
7月21日 7月22日	東京オリンピックソフトボール競技 @福島あづま球場（福島市）	第2章 I 1
7月23日	東京オリンピック開会式 @オリンピックスタジアム（東京都）	第2章 IV 1 (1)
7月28日	東京オリンピック野球競技 @福島あづま球場（福島市）	第2章 I 2
8月8日	東京オリンピック閉会式 @オリンピックスタジアム（東京都）	第2章 IV 1 (2)
8月12日	パラリンピック聖火フェスティバル「浜通りの火」採火式 @Jヴィレッジ（楢葉町・広野町）	第6章 II 2 (2)
8月13日	パラリンピック聖火フェスティバル「中通りの火」採火式 @四季の里（福島市）	第6章 II 2 (2)
8月14日	パラリンピック聖火フェスティバル「会津の火」採火式 @亀ヶ城公園（猪苗代町）	第6章 II 2 (2)
8月15日	パラリンピック聖火フェスティバル県内集火・出立式 @開成山陸上競技場（郡山市）	第6章 II 2 (3)
8月20日	パラリンピック聖火フェスティバル集火式（全国） @迎賓館赤坂離宮（東京都）	第6章 II 2 (4)
8月21日	パラリンピック聖火リレー（8月24日まで）	第6章 II 2 (5)
9月16日	侍ジャパン稲葉監督、ソフトジャパン宇津木ヘッドコーチによる知事表敬訪問	第4章 V 1
11月3日	SOFT JAPANゴールドメダリストセレモニー @県営あづま球場（福島市）	第4章 V 2
11月6日 11月7日	第54回女子ソフトボールリーグ1部決勝トーナメント @県営あづま球場（福島市）	第2章 II 6 (2) 第4章 V
12月7日	県営あづま球場前に東京2020オリンピック野球・ソフトボール競技開催記念碑と銘板を設置	第4章 I
12月18日	Jヴィレッジに東京2020復興のモニュメントを設置	第4章 III
12月19日	都市ボランティア交流イベント「第3回City Cast Fukushima ミートアップ！」 @福島県自治会館（福島市）	第2章 II 6 (3)
2022年（令和4年）		
1月11日	あづま総合運動公園内に野球・ソフトボール競技の選手ゆかりの品や大会関連の品を展示	第4章 II
1月15日	オリンピックコンサート2022 in ふくしま @郡山市民文化センター（郡山市）	第2章 II 6 (5) 第4章 VI
1月17日	東京2020表彰台レガシープロジェクト贈呈式 @ふたば未来学園中学校・高等学校（広野町）	第4章 VII

※日付は現地時間、名称や肩書などは当時のものです。

**東京 2020
オリンピック・パラリンピック競技大会
福島県記録誌**

2022年(令和4年)3月 発行

発行者 福島県 企画調整部 文化スポーツ局
オリンピック・パラリンピック推進室

住 所 福島県福島市杉妻町2番16号
電 話 024-521-1111 (代表)

福島県